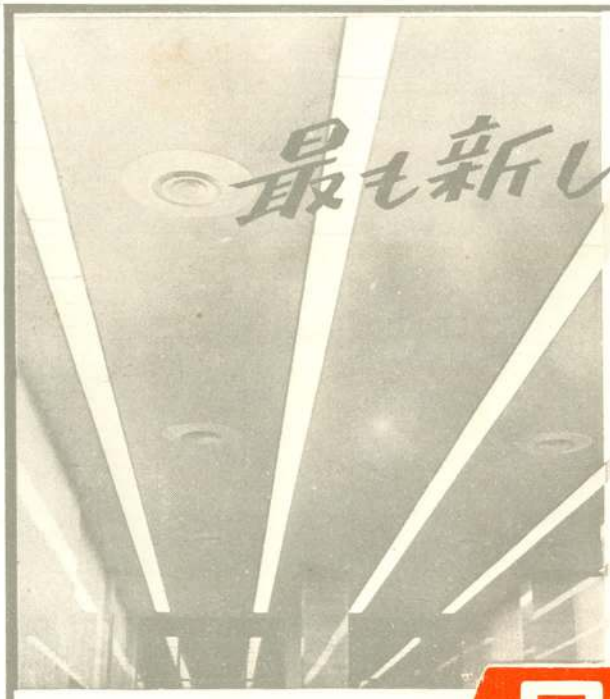
昭和24年3月19日第3種郵便物認可 昭和32年6月20日印刷 昭和32年6月25日発行 第38輯第6号(毎月1回25日発行)

建築と社会

日本建築協会

新人特集号

1957—6



最も新しい

独特の点灯方式！

日立スーパーラピッド螢光灯は……
- グローランプがいりません。
- 多数灯を約1秒で一斉に点灯することが出来ます。
- 低電圧でも点灯します。
- 取付配線は極めて簡単でアース線を取る必要がありません。
- 導電板が不要です。
- ラジオ雑音がほとんどありません。
- 高力率型です。

スーパーラピッド 日立螢光灯

日立家庭電器販賣株式會社　日立製作所

TRADE MARK



DOG

メンブレン式防水

の補強材料は30年の経厂を誇る

ドッグ印で!!

ドツグ印	アスファルトルーフィング
〃	アスファルトフエルト
〃	砂付ルーフィング
〃	メルタイトルーフィング
〃	キンマレアタイト（高級濃青金麻布）
〃	ヘツシヤンファブリツク（濃青黄麻布）
〃	コツトンファブリツク（濃青綿布）
〃	白麻ファブリツク（濃青苧麻布）
〃	ゲオンタイト（伸縮目地板）

地下鉄道、高架鉄道の如き激しい震動箇所でも弊社製品は完璧の防水効果を発揮して居ります

型録・見本・仕様書
御報呈上

日本工業規格表示許可工場

株式会社工英社

大阪市西成区橘通9丁目24番地　電話天下茶屋㈹8861・8862番

LIGHTGAGE STELL

(ライトゲージ)
軽量形鋼

簡易鋼矢板
(トレンチシート)

理想的不燃建築桟

耐火　耐震・耐久
鋼桟使用量の軽減
取扱簡易・工期短縮

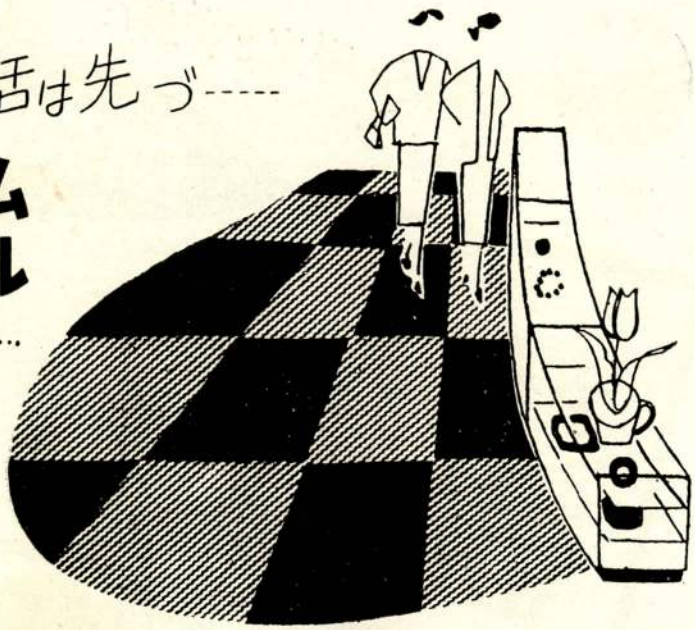
我が国唯一の設備
連続式冷間整形
ロール機による優秀製品

ガス・水道管等の
地下埋没工事の仮土止
河川工事の締切・干拓
及び護岸工事に最適

中之島製鋼株式会社
大阪市東区北天町4番地 TEL東(94)5031~5

文化的な生活は先づ……

リノリューム
リノタイル
の使用から……



東洋リノリューム株式會社

本社工場 伊丹市伊丹五五八電伊丹(代)3531
東京支店 中央区銀座西・三和ビル 電京橋1701
大阪事務所 東区瓦町二・三和ビル 電北浜375・376



シーリングパテ NO.1001

窓ガラス防水パテ，スレート又はボード類の間隙充填に



NO.195

吸音板，防熱板を天井壁面及びダクト面に



NO.601

工，竹工，合板に，水に強い，安い，使い易い

建築用 セメダイン

セメダイン株式会社

本社　東京都千代田区神田　TEL ㊽3131
支店　大阪市南区大宝寺東　TEL ㉗3456

アサヒ

建築の耐火と美装に

燃えない資材!!

耐火ボード

優秀な効果．吸音耐火ボード……

アサヒトーン ▶▶

木摺に代る理想的な壁下地……

石膏ラスボード ▶▶

均一な品質．優雅な仕上り……

石膏プラスター ▶▶

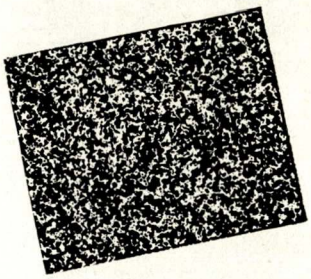
カタログ進呈

大阪耐火ボード株式會社

本社　大阪市北区絹笠町50番地堂ビル
電話㊱4033・4034・7609番㊱1141番
東京営業所　東京都千代田区神田東松下町46番地
電話神田㉕2938・5801番

ビニアスタイル
アスタイル

（2耗厚）





藤森工業株式会社

本　　社　東京都中央区日本橋通1－5（中内ビル）
専用電話東京（28）6271～2番
大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1丁目1番地
大同ビル709号室
電話土佐堀（44）0225・7569（直通）
3131（ビル交換）

白蟻退治に!!

化 マルカ



ANTOX
アントックス
白蟻駆除剤



コンクリートでも
穴をあける白蟻……

葉書にてカタログ呈

家が倒れるまで被害に気づかない，おそろしい白蟻に対して，アントックスは絶大な偉力を示します。アントックスはペンタクロロフェノール，多塩化ベンゼン，γ，BHCなどを主成分とし防腐・忌避剤を配合したものであります。
無色の油剤で，使用法も簡単，効果は長時間持続し，変質もなく，防蟻，殺蟻，防腐などの作用を強力に兼備しております。価格も低廉です。

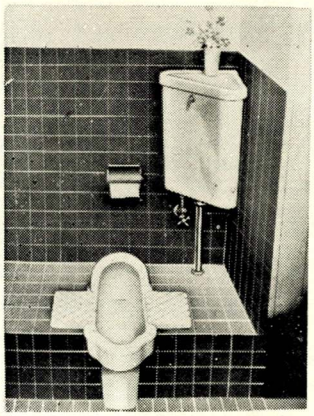
大阪化成株式会社
本社・大阪市南区心斎橋北詰　電（25）631～635
支社・東京都中央区西八丁堀1の3
電（55）2300・5055

東洋陶器の衛生陶器と附属金具

（衛陶マーク）

Toyotoki

（金具マーク）



新製品
S—170
スミ付ロータンク

弊社は本社・茅ヶ崎の各衛陶工場及び金具工場共にＪＩＳの指定を受けた唯一の衛生器具総合メーカーです

品質管理の優秀な
東洋陶器製品をセットで御使用下さい

東洋陶器株式會社

本　社
小倉市篠崎町458
ＴＥＬ ⑤2481～5

大阪営業所　大阪市東区伏見町５の３　ＴＥＬ ㉓4518～9
各地営業所　東京・名古屋・小倉・広島・高松・札幌

茅ケ崎工場
神奈川県茅ケ崎市
ＴＥＬ 2105～8

ビニール製　壁・襖貼材料

ロンフイックス



特殊加工がしてありますから，どんな糊でも又素人でも容易に貼れます。
インク，油，手垢等の汚れも石鹸水できれいにとれて水拭が可能です。　（特許出願中）

床材料の決定版！

ロンリウム

（ビニール製）



東京地下鉄・東急，新車に使用されています。
それは感触が柔らかく，手入れが簡単でしかも毎日多数の乗降者に耐え得る等その特性が他の床材より優れている事が認められたからです。
標準寸法幅6尺×長30碼×厚2.5粍（１巻15坪）

川口ゴム工業株式会社

東京都葛飾区本田四ツ木町54　　電話葛飾（69）1946—9
（全国有名内装工事店に御照会下さい）　　（カタログ贈呈）

住宅美素工事の創始者

◉新築住宅に拭込手入のいらぬ美素工事
◉古い住宅が新築同様となる美素工事
◉20有余年実施、改良を加えた美素クリーム使用

ビルディングの床・ガラスの月極清掃工事

美素ワツクス・美素水性ワツクス使用

大阪市東区瓦町弐丁目
（三和ビル）

株式会社 **美素工業所**

電話 (23) 5888 / 4938 / (77) 8050

建物クリーニングとシリコーン防水

◎美素式ビルデイング洗浄工事
◎建物外壁サンドブラスト工事
◎建物外壁各種吹付工事

シリコーン美素式防水工事

米国ダウ・コーニング会社製のシリコーンを原料
として作られた最新強力防水剤エバーシール使用
溶剤は高級溶剤を使用し屢黄色変化を来たす石油剤を使用せず

大阪市東区瓦町弐丁目
（三和ビル）
株式会社 **美素工業所**
電話 (23) 5888 / 4938 / (77) 8050

通常郵便振込
料金加入
者負担

払込票

口座番号	※	大阪	十	万	千	百	十	番
				3	9	9	7	5

加入者名 ※ 日本建築協会

金額	※	億	千	百	十	万	千	百	十	円

払込人住所氏名 ※

料金	払込	特殊	円	受付局日附印
備考				

局番号印

記載事項を訂正した場合は、その箇所に証印して下さい。
各票の記載事項に間違のないことをお確め下さい。

（郵政省）

通常郵便振込
料金加入
者負担

払込通知票

口座番号	※	大阪	十	万	千	百	十	番
				3	9	9	7	5

加入者名 ※ 日本建築協会

金額	※	億	千	百	十	万	千	百	十	円

払込人住所氏名 ※

備考		受付局日附印

文字は正確、明りように、数字はアラビヤ数字を使つてお書き下さい。
各票の※印欄は、払込人において記載して下さい。

（郵政省）

この欄は、加入者あての通信にお使い下さい。

通信欄

¥.....円也

会費

自 昭和　年　月

至 昭和　年　月

第 1 回「若い会員の集い」について

第 1 回「若 い 会 員 の 集 い」に つ い て

かねてより会員の皆様，ことに若い方々の御希望をいただいておりました「若い会員の集い」をつぎのような企画で実行に移したいと存じます。

と き　6月13日（木）午後6時～8時

ところ　本会地下談話室

テーマ　大阪の建物と建築家，「建築と社会」――をめぐる放談

参加者　若い会員の方なら誰でも（年令は問いません）

●なお，足立（阪大），馬場（阪大），鳥田（神大）の三先生にとくに御参加を願うことになっております。

この度の企画は若い会員がフリーに心おきなく話をかわせる機会を永続的にもつことがそのねらいですので，そのため，堅苦しい雰囲気をさけ，ことに固定したテーマをもつ必要もないわけで，話は建築のことから他のもろもろの話に飛ぶのも大いに結構，お互に顔を合わせ言葉をかわす間にまた新しい話題も産まれるでしょうし，今後の方針も見出されるでしょう。ともあれ，案ずるよりは産むが易し，肩張らず気軽に皆さんお越し下さい。なお，会の性質上，夕食もワリカンで手軽に共にしたいと存じます。あらかじめお含みおき下さい。

事業委員会「若い会員の集い」小委員会主査　三 品 哲 夫

本誌への投稿歓迎

本 誌 へ の 投 稿 歓 迎

「建築と社会」誌をよくするために編集委員会においても，また会勢審議会でも色々と協議いたしておりますが，会員諸兄の御批判なり御投稿によってこの雑誌を読み易く親しみ易いものにしたいと念願しております。

「会員の声」＝従来の「紫煙室」向きのような随想でも結構です。また雑誌に対する批判，小評論，あるいは地方建築のニュース，職場のグループのニュース等歓迎します。字数は400字（原稿用紙1枚）がよいのですが，別に制限は設けませんので自由に御投稿下さい。

「論　　文」＝研究会，サークルなどでまとまった一つの論文も歓迎します。

「作　　品」＝作品の場合は，写真，プラン（黒インキング），概要「設計者・施工者のことば」をつけて下さい。

以上，投稿期日は自由です。ふるって御投稿下さいますようお願い申しあげます。

昭和32年5月25日

社団法人　日本建築協会編集委員会

会費払込みお願い

会 費 払 込 み お 願 い

6月5日付で，本年度上期会費の御請求を申しあげますので，本月号挿込の振替用紙を御利用の上，至急御払込下さるようお願い申しあげます。

日 本 建 築 協 会

1958年度会員名簿発行予告

1958年度会員名簿
発行予告

名簿の調製発行は多数会員を容する団体としては容易ならぬ難事業とされていますが，本会としては斯界の発展と共に会員各位の活躍移動も多々あり，加うるに新会員の数も漸次増加していますので，今般1957年版新名簿を本年度内に発行する事とし，着々と準備を進めております。この度は一般の要望に応えて会員名簿の正確詳記を期するは勿論建設業に関連する各面に亘る案内欄をも多数に取入れ各位の用途に便する事と致しました。

調製内容は概ね下記の要項で、発行は今年11月末日を期しております。

就いては **本号挿入会員調査票の私製ハガキ（郵料受取人払）に所定事項御記入の上、折返し御送附下さい。** 尚，この際新会員獲得に御援助下さいまして本会会勢発展に御協力下さる様切望します。

尚，業者案内欄の申込にも格別の御協力と御支援を御願い致します。

発　行　計　画

発行計画

大きさ体裁等	A 5版，6号横組，用紙更上紙，約300頁。 発行部数　5000部＜6000部予定。
編集内容	目次，凡例，定款，名誉顧問，役員，部会委員会，事務局，本文（正会員，団体会員，准会員，氏名，出身校，勤務先，職名，住所）官公庁，学校，団体建築事務所，各業者案内，特別広告。
領布方法	全会員，広告主に一部限り無料配布。(但し郵料負担)
発行期日	昭和32年11月末日の予定。



会員倍加運動に御協力下さい。昭和32年8月31日迄に入会の方は名簿に掲載いたします。この入会申込書を有効御利用の上会員増加に御尽力お願いします。

なお，上段のハガキは会告の通り会員名簿調製につき左記事項折返し御回報下さる様御願い申上げます。御移動のない方も是非御回答を煩します。勤務先等は局，部，課，係等なるべく詳細に御記入願います。

1957年6月

社団法人　日　本　建　築　協　会
大阪市東区北浜3丁目37　TEL㉓9648・9649・9640
振替口座大阪39975番

建築事務所，業者案内概要と掲載料金並一般広告料金

1. 原稿は別紙原稿用紙に明瞭に記入の上**7月20日**迄に申込みのこと。
1. 記載字数は裏面組見本参照の上換算字数程度，文字，数字に限る。マーク図案等は用いない。尚字数が枠内に収らないときは略記することもある。

掲載順序はすべて50音順とする。

1. 掲載料は**1小間1,000円**（1頁12小間）とし**前金払込**みのこと。同封の振替用紙御利用願います。

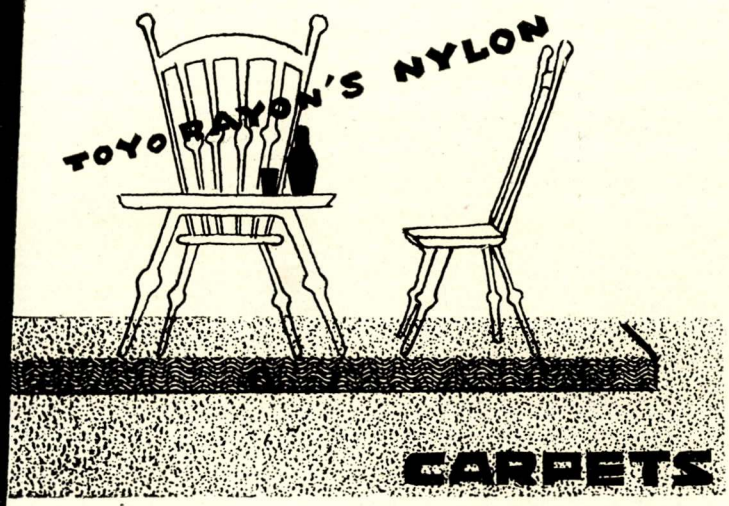
建築事務所，業者案内組見本

〔建築事務所案内〕

店　　名	所　　在　　地	電　　話
東洋建築事務所	本　店　大阪市中之島朝日ビル 支　店　東京・名古屋・博多	北浜 1045 4372

〔業者，綜合，電気，管工，建材其他業者案内〕

店　　名	営　業　科　目	所　　在　　地	電　　話
朝日建材株式会社	スレート，瓦，防水工事，衛生，暖房，責任施行	本店　大阪市東区 支店　神戸市生田町東町1丁目5	北浜 3151—2 元町 123—1



ナイロンで出来た
新しいカーペット！

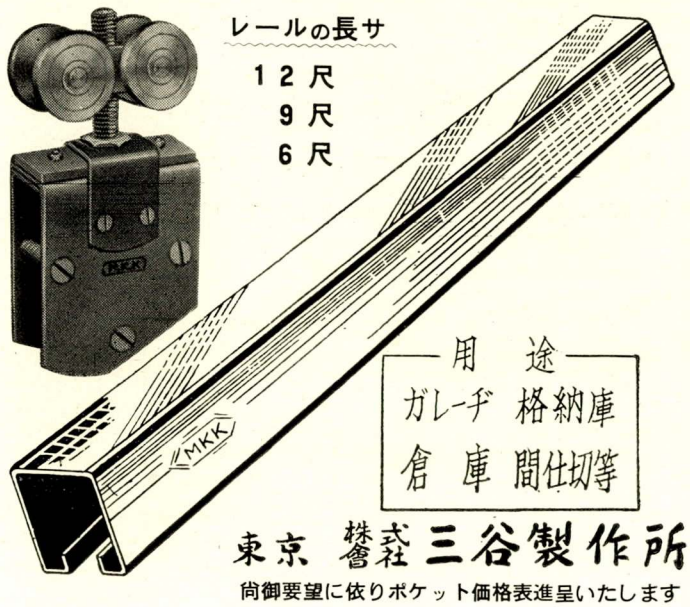
東洋レーヨンの
ナイロン 緞通・絨氈

東洋レーヨンのナイロン緞通・絨氈は100％スパンナイロン糸を使用したもので

☆弾力性に富んでいます
☆驚く程摩擦に強い
☆吸塵性が非常に少ない
☆虫の害を全く受けません

東洋レーヨン株式会社
発売元 株式会社 泉商会
大阪市北区宗是町1大ビル150号 TEL(44)2736～9

設計の時からドアーハンガーは M.K.K



レールの長サ
12尺
9尺
6尺

用途
ガレーヂ 格納庫
倉庫 間仕切等

東京 株式會社 三谷製作所
尚御要望に依りポケット価格表進呈いたします

★御用命は下記代理店へお願いします

株式会社 石倉商店
小野藤金物株式会社
合資会社 和田末商店
月虎金属株式会社
株式会社中村多喜弥商店
松本金物株式会社
株式会社 丸喜商店
深見金物株式会社
湯浅金物株式会社
清水金物株式会社
株式会社 日垣本社
株式会社 平尾商店

第1回青年建築家

富家宏泰
坂田美郎
今西茂雄
三田一男
渡辺禎己
森下裕良
平生舜一
長谷川元耶
吉田隆一
松村慶三
稲葉寛明
片山光生
宮武保義
小林章
小林亜太
近藤正志
太田伝一郎

(昭和29年6月号より再録)

第2回青年建築家

鈴木英夫
梅田孝治
浜田和夫
富田三樹夫
薬袋公明
佐久間宏
高橋則夫
櫛田清
栄木一成
加藤啓治

(昭和30年6月号より再録)

第3回青年建築家

佳田栄次郎
石中達夫
井上滉
嶋村隆次
小西敏哲
八木彰
吉岡吉雄
内藤薫男
倉石秀夫
力武利失

(昭和31年6月号より再録)

建築と社会

6

新人特集

表紙デザイン：岩本博行

建築と社会
第38集・第6号
売価1部130円・送料共
昭和32年6月20日印刷
昭和32年6月25日発行
発行所 社団法人 日本建築協会
大阪市東区北浜3丁目37
電話 北浜㉙9648・9649・9640番
振替口座大阪39975番
発行人 沖田誠一
編集人 松井昭光
印刷所 株式会社研文社
大阪市北区堂山町66
電話㉙2091～3番
印刷者 樹野栄

1957年6月号目次

新人作品または論文

市川宏……富士写真フィルム研究所……12
三川栄吉……灘高等学校記念館……14
山本智雄……三菱石油給油所3点……16
陶村功……興服産業株式会社大阪支店……18
北田正利……神戸大映……20
山本俊介……播磨造船所相生工場綜合事務所……22
宮川達郎……広島県庁議事堂・坂出市庁舎・他……24
松浦直一／鍛治延男……びわ湖観光センター(仮称)……26
TDグループ……共同施設を中心にして，棟の群構成を追求した団地計画案……28
後藤摂二……小時計店試案……30
北村隆夫……コマ劇場機構設計のアレンジをして……31
竹原義昭……設備工事を担当して……36
坂本勝比古……不安感論争が導くもの——構造とデザインと——……38

スケッチブック
近畿・大学・工高卒業設計コンクール入選作1957年……42

青年建築家座談会……45
新人紹介にはどんな功罪があるのか：
若い人が活動するのに
ディスカッションはどうあるべきか：
仕事と生活の悩みはあるけれども：

原子力発電と建設技術……室井修……55

設備原論Q・A
10. 同時使用率はどのようにして決められているか……59

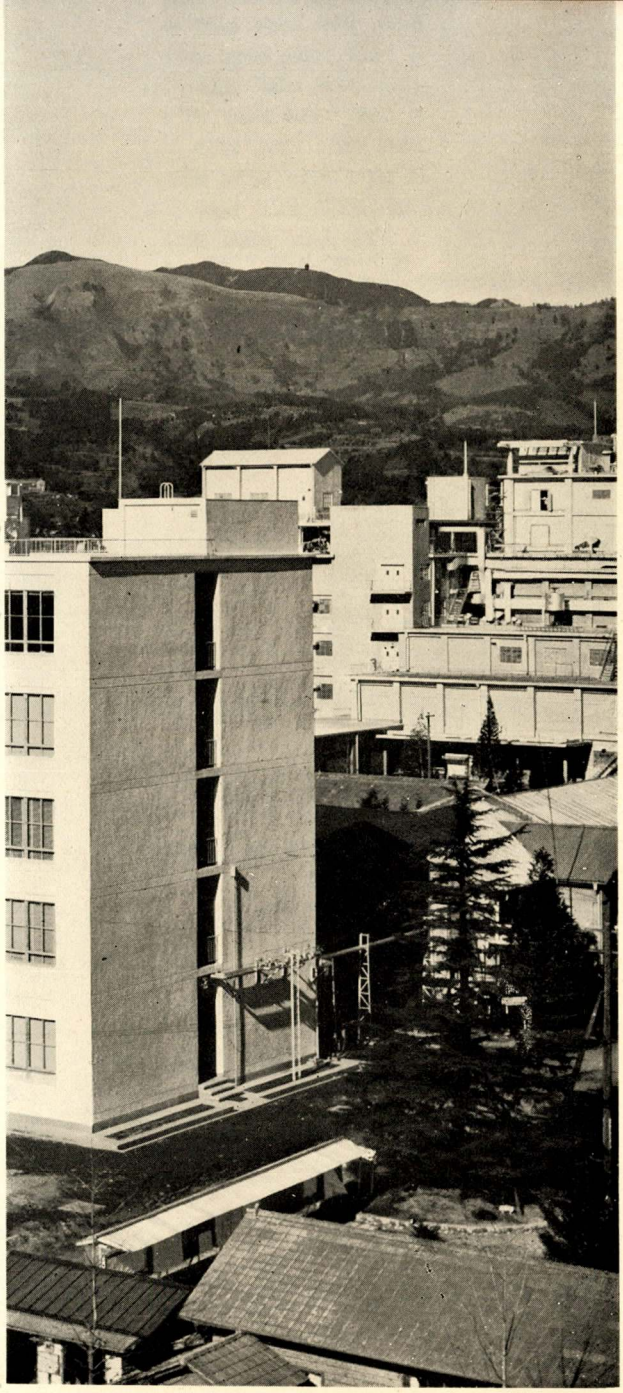
会合便り……62
昭和32年度委員会委員氏名……66

「建築の眼」欄：本号は休みます。来月号より新執筆者で継続いたします。



富士写真フィルム研究所

神奈川県南足柄郡
鉄筋コンクリート5階建
総延坪　2,010坪
設計監理　K.K. 東畑建築事務所
工事監督　松永崇志
施工者　K.K. 大林組横浜支店



市　川　　宏



大正13年生

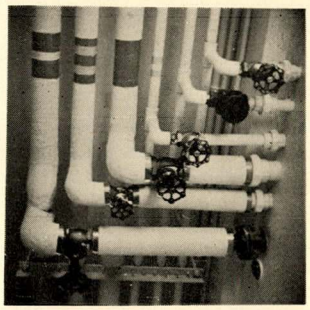
昭和25年3月
京都大学建築学科卒

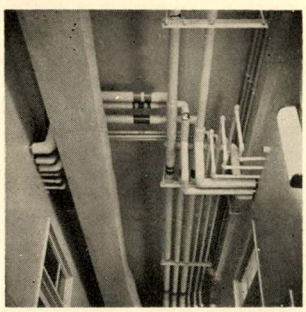
現在　K.K.東畑建築
事務所所員

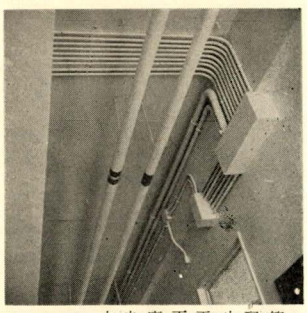
すいせんのことば　　東畑謙三

市川君は学窓を出てしばらく大学に残り，その後一両年，K.K.松村組で現場技術を修業して，数年前K.K.東畑建築事務所に入社，その後所内にあつて私と協力している若い建築設計グループの一人である。最近健康を害して目下静養中なので代つてすいせん致します。

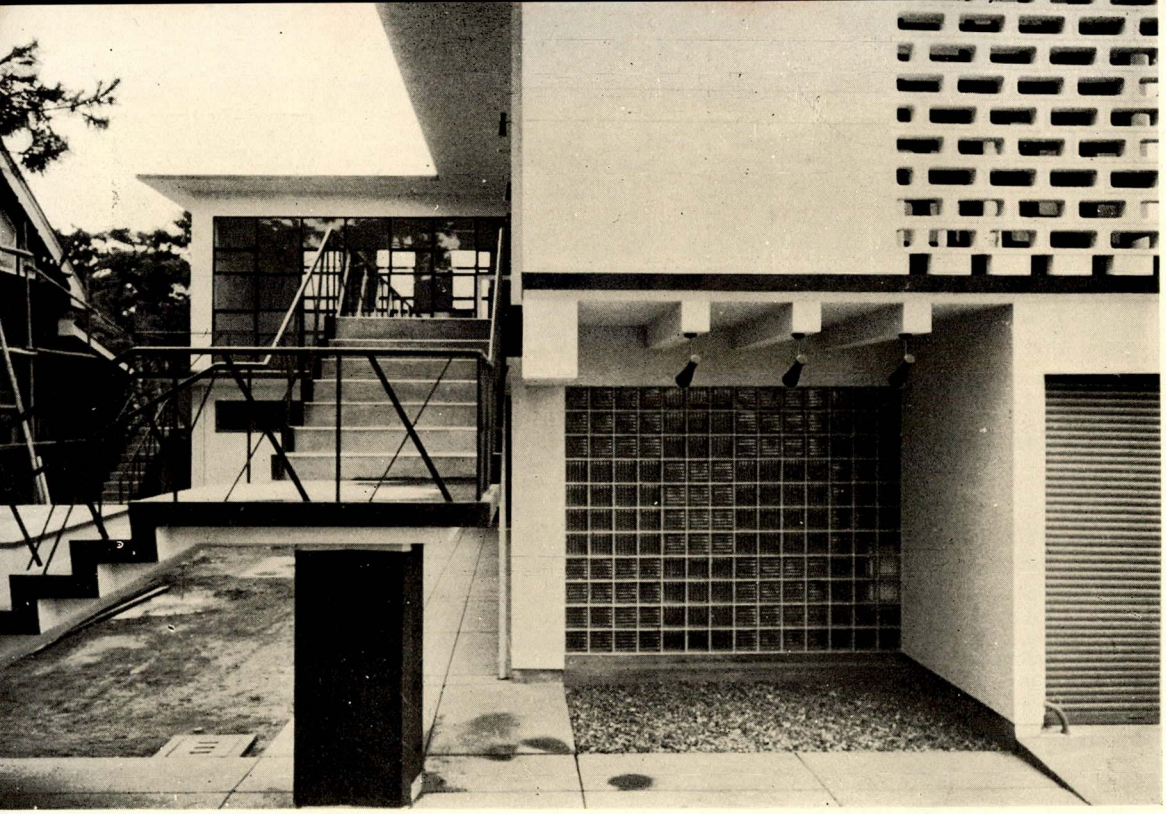
最近の建築物はいずれも量において大きなものとなると同時に，質においても特異なものが多くなつてきた。建築学術の分野が広くなつてきたことは事実である。意匠だけが上手であつても，とてもまとまるものではない。ここに発表する研究所も恐らく戦後できたこの種のものの最大なものであるが，この建築工事費と附帯設備費との割合は1：1になつている。こうなるといずれが附帯かわからない。各室，自由調整のできる恒温恒湿設備を始め，熱源でも，ガス，電熱，それから水源でも雑用水，蒸溜水，熱湯等，また排水が酸性，アルカリ性等それに研究所特異の電気，排気等，サイエンスのかたまりのようなのが研究所の建築である。サイエンスは素直に物を判断せなければまとまるものではない。この研究所の設計を担当した市川君も，この辺の“こつ”をよく考えて，何ともないデザインであるところにこの建物の良きところがあると信じ，あえてすいせんする次第であります。







中央廊下天井配管



灘高等学校記念館

設計について： 記念館を建築するのに与えられた環境は周囲のつまつた展望のきかぬ，あまり良い敷地ではなかつた。ここに建てる建物の性格は，記念館ということで，落着いて理智的な意じのある内にも，のびのびとした開放的なものを創りたいと考えた。

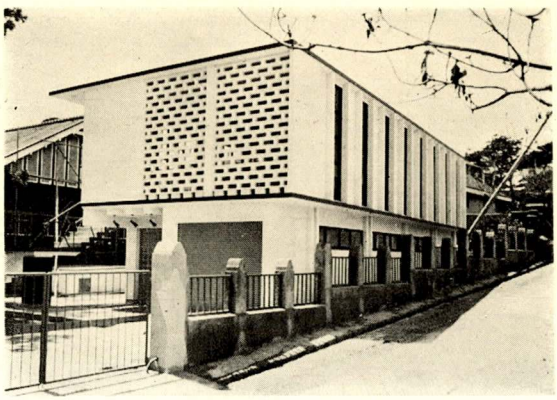
平面は，敷地の都合上，建物の長さが取れないので，必然的にL字型のプランニングになつてしまつた。このことは要求のあつた室を，シンプルに配しただけであるが，各室の連絡と，動線の短縮が図られ，小さな建物を，視覚的に拡大して捉えさせ，包擁性のある空間を，創りあげることができた。

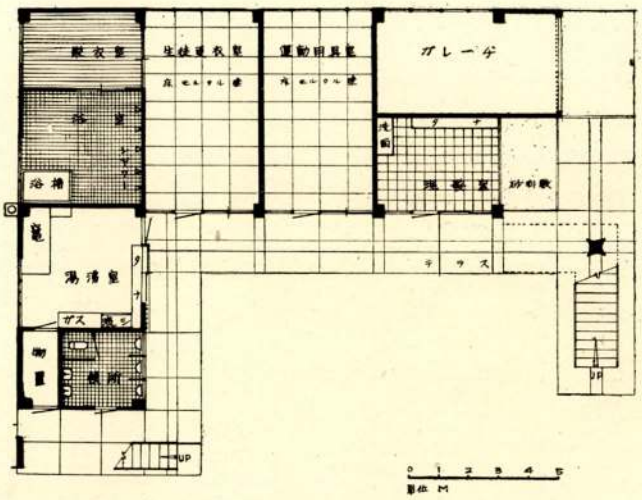
廊下は一二階とも取らず，二階はバルコニーを通路として，庇を深く出し，思索的な雰囲気の醸成を図り，階段も外部から視聴覚室へのつながりと，効用を考えて，造型的に処理した。

色彩計画は，全体に渋い色調を用い，窓枠廻りは，グレーにダークブリユーを配し，外観は白い壁体に，庇とバルコニーの見付を，黒の人造研出仕上とした。

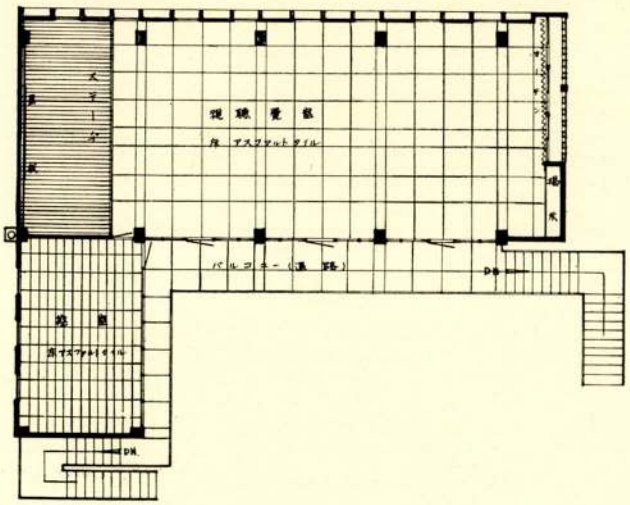
視聴覚室は，普通音楽教室として使われるが，会議，映写，演劇等多用にも使えるように意図した。音響は机上計算をなし壁はリバーベニヤ貼，天井はアコースティツクス貼とし，背面には，ラシヤ貼の掲示板と，ダークグリーンのベロアのカーテンを使用した。結果は目的を達したように思われる。なお，階段脇の砂利敷の場所には，彫塑を置くことになつている。

（三川栄吉）





1 階



2 階



三　川　栄　吉

生れ年　大正14年10月24日生

学　歴　神戸工業専門学校建築科
昭和22年卒

現　職　兵庫県建築課

現住所　神戸市生田区庄山町一丁目七

作品略歴

神戸医大臨床講堂	昭和29年
篠山農校講堂	昭和30年
明石高校校舎	昭和31年
兵庫県神戸サービスステーション	昭和31年
兵庫県八鹿警察署	昭和31年
兵庫県須磨警察署	昭和32年
兵庫県勤労者住宅懸賞設計応募三席入選	昭和31年度
岡本公務員住宅	昭和30年
八鹿署長公舎	昭和31年
甲陽園の住宅	昭和32年
Kさんのアトリエ	昭和32年

所在地　神戸市東灘区魚崎町横屋

施工者　林建設工業株式会社

規　模　鉄筋コンクリート造　二階建

坪　数　1階　42.4坪，2階　55.9坪
延　98.3坪

工　期　昭和31年12月～32年3月竣功

外部仕上

腰：モルタル塗刷毛引。

壁：モルタル塗　エマルリシン吹付。

庇：バルコニー見付，黒人造研出。一部耐火煉瓦コンクリートブロック化粧積。

屋上：モルタル防水

視聴覚室仕上

床：アスファルトタイル貼。

壁：コペンハーゲンリブ打及リバーベニヤ貼クリヤラッカー仕上。

背面壁：ラシヤ貼掲示板及ダークグリーンベロアカーテン。

天井：味ノ素アコーステックス貼。

視聴覚室



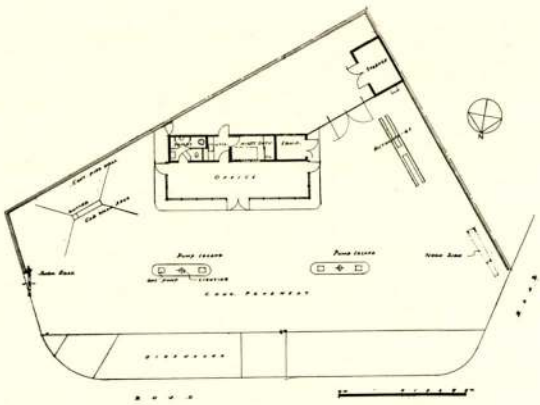




石油給油所 3点

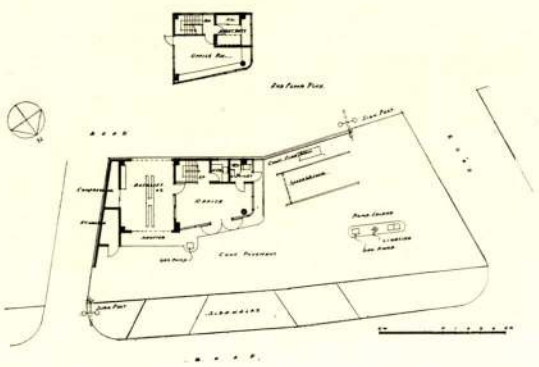


1.





2.





東京国際空港ターミナルビル

山　本　智　雄



担当作品の主なもの。

琉球政庁　(1951年)

建設省アパート標準設計　52TB型・52C型等　(1952年)

東京国際空港ターミナルビル　(1953～1955年)

大沢商会大阪支店　(1956年・大阪)　本誌本年4月号に掲載

岡山県産業会館懸賞案　(1956年・大阪)

布施市民病院懸賞案　(1957年・大阪)

三菱石油各給油所　(1956～1957年)　近畿・中国地区

大正15年3月14日生
昭和25年3月　東京大学第2工学部卒業。
昭和25年4月　松田平田設計事務所入社。
昭和30年9月　同社大阪出張所に転じ現在に至る。

1. 三菱石油神戸海岸通給油所

神戸市生田区東川崎町
鉄骨鉄筋コンクリート造平家
55.5m²　他に倉庫　10.0m²
工期　昭和31年3月～31年7月
施工　鹿島建設K. K.

2. 三菱石油北浜給油所

大阪市東区北浜1丁目
鉄筋コンクリート造2階建
1階　66.9m²　2階　32.3m²　計　99.2m²
工期　昭和31年4月～8月
施工　K.K.　大林組

3. 三菱石油新町給油所

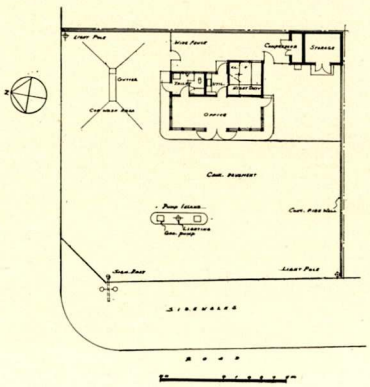
大阪市西区新町通
木造平家　34.8m²,　他に倉庫　10m²
工期　昭和31年5月～9月
施工　西本建設K. K.

蛇　足

設計事務所というところは，上から下まで設計をやりたい人間ばかり集つて一緒に仕事をしているのだから，その中の個人の作品というものは厳密には無いわけである。ただ自分の担当作品に対しては骨身を削る労苦に対する愛情と，自分の選択に対する道義的責任があるわけだ。

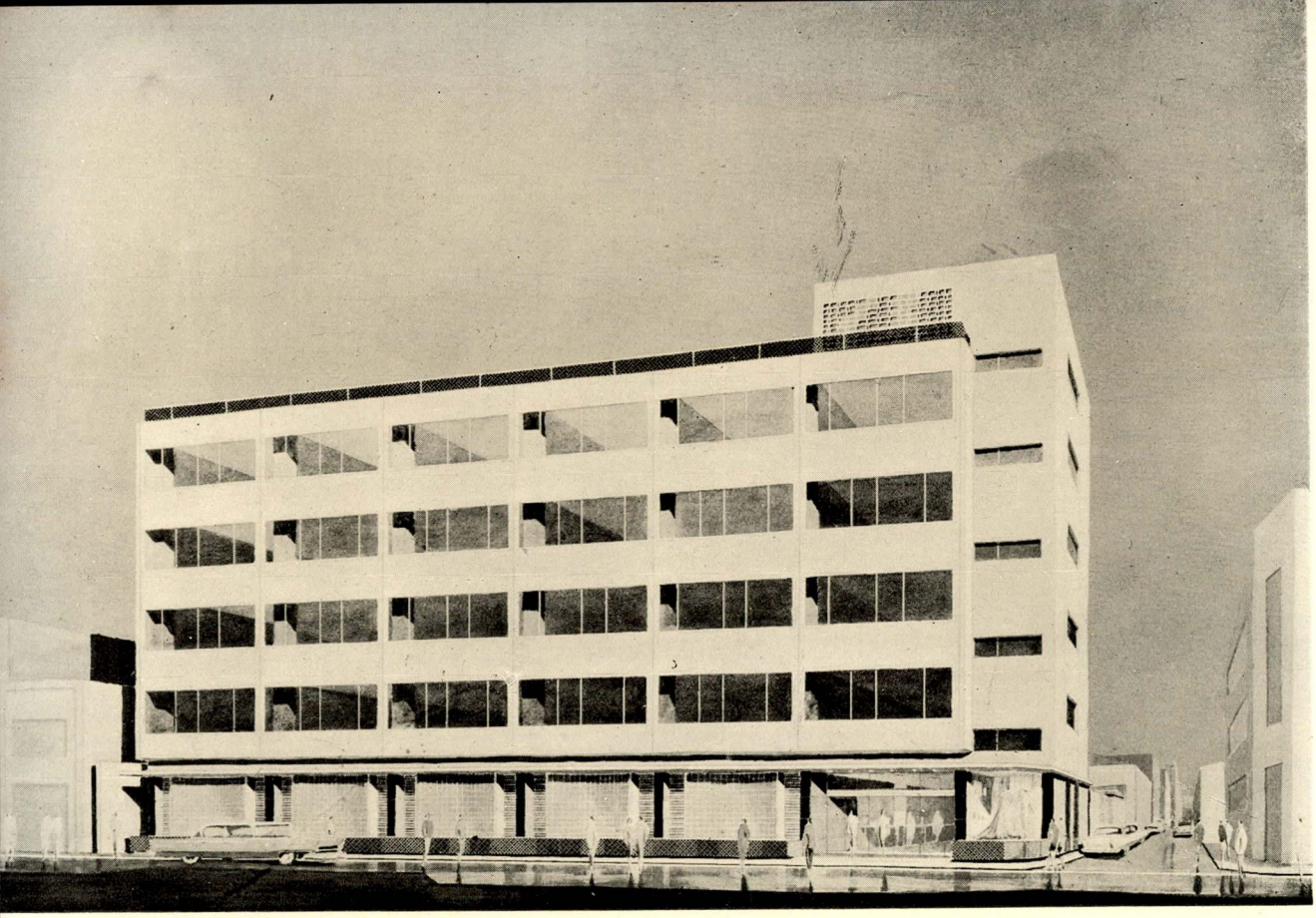
とかく若い内は自分のやりたい事のみ貫くのに生き甲斐を感じ，天才主義に憧れやすいものであるが，今後のある規模以上の建築は個人の恣意や独善に支配されぬ客観性を持つべきだと考える。この為には，設計は，建築生産の各部門の多くの技術的進展の結果を速かに，しかし充分消化して受入れ裏付されねばならない。組織による協働設計はこれを可能にする。……と私は信ずる。

私は器用や珍奇は好まない，素直で力強い建築を設計したいと思つている。未熟のためいつもそう行くとは限らないが，今後もそう努めるつもりである。





3.



興服産業株式会社大阪支店社屋

概　要

所在地	大阪市東区淡路町2丁目
設計施工	清水建設株式会社大阪支店
規　模	鉄筋コンクリート　地下1階　地上5階 （事務所倉庫車庫及宿泊施設）
延面積	5694.575 m²
建築面積	1169.775 m²
高　さ	標準地盤よりパラペット上端迄　18.560m
工　期	昭和32年2月着工

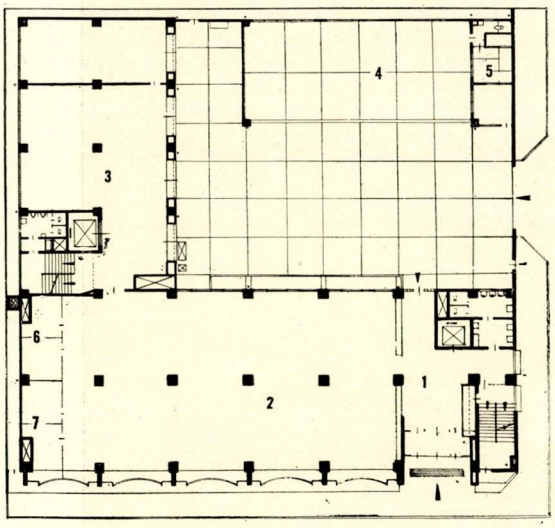
主要仕上

外　壁	テラコツタタイル目地心々5cm×15cm特殊型
1階柱	ポリテラ貼
1階壁	ガラスブロック
ドアー	テンパライトドアー
内　壁	木軸部はセメント木毛板入ベニヤ板両面貼ペンキ塗の乾式構造 コンクリート部はモルタルゾラコート又はプラスターとし構造体の種類により合理的な仕上を採用
天　井	アコースチツクテツクス

基本設計方針

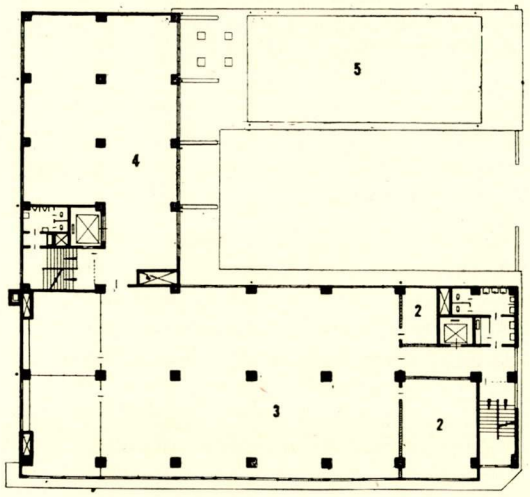
5cm立方のオクタメーターシステムの採用
メートルシステムとグリツドプランの採用
各構造体別による合理的な仕上材料の採用

興服産業K.K.
大阪支店平面図



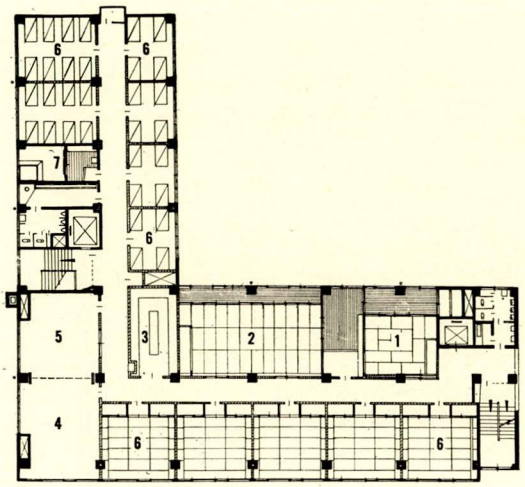
1　階

1. 玄関ホール
2. 事務室
3. 倉庫
4. 自動車庫
5. 宿直室
6. 書庫
7. 応接室



2　階

1. ホール
2. 応接室
3. 展示室
4. 倉庫
5. シエル屋根



5　階

1. 客室
2. 和室
3. 納戸
4. 読書室
5. 娯楽室
6. 宿泊室
7. 浴室

陶村　功



大正15年5月6日生
昭和25年3月
東京大学工学部建築学科卒業
昭和25年4月　清水建設株式会社本社設計部へ入社
昭和30年4月　同社大阪支店設計部へ転勤現在に至る。

大阪における設計略歴

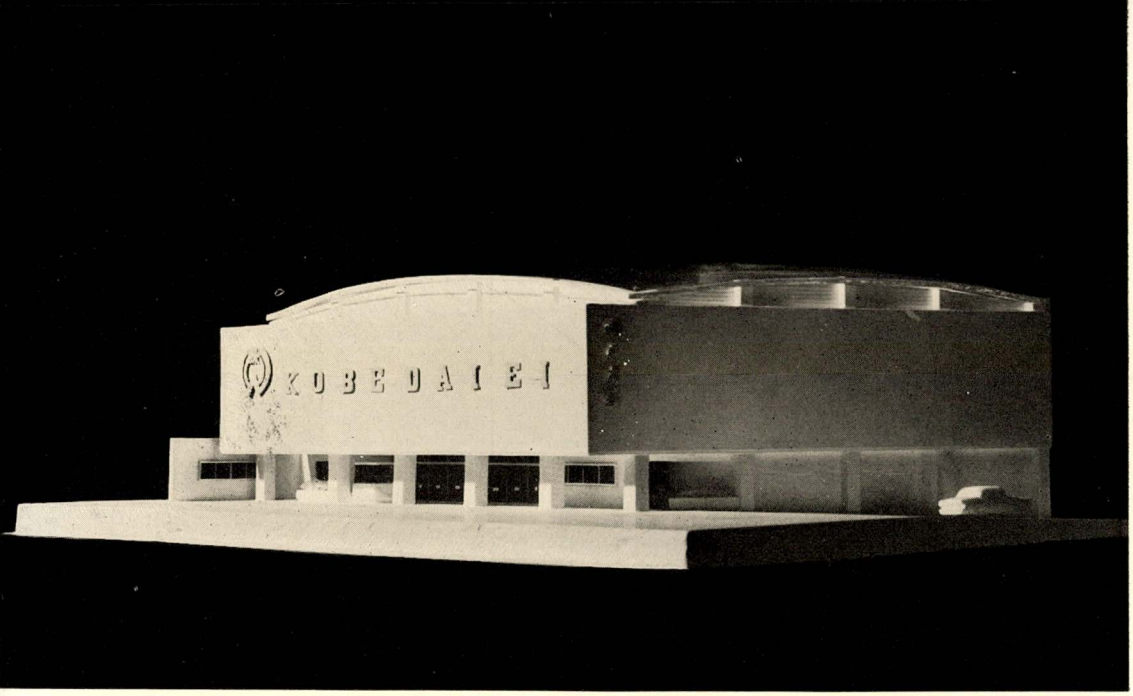
- 本社越山氏設計の下に大阪テレビ放送スタジオの設計を担当
- 岸田日出刀氏設計の下に清風寺本堂の設計を担当

設計者のことば

建築の機能が社会の要求によつて複雑になり，規模が大きくなるにつれて建築以前の問題から建築設計の過程においても，一人の建築家の独断的な設計による時代は過ぎつつあるように思われる。この建築はこの意味においてデザインは急進的なものではないけれども，グリッドプランの採用と階高の合理的な決定によつて構造費の節減をはかつて，冷暖房設備をそなえる等，構造一般および諸設備の協働によつて，限られた予算の中において今後の商業オフイスにとつて必要であると思われる諸機能を備えた標準的商業建築を意図したものである。

この設計に当つて西川真澄氏の御指導と，構造・設備・諸種の施工図面の作製に当つて下さつた方々の協力に感謝する次第である。

（陶村　功）

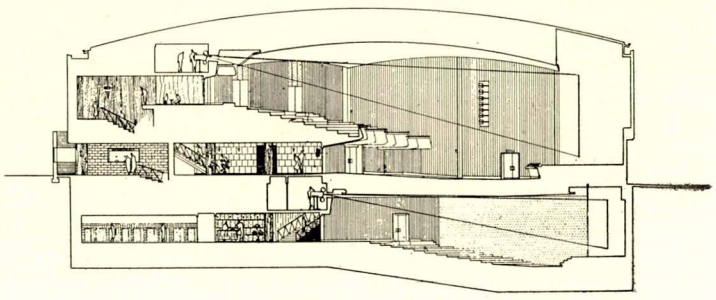


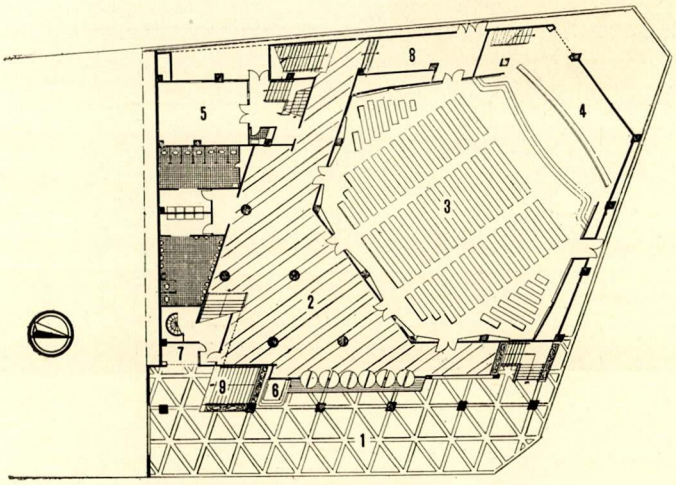
神　戸　大　映

敷地位置	神戸市新開地通り
規　模	地上3階　地下1階
建築面積	296.0坪
延面積	875.2坪
収容人員	大劇場　900人　地下劇場　518人

「神戸大映」設計者のことば

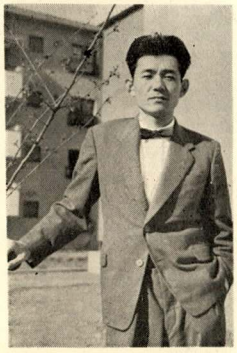
設計完了後，未着工のものですが，大劇場900人，地下劇場520人を収容する親子劇場で，西神戸の中心である新開地の本通りと，都市計画20米道路との角地に計画した建物です。先ず設計に当つて第一にこの地は15余の映画館を含む繁華街で，その中にあつて安易な商業主義に妥協した建物とせず，そして，また如何にわれわれの日常生活に密接な繋りを持つ親しみやすい建物にするかということを目標と考えました。そういう意味からこの設計に当つて同じような環境にあつて設計しました梅田大映からの一連の作品として，外観は遮音および空気調整の効果を良くするため，強いて必要でない窓は排し，贅肉扮飾の無い明快な形とし，そして内部より外に現われたドーム型屋根によつて映画館のその華やかさを表現しました。また一階ではコンコースを設け公衆に開放しホワイエをこれと繋がる空間とし，街との融合を特に考えました。以上どこまで成果が揚つているでしようか，始めより終りまで情熱をかけたこの建物が1日でも早く見られることを楽しみにしております。　（北田正利）





1 階 平 面 図

1. コ ン コ ー ス
2. ホ ワ イ エ
3. 観 客 室
4. 舞 台
5. 事 務 室
6. 切 符 売 場
7. 地下劇場切符売場
8. 休 憩 室
9. 地下劇場用主階段

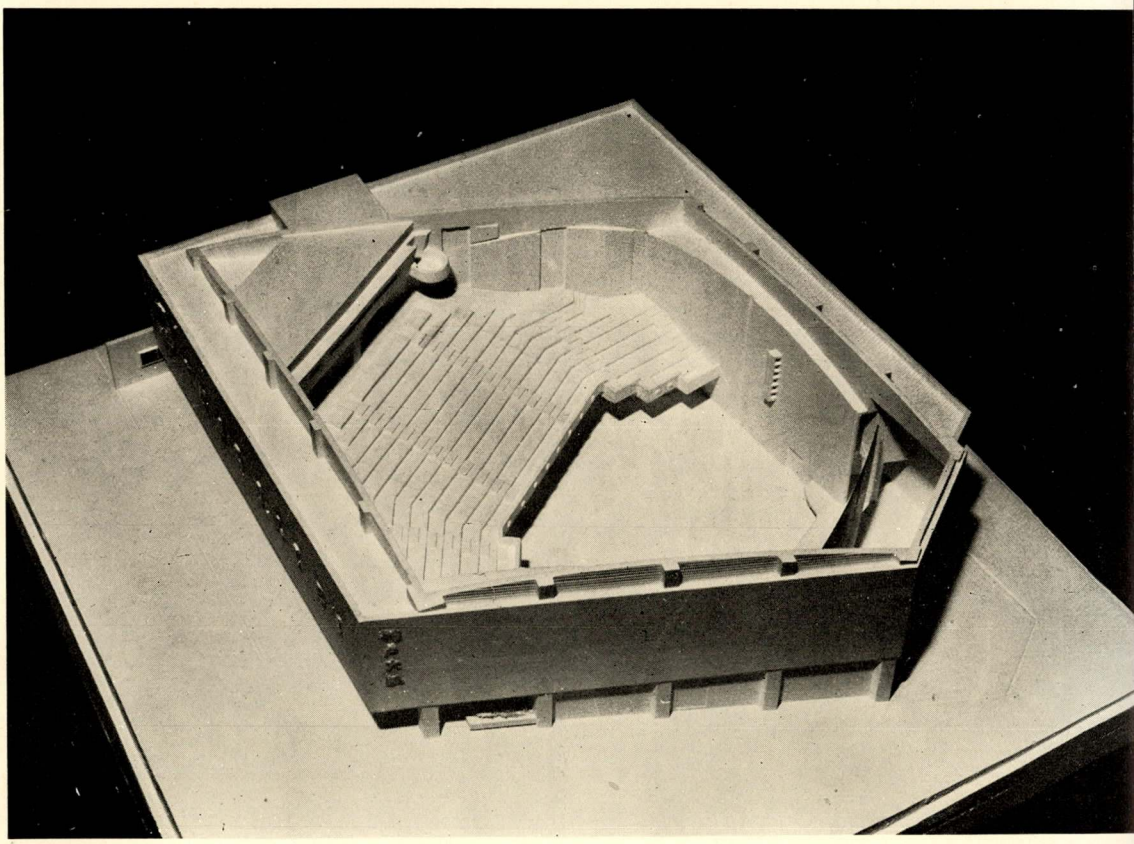


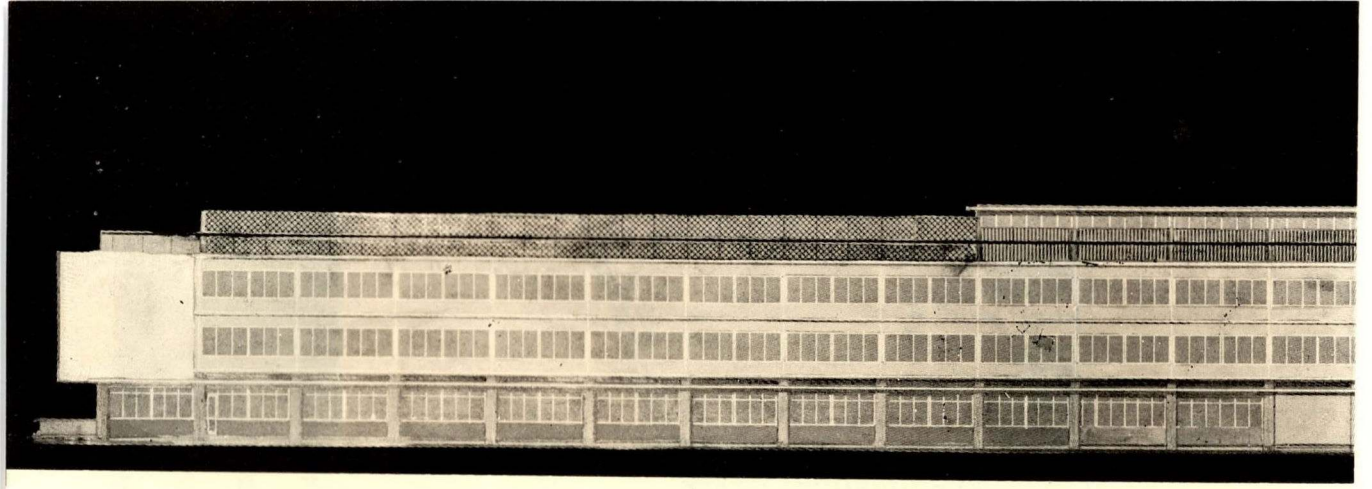
北 田 正 利

大正15年 4 月23日生
昭和22年 3 月
神戸工業専門学校建築科卒業
昭和25年 6 月
円堂建築設計事務所入所現在に至る。

作 品

1953年 松江国際劇場
1954年 岩手高校記念図書館
1955年 梅田大映劇場
京王帝都電鉄本社
小倉大映東宝劇場





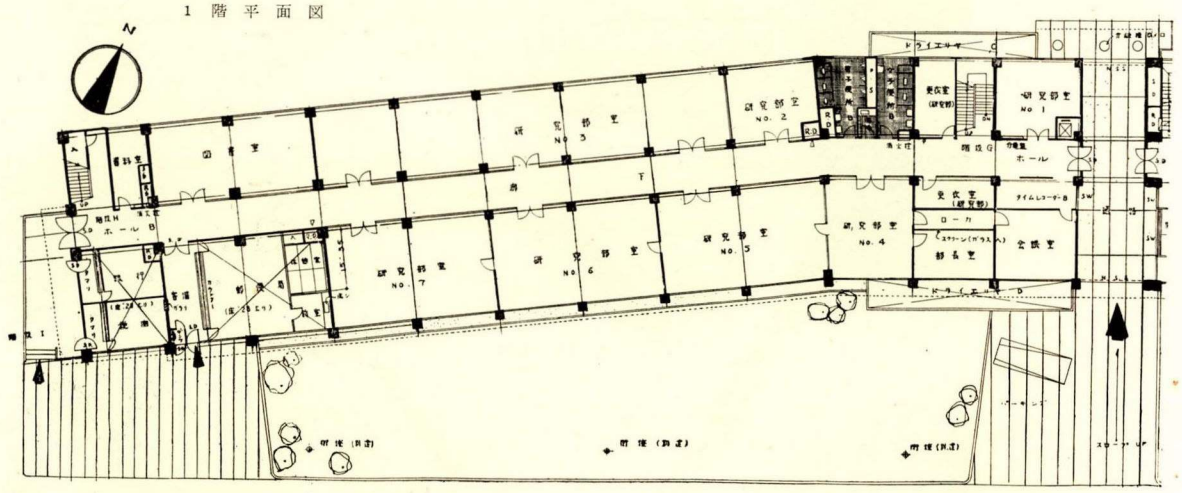
株式会社　播磨造船所相生工場綜合事務所

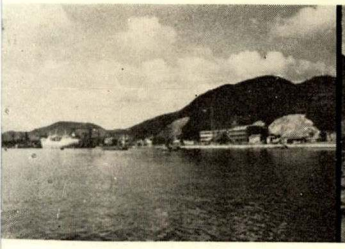
所在地	兵庫県相生市相生
設計施工	清水建設株式会社
坪数	建築面積　884.00坪，　延面積　2943.40坪
工期	昭和31年9月～昭和32年7月（予定）

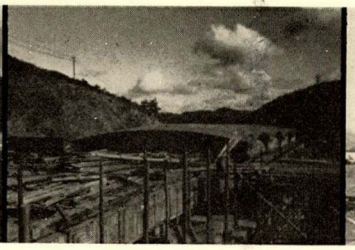
主要仕上

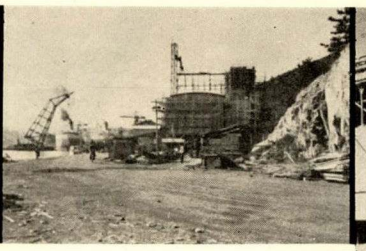
- 外部
  - 1階柱　コンクリート打放し
  - 1階壁　2丁掛タイル貼
  - 2・3階壁　4cm角カラコンタイル貼
  - 屋上　アスファルト防水，シンダーコンクリート押え（講堂屋根はスーパーメタロイド押え）
- 内部　標準仕上　床：アスタイル貼
  壁：耐震壁以外はすべて乾式構造
  天井：ダクト下及び最上階は天井貼

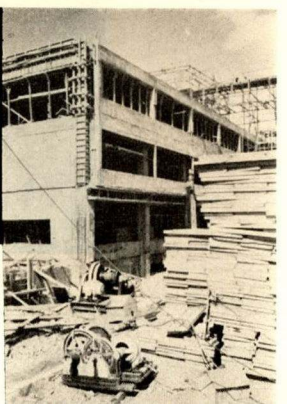
1階平面図

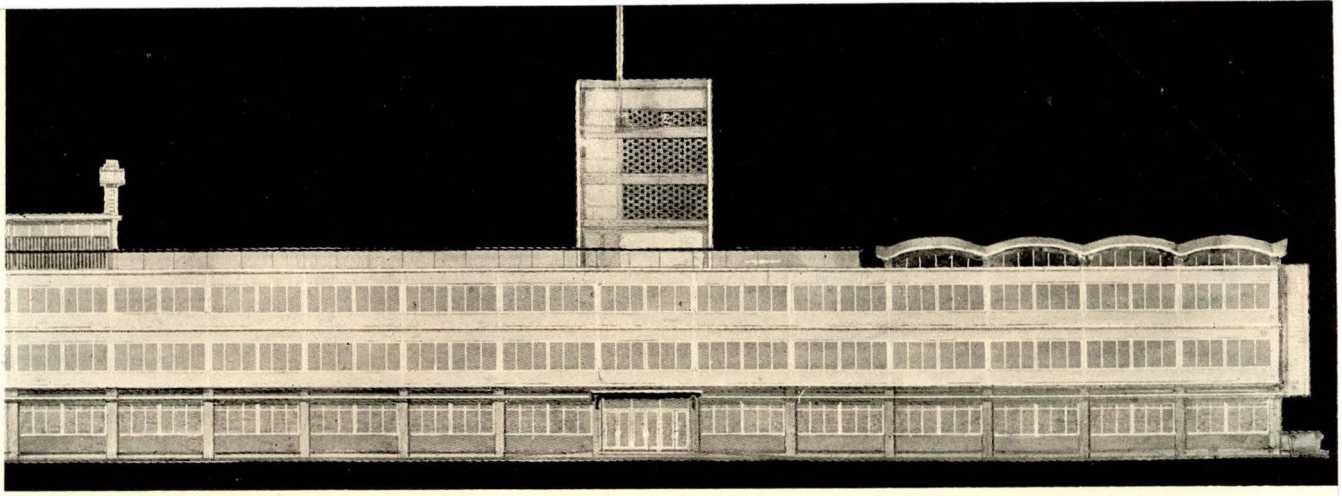












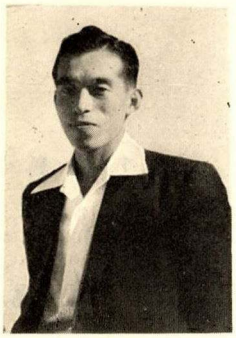
設計者としてのことば： この計画は当初1500坪の事務所であつたものが施工の途中で倍にふやすときまつたため，平面的増築を余儀なくされ，造船所という敷地の条件も加わつて中央にエキスパンションジョイントをもつ延長160米の特異な形態をとるにいたつた。機能的には右半分が管理部門，左が設計部門と別れている。

限られた予算で相当高度の内容が要求されたので，経済性には大いに意を用いモデユールも現在の材料や生産過程からみてあまり無理のない3尺を採用し，比較的成果をあげえたと考えている。

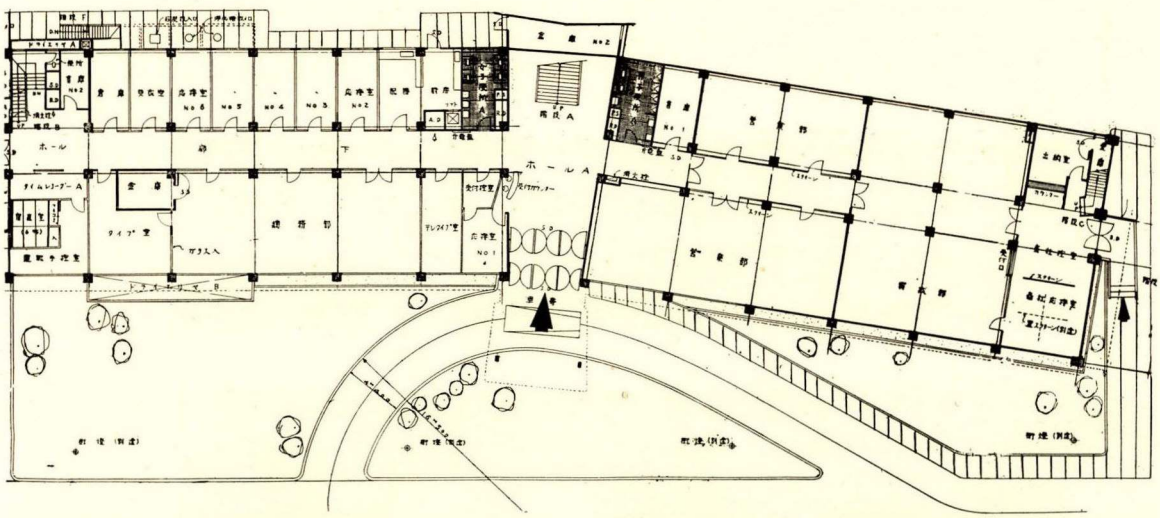
外部は建物の長さを生かすとともに錆色の多い造船所を背景としていることから色彩計画は特に慎重を期し，2・3階タイルには10B6.8/2を選んでスラブラインの白と対比させ1階は柱（打放しコンクリート）の間をレモンイエロー系タイル5Y8/6とすることによつて，色相においてかなりなコントラストを設定した。

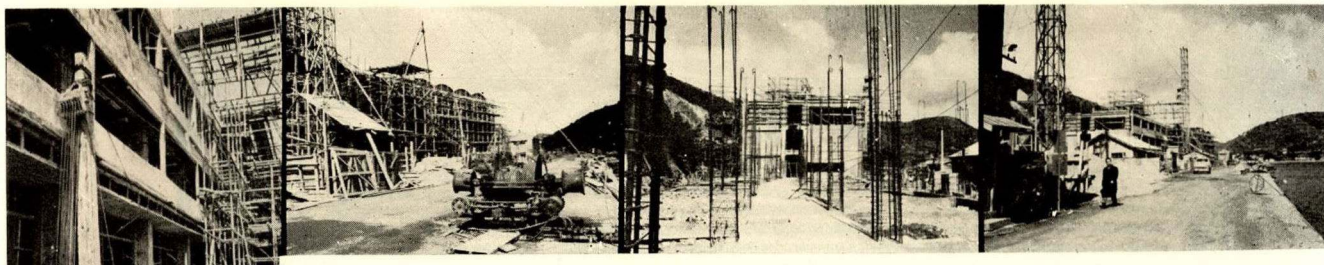
私は大阪へ来て一年である。これがさしづめ在阪第一作となるわけだが，当地へ来てまた東京と違い色々と学ぶところがあつた。経済現象として見た建築の生産過程・社会機構そして建設産業内での特殊条件等々異つた角度から見られることは興味深い。新人としてご推薦いただいてそれに値するか否かは私の埒外にあるけれども，常に新人の気持でありたい，すなわち前向の姿勢の中で，しかもあらゆる Situation, Condition に応じうる軟柔さや巾をもちつづけたいと思う。よろしくご指導ご鞭撻をお願いします。

生れ年　昭和3年
最終学歴　東京大学工学部建築学科昭和26年卒業
現　職　清水建設株式会社設計部勤務（昨年東京より大阪へ転勤）
作品略歴　丸善株式会社，朝日物産株式会社，飯野海運ビル（横浜），勧業不動産ビル
昭和30年度建築学会懸賞設計〝小都市に建つ小病院〟一等当選



山本俊介







1

No. 1　広島県庁舎，議事堂

R. C. 6階及3階建　地下1階
延　9,869.425坪　　竣工　昭和31年2月

No. 2　広島県庁別館

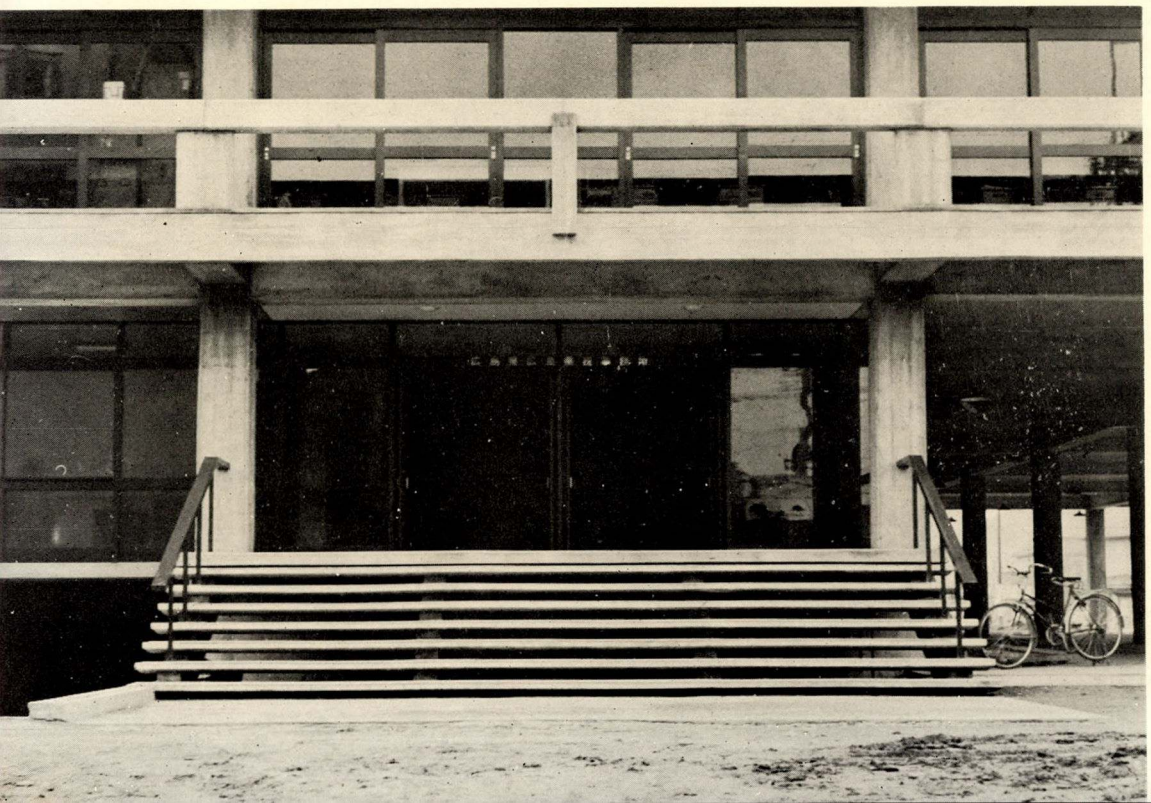
R. C. 2階建　一部地下1階
延　857坪　　竣工　昭和31年

No. 3　坂出市庁舎

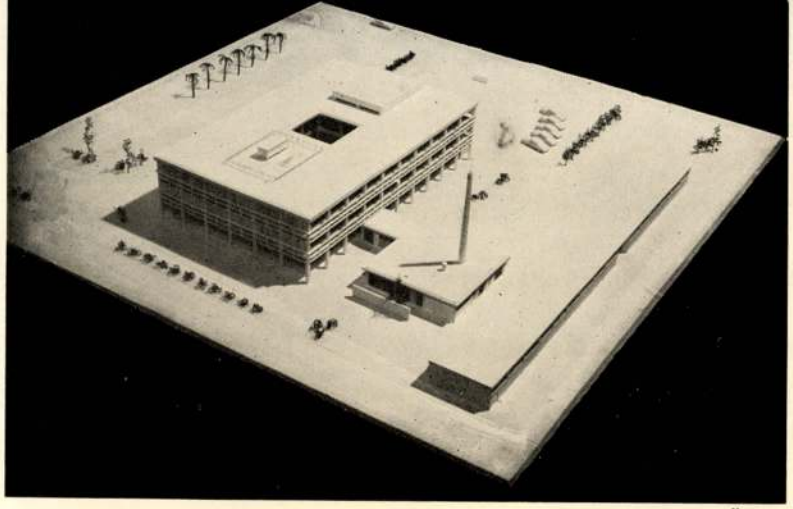
R. C. 3階建　　延　1,064.40坪
竣工　　昭和32年6月予定

No. 4　専売公社茨木煙草工場食堂

R. C. 2階　一部3階建
延　1,179.298坪　　竣工　昭和31年1月



2



3

関係せる主な仕事（構造担当）
- 広島ビルデイング
- 広島県庁舎，議事堂及び別館
- 笠岡市庁舎
- 府中市庁舎
- 坂出市庁舎
- 専売公社茨木工場食堂
- 大阪毎日会館第一期工事基礎地盤電気固結工事
- 住友生命本社（施工中）
- 大阪毎日会館第二期工事（施工中）



宮 川 達 郎

略　　歴

昭和2年11月28日生
昭和25年3月　京都大学工学部建築学科卒業
昭和25年4月　大阪市交通局技術部営繕課勤務
昭和27年10月　日建設計工務K.K.に入り，設計部員として現在に至る。

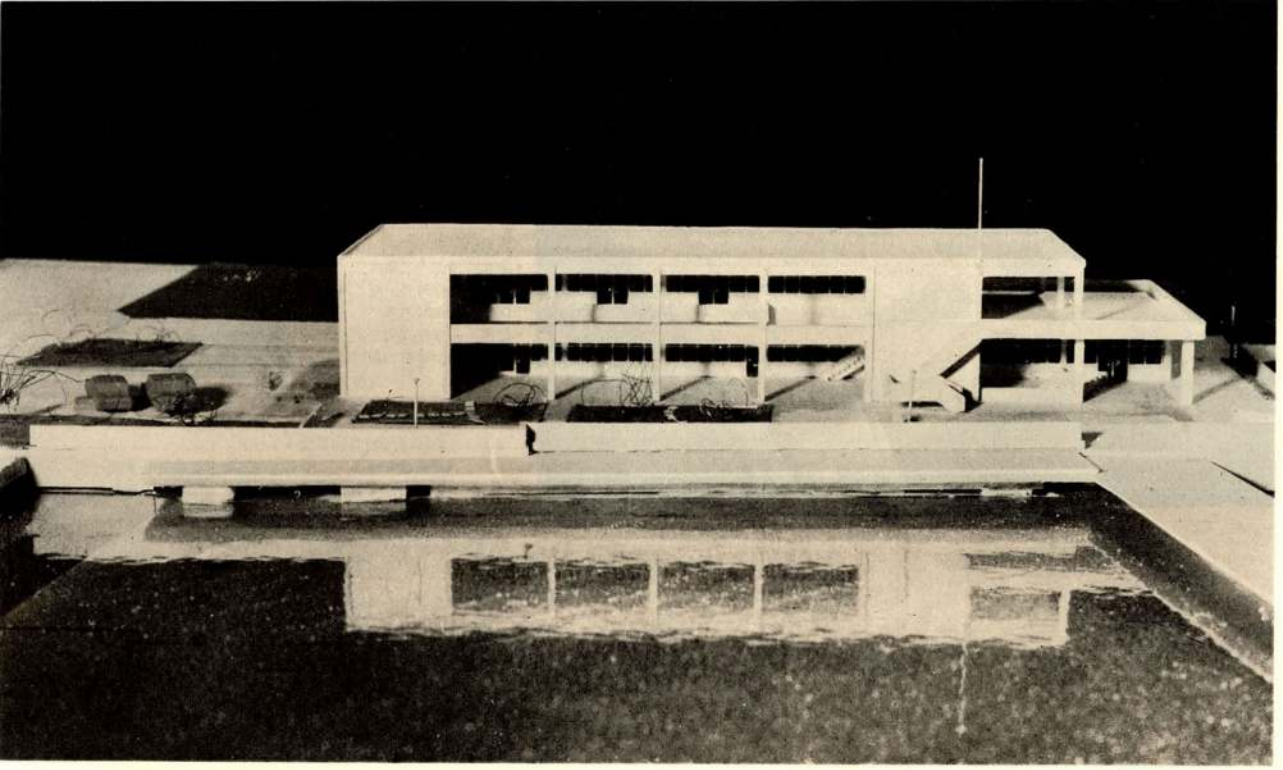
——雑　　記——

建築の実務に入つてからずつと，構造に関係した設計の仕事にたずさわつてきているのですが，いきなりプラン，エレベーションの青図を目の前に出され，その規模内容などをよくのみこんで，考え方をまとめる間もない中に「この建物の断面はどれ位に？」と返答を求められ，さーてと考え込むようなことが少なからずあります。

構造設計で一番苦心する所——適所に適当な構造を判断決定するということになると，まだまだ未熟なことを痛感させられるばかりです。仮定の合理性に常に注意しつつ，出てきた結果を吟味し，時にはそれに修正を加え最も適当なもの，合理的なものを求めてゆくことを心掛け努力していかねばならないと考えています。また仕事に追われ，構造の構想を練つたり，新しいことを研究する暇がないというのでは如何にもさびしいことだと思つています。短時日の中に問題を解決し，設計を終らねばならないような仕事の状態に置かれていると，ともすれば変なことにこだわつて大きな所を見逃しやすくなるのですが，常にこの点を反省し，建築構造の実際をしつかり見つめ，計算すなわち構造計画でないことを充分認識して，一歩一歩構造計画という大きな難しい問題に向つて行きたいものです。



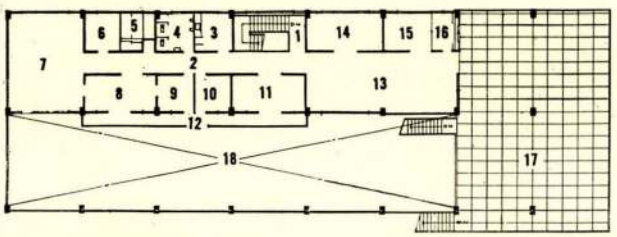
4



東　　面

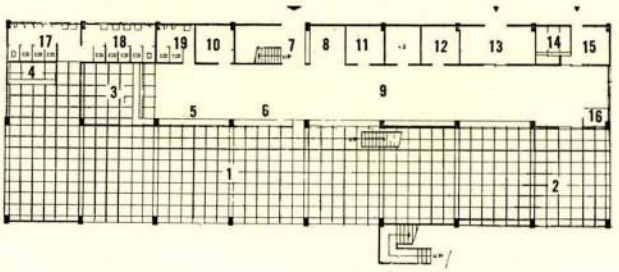
びわ湖観光センター　(仮称)

設　計　　昭和31年12月
坪　数　　1階 235坪,　2階 104坪
主体構造　　鋼筋コンクリート2階建



2階平面図

1. 2階ホール
2. 廊下
3. 湯沸室
4. 職員便所
5. 宿直室
6. 書庫
7. 会議室
8. 社長室
9. 応接室
10. 専務室
11. 役員室
12. バルコニー
13. 従業員クラブ
14. 予備室 1
15. 予備室 2
16. 予備厨房
17. 屋上
18. 吹抜



1階平面図

1. コンコース
2. 改札口
3. 特別待合室
4. 売店
5. 出札口
6. 案内所
7. 本社玄関
8. 受付
9. 事務室
10. 応接室
11. 女子ロッカー
12. 男子ロッカー
13. 倉庫
14. 小使室
15. 湯沸室
16. 放送室
17. 客用男子便所
18. 客用女子便所
19. 職員便所

外部仕上　屋　根　石綿砂付ルーフイング
　　シルバライト吹付
　　展望台　アスファルト防水，モルタル塗
　　外　壁　白セメント塗一部煉瓦
　　及ホロープロック積
　　コンコース　床人研，真中目地棒入
内部仕上　床　　モルタル塗及
　　アスファルトタイル貼
　　壁　　コンクリートの上プラスター塗
　　一部ホモゲンホルツ及
　　ネオユニオンボード貼
　　天　井　耐火ボード及アルミ浪板貼



雑　感：明るい湖面の彼方まで続く水平線と，その背後に聳える比叡の連山。この環境で垂直と水平に映像するそれらの幻想を表現しようと試みた。ところで建築の真髄への模索と事務所の経営のためのガムシヤラな行動とで若い私らには作品と名付けられる建物が無いといつても良い位だ。それでも師や協会のご好意に欲望も手伝つて甘えてみた。

この建物は乗船場施設でもあり，オフイス・ビルでもあり，また観光施設でもある。これらの3つの要求が調和してびわ湖畔にあるエスプリを持つた風物を創つてくれることを希いながら仕事を進めた。このような希いがどれほど充たされるか解らないが，施主と土地と観光客の心理とを含め，凡ゆる角度から検討をしてみた積りである。

デザインは白と灰色のコンクリートのスケルトンと赤い煉瓦とで構成した単純なものである。構造家を驚かしたり所謂意匠家を喜ばす何物も無い。別の言葉でいえば私達に流行を追うほどの勇気もないままにドングリが首を合せて出来上つたものである。

この機会を借りて心ある方々からの批評や指導も頂けるであろうとの覚悟と期待をして製図板とのカマボコ生活から頭を上げた次第です。そしてまたカタツムリは製図板の上を生涯這い続け実り多い夢を追つて行く決心です。

左：　**松浦直一**

昭和3年8月6日生

昭和25年3月　摂南工専建築科卒

昭和28年2月　三座建築事務所入所

昭和30年8月桂建築設計事務所創設

右：　**鍛治延男**

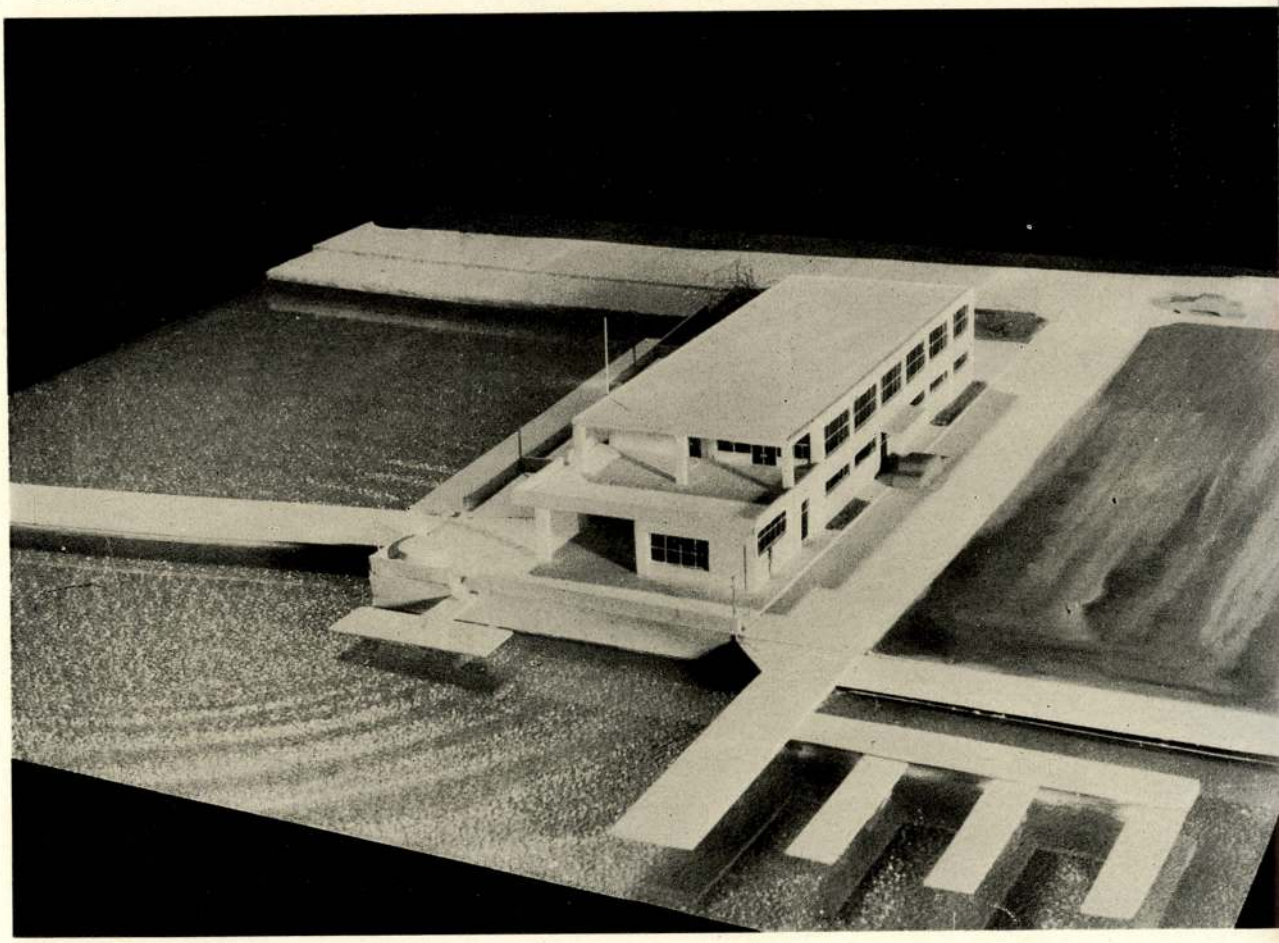
昭和5年2月11日生

昭和28年3月　大阪工大建築科卒

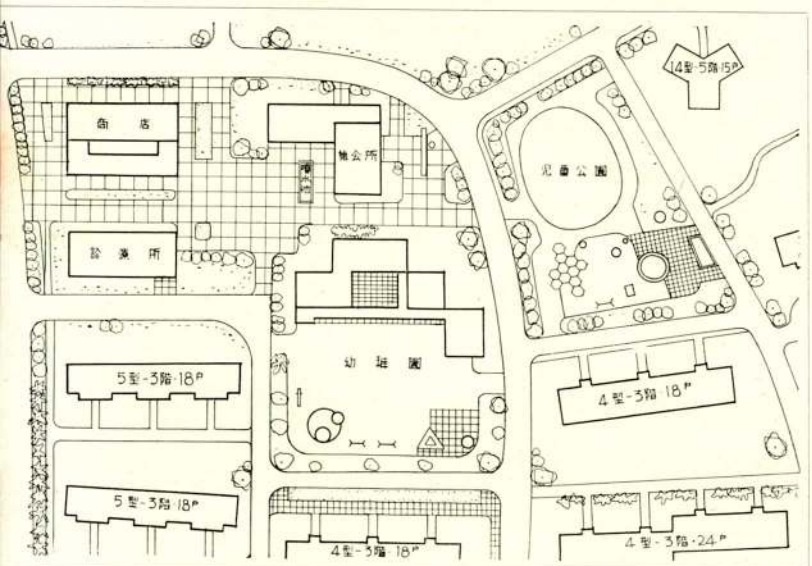
昭和28年7月　三座建築事務所入所

昭和30年8月桂建築設計事務所創設

西北面





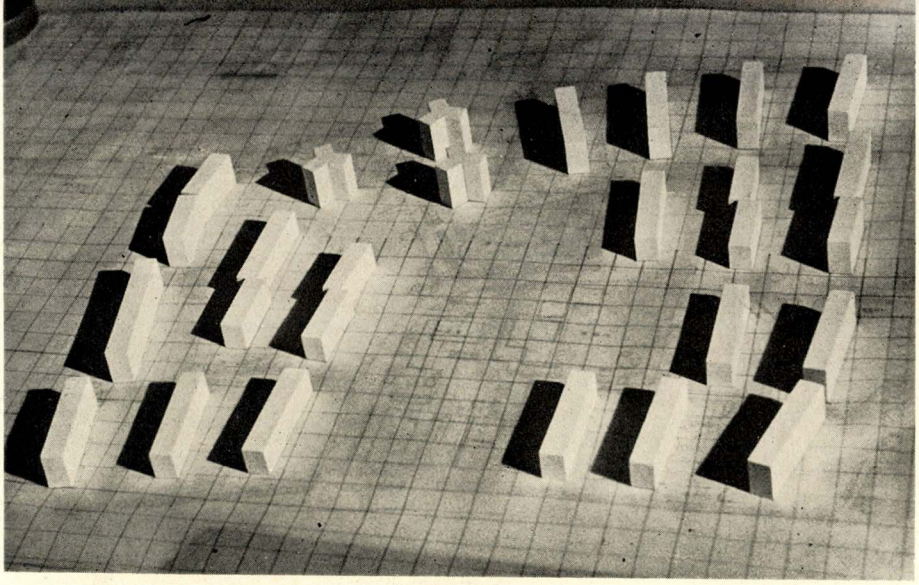


共同施設を中心にして
棟の群構成を
追求した団地計画案

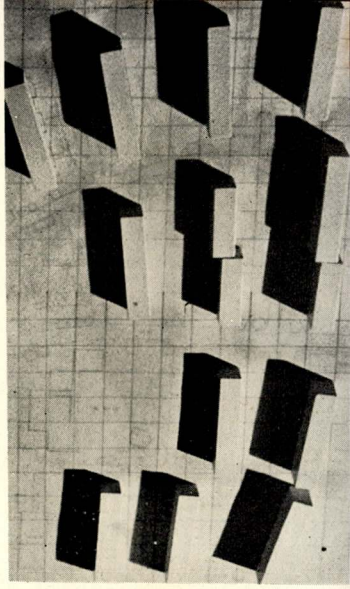
—1957年1月—

課　題　と　条　件

新しい郊外の住宅地A・B両地区は約1,000戸のRCアパート団地である。このA地区内に公団標準設計の住戸3種を選び配置計画を行い，また，A・B両地区対象の商店・集会所・診療所，A地区対象の幼稚園を設計する。　（詳細は学会規程参照）



エスキースは，多角的に激しく討議される。ここでは各棟の大きな流れと



クローズされた変化ある空間のまとめ方に努力が向けられた。

Architecture, no : Layout, yes

最近かなり大きい集団住宅地が作られるようになつてきました。こういう団地では，住宅1戸毎のプランもさることながら，そのアンサンブルというか，全体としてのまとめ方，layout technic が大切です。しかし，先日の第5回全国婦人会議で討議されたテーマのように〝明るい人間関係をつくるために〟配置計画上どう処置したらいいかは，仲々難しいことです。

一つの手掛りは，こういう共同生活の場で最も身近かに要求される共同施設を中心にして住宅群をまとめ，更にそれらの群をより大きな範囲にサービスする施設を中心にしてまとめていく，ということです。ではその小コミュニテイを形ずくる施設のベースを何にとればよいのでしようか？

東京都住宅協会の戸塚団地は「主婦のつどい」を中心にした共同生活のあり方が認められて，「優良集団住宅表彰」に選ばれました。当初は〝まるで荒地の中にコンクリートの塊りが突立つている感じ〟でしたが，そこでまず困つたのは子供の遊び場所の問題でした。子供のために遊び場を作ろうという声がお母さん達の間に起り，屋上に集つて相談したのが「主婦のつどい」の始りとなりました。これからこの会が中心となつて共同生活の場がもたれるようになつたそうです。（32. 1. 29毎日）戸塚団地と同時に表彰をうけた大阪の浅香山や鷹合団地でも大体事情は同じ（32. 1. 15毎日）ですし，「アパートの暮し」（重松敬一編）にも同様の例がみられます。どうやらこの辺に新しいコミュニテイライフのきざしがあるようです。

私たちはこういうことをベースにおりこんで，住宅の棟の群構成を追求し，layout の工夫を続けていますが，ここには model case として一例を示しました。英国のボーンビルがどうしてコミュニテイを形ずくつているか，を論じた J. Butler は〝Architecture, no; layout, yes〟といつています。（T.C.P, '54. march）

—1957. 4. 25. T. D. グループ—

タウンデザイン研究会（TDグループ）

31年初頭から，大阪市大都市計画研究室を足場とし，F. Gibberdの〝Town Design〟のゼミを続けて生れたのが，タウンデザイン・グループである。Housing Designが中心テーマとなつているが，文字通り街のデザインや，建物個々のデザイン，都市計画，更には地方計画まで，多彩なものを調査し，計画し，楽しく集団で努力を続けている。新年度からは，駒日出男（32年市大卒，現在助手）の参加をはじめ，公団大阪支部の若い人達が集ることになつている。この作品は，31年度建築学会競技設計応募作品で，全国入選したものである。

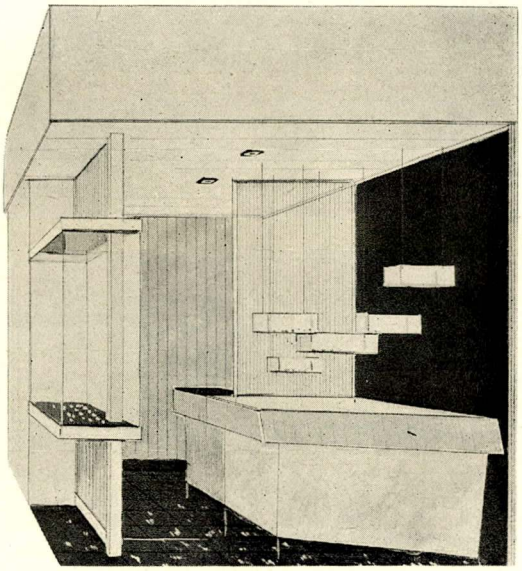
斉藤和夫（30年京工大建築科卒，30〜32年大阪市大大学院で都市計画専攻，現在，市大助手）
鎌田恭男（30年京工大建築科卒，30〜32年大阪市大大学院で都市計画専攻，現在，大阪市建築局勤務）
寺内信（32年京工大建築科卒，現在，大阪市大大学院で都市計画専攻）
水谷穎介（32年神戸大建築科卒，現在，同上）

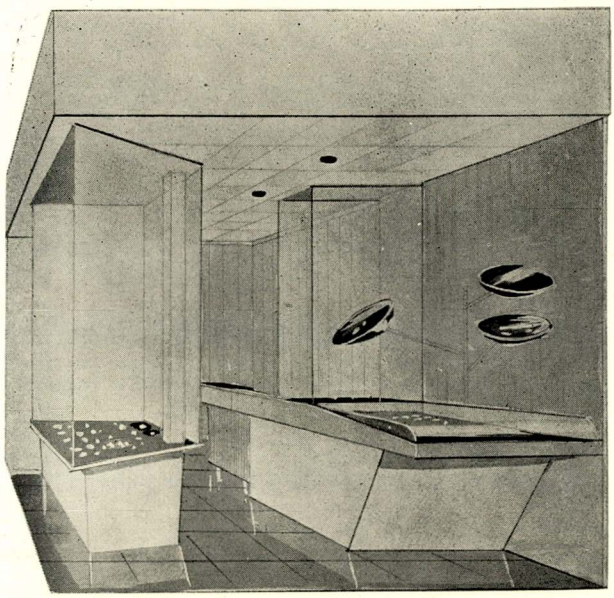
鎌田　寺内　水谷　斉藤



小　時　計　店　試　案

右：A 案
下：B 案







後藤摂二

大正12年7月5日生
最終学歴
昭和18年旧神戸高工
現職　真（マコト）
建築研究所責任者

主な関係作品
- 神戸市，千葉邸
- 西宮市，江本邸
- 大阪市，電気科学館内　原子力時代の大阪近郊パノラマ
- 大阪市，桜橋，喫茶うづき

コンペ入選
熊本県八代市
慰霊碑　2等

所　感　学鷲として戦場で得た体験……古語の「虎穴に入らずんば虎児を得ず」ではありませんが，真の建築家となりたいため，今まで勤めさせて頂いた大阪市立大学の研究室から，ゴミ箱をひつくりかえしたような街に飛び出して行つて，小さくとも香高い作品を一つ一つ創作していき社会の改装，建築家の不必要な世が早く来るように活動したいと，昨年末から梅田で建築研究所を開きました。

現在の建築士法は建築技術家には必要ですが，建築教育面でも日本では何か大切な点が抜けているように存じます。

日本的性格云々……よりも真実の建築を建てる方が大切で，建築家が日本人ならば，そこに性格が当然出て参るのではないでしょうか？戦中派の私にとつて，何よりも幸なことは，よりよき人々のご協力に恵まれていることであります。

コマ劇場機構設計のアレンジをして

北　村　隆　夫

はじめに：

コマスタジアム，それは未来の劇場と演劇革命の夢を暗示しながら，多数の未知数を包含して生れた全く新しい劇場建築であります。コマ劇場の演出を企画する人々は，一つの空白を越えて三次元的な演劇の彼岸に到達するための重大な障害を感じることでしよう。また，その建設に関係した者は，この建築の中に包含される『演劇の夢を実現し得る機能の創造』という，重大な責任を与えられたのであります。この新しい劇場の立案者は，故小林一三先生で，先生を中心に企画，設計，現場を含む建設委員会が構成され，設計面では設計者小川正氏（竹中工務店設計部長）を中心に，意匠，構造，設備，と一つの associate を組織して，相互の完全な協力のもとに多くの未知数と取組みました。私はこの associate の意匠の一員として，命ぜられて竣工の日までコマ劇場の音響的なアレンジ，舞台設備および意匠の詳細を担当してまいりましたが，その期間中，当面した設計上の問題，建築上の雑想につき，一文にまとめたいと思います。コマスタジアムについては既に多数の雑誌に掲載され，よく知られておりますので重複を避け，設計者の言葉を借りて簡単な紹介とします。『コマの構想にそつて扇型約790 坪の敷地，円型舞台と同心円の座席の展開，これらの関連から求心的にプランニングは円型舞台の中心位置と，そのスケールに集中する。アプローチは，この円型舞台壁面の周囲をピロティにして，空地とともに主要動線の解決とする。二つの劇場を付属させるこのコマ劇場は，その円型舞台による新しい演出と，トップ A．O．上映装置を兼ねた2,000 余席の特色ある扇型劇場となつた。』

コマ劇場について：

コマ劇場の内部意匠については，プランの持つ特異な形態に，放射線を一つのモチーフとしながら豪快な意匠とされました。特に材料の耐用年限および，その詳細に対しては，充分な考慮をはらい，いささかの妥協も許さず，形態から必然的に生ずる設計上の種々の困難に対しては，正攻法で正面から対決致しました。これらは設計に携わる人々が，本来の業務として遂行しなければならない当然のことでありますが，私がコマ劇場の設計途上に当面した壁は，今までの技術の限界を一歩踏み出した

梅田コマスタジアム概要

所在地	大阪市北区角田町19番地
敷地面積	790.22 坪
建築面積	531.04 坪
延面積	2864.60 坪
構造	鉄骨鉄筋コンクリート
階数	地上5階　地下1階
客席数	コマ・ゴールド劇場　438 席
	コマ・シルバー劇場　117 席
	コマ劇場　2044 席
設計	株式会社竹中工務店設計部
施工	株式会社竹中工務店
工期	自 昭和31年1月 至 31年10月



コマ劇場ギャラリーより舞台を望む

世界でありました。問題は主としてコマ劇場の舞台機能に関係するものでありますが，これが建築家に与えられた課題であるならば，現在に至るまでのarchitectの範疇は，大きく拡げられねばなりません。かつ建築の持つ芸術性は，固定した視覚的なものから，建物の持つ抽象的な機能および性能にまで発展されねばなりません。以上に関する結論は未完として，具体的にコマに要求せられた機能について述べます。最初に記したようにコマ劇場は，演劇上の全ての夢を可能ならしめる要素を持たねばなりません。このことは，ある意味でキースラーの無限劇場や，ワイドリンガーの球型劇場にも通じる如く，Experimental Theatreとして要求されているわけで，建設委員会が私どもに課した諸問題は次の如きものでした。

①実演および電気的再生音に対しては，完全にHigh Fidelityな劇場を作り，30数個のスピーカーを最も効果的に配置するとともに，再生音に対しては建築的な残響附加装置を考慮する。

②リモート・コントロール可能な約300台の投光器を合理的に配置する。

③演劇と巨大なトッドA.O.スクリーンではプロセミアムの高さに必然的な相異を来たす，従つてプロセミアムは可動とされねばならない。

④60尺×30尺（7t～10t）曲率の大きいトッド・スクリーンおよび50尺のシネスコ・スクリーンを並設して，共に可動とする。

⑤三重の廻り舞台は速度，方向，変換可能で，かつ舞台面より上へ21尺，下へ12尺，可動とする。また，中，外，盆に独立した6コの迫りを持たねばならない。

⑥オーケストラ・ピットは任意にステイジに変換されねばならない。

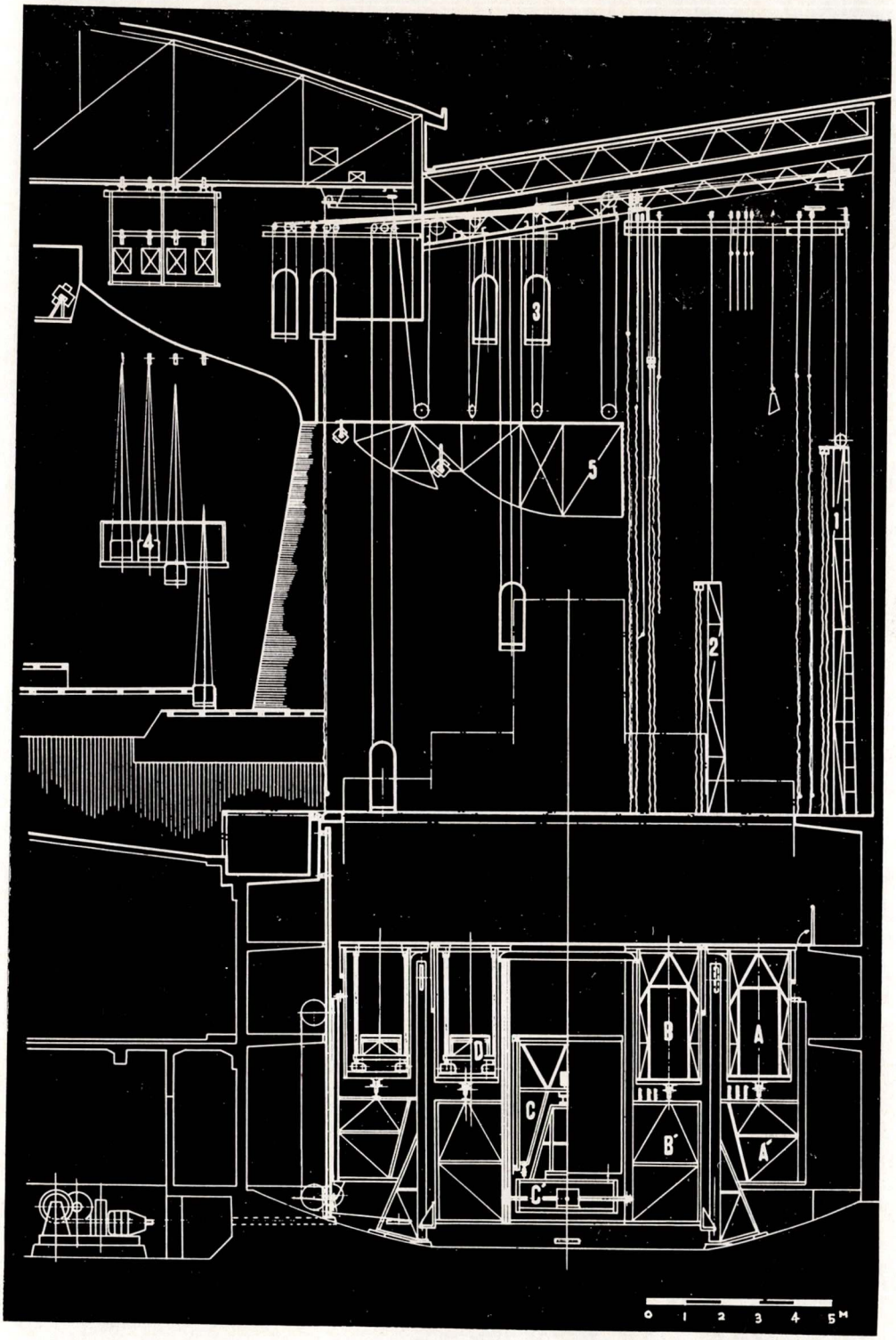
⑦15コのゴンドラを40尺の高さより垂直に昇降せしめそのうち3コは舞台上部の可動反射板に取付け，反射板と独立に昇降可能とする。

⑧突出した円型ステージの上部はブドウ棚とし，かつブドウ棚は客席から見えてはならない。

⑨舞台変換は天井と奈落とにおいて，同時に立体的に変換し得ること。

⑩4台のロープウェイを客席上部に取付け，観客頭上における演出を可能ならしめる。

大体，以上の如きものでありました。いずれの一つを考えても，意匠，構造，設備の合体により初めて可能であり，誰もが未経験な規模と構想を持つており，両立し得ない要素が同時に要求されております。また，いづれの機構に故障を生じても重大なる結果を起し，人命に影響を与える部分も多数あります。ここにおいて私の立場は演出，映画，構造，設備，舞台機構等，各々専門家がそれぞれの分野において提出される独自の見解に，常に建築的な環境条件を指示しながらも，一方，その助言を得て，建築的に総合的な立場で統一することを自然と強要されたのであります。また演劇関係者の夢を想像して，



1. トツドAOスクリーン　2. シネマスコープスクリーン　3. ゴンドラ　4. ロープウエー　5. 昇降反響板

A 外盆廻り舞台　B 中盆廻り舞台　C 芯盆廻り舞台　D 盆内迫り上り

A' 外盆迫り上り舞台　B' 中盆迫り上り舞台　C' 芯盆迫り上り舞台

Fig 1. コ マ 劇 場 舞 台 詳 細 図

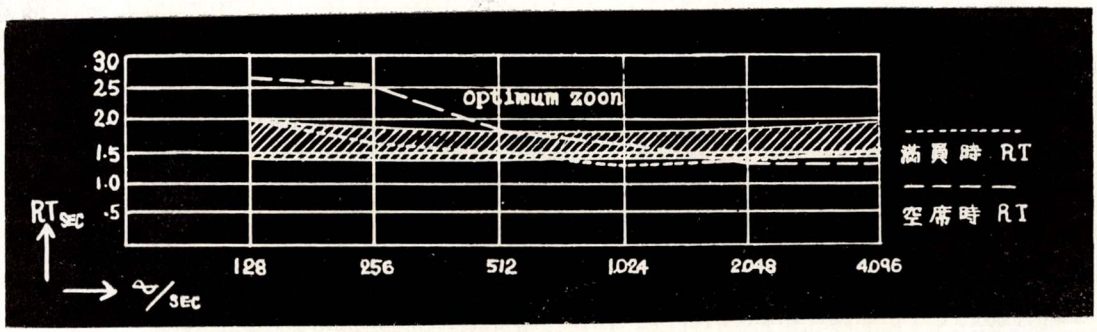


Fig 2. コマ劇場残響時間周波数特性ぐらふ

種々に変換される空間を充分把握せねばなりませんでした。限られた紙面でコマの機能について全てを述べることは不可能であり，図面も余りに複雑でありますから略図を示します。（以下 Fig 1 を参照）

種々の障壁は相互の協力により打開され，竣工の日を要求された全ての事項を可能ならしめて迎えました。

①音響的には Fig 2 に示す如き残響時間（計算値）を計画し，壁面処理を最適条件とするとともに，残響附加室を作り，再生音の残響変化を可能としました。また超短波無線や弱電系統の組織に対しては，最も有効な建築的処理を講じ，その機能を充分発揮せしめました。

②円型舞台上部に昇降可能の反射板（鉄骨鉄板製約 10t）を取り付け，このストロークをもつてプロセミアムの昇降としました。トッドA.O.は反射板を約 2.1 米上昇させることにより映写可能となります。

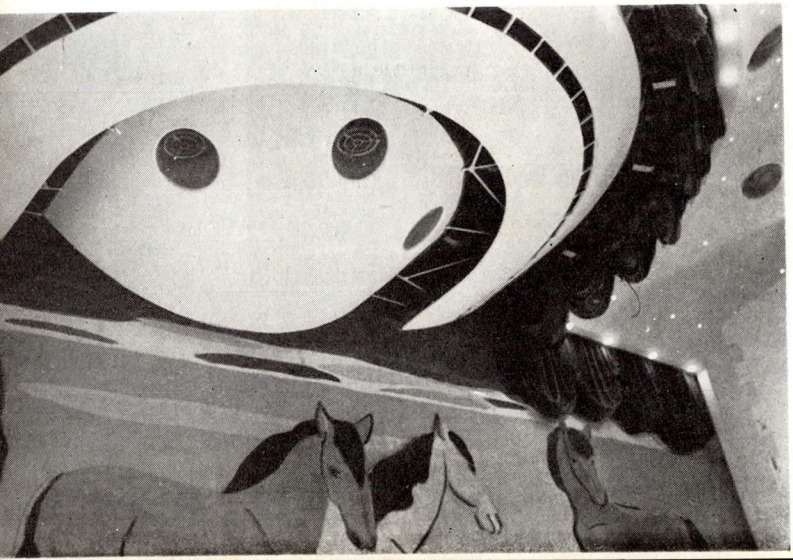
③スクリーン設置部分のブドウ棚は鉄骨造となり，舞台にある二つの独立柱のガイドレールにそつて，60 尺×30尺の鉄骨製大スクリーンが，巨大なスピーカー群とともに上部に釣上げられ，舞台全部を演劇の使用に可能ならしめました。

④要求された廻り舞台装置が可能となつたので，奈落と楽屋のプランニングは舞台と直結され，舞台用エレベーターをブドウ棚まで上げて，釣幕に動線を遮断されることなく天井内の動線を可能としたので，要求された立体的舞台変換が可能となりました。

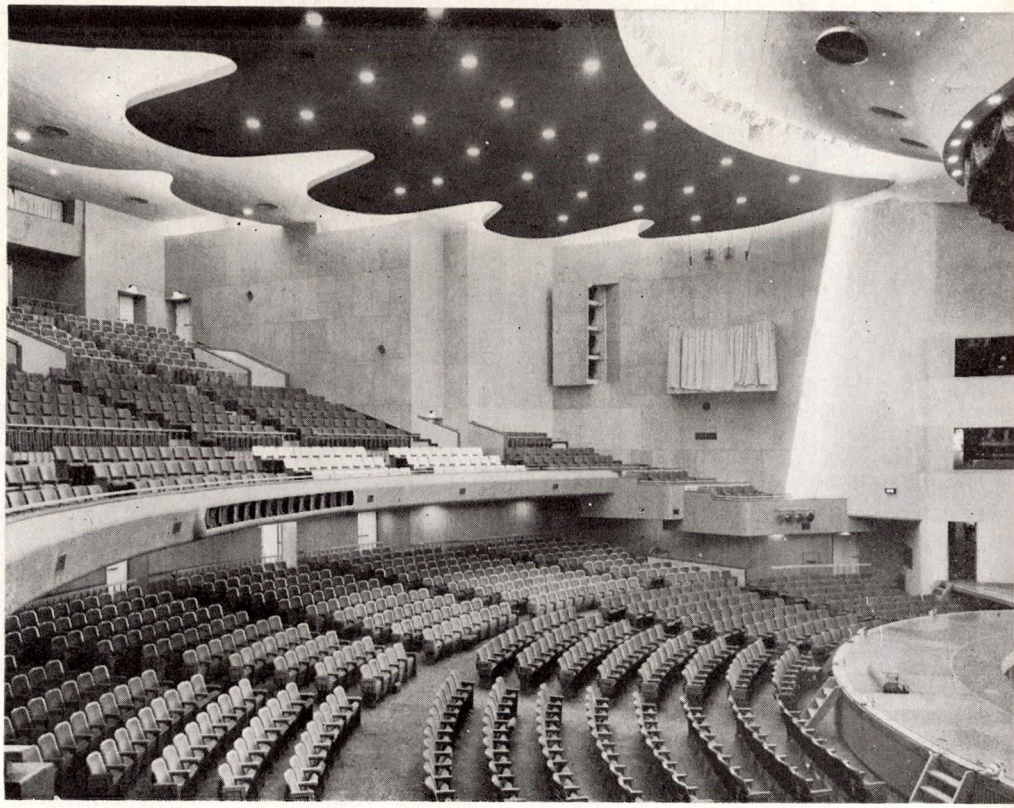
⑤反射板は鉄骨構造体よりプロセミアム下り壁（固定反射面）と構造的に分離し，その間にボーダーライトや釣り幕を下げ，反射板自体はカウンターウエイトと，バランスを取りながら昇降させました。反射板には適当な個所に孔をあけ，反射板と別に，その上部に作られた鉄骨ブドウ棚より，反射板を通して舞台変換を可能ならしめるとともに，このブドウ棚より反射板を貫通して 3 台のゴンドラを取り付け，外周りの固定反射面には，12 コのゴンドラを配置して各々昇降させました。

⑥ 4 台のロープウェイは，エンドレスワイヤーの一方を天井裏に通し，ワイヤーのベンドに対しては，天井裏でカウンターウエイトを取付けることにより，解決しました。

書けば何んでもないことですが，私は何度か前方が真暗になり，この仕事の完遂が不可能にさえ思われました。しかし，これらのことが建築家の常識になる日がくるのではないでしようか，建築家は住居空間の無限へのつながりを夢みています。ガラスはその何かを与え，アプローチや Outdoor Living もそうでしよう。 それと少し意



舞台上部可動反響板



コマ劇場客席

味は異なりますが，コマ劇場の機構は30坪の反射天井の昇降その他により室の容積をVariableにします。容積を自由に変え得る空間，それは建築に更に大きな可能性を暗示します。そして建築と一体となつている超短波無線および電気音響的な最新の設備をも含めたコマ劇場の機構は，建築に流れる新しい血液を思わせます。

世界は町全体をプラスティックで包んだ住居空間を考え，また，アイソトープの利用が建築材料の将来に夢を持たせてくれます。建築家が自然に対応して全てオートマティックに適応する快的な建築をする時がくるでしょう。しかし夢を実現するためには建築家は自然科学をマスターし，立派な科学者として機構の創作者にもならねばなりません。自然と強要されたコマ劇場における私の立場は，私に何かを教えてくれたようです。吾々は偉大な建築家を知り彼らの思想や作品から恩恵を受けていますが，私たちは彼らを基礎にして，より多くを知らねばならぬ義務があります。もし過去の建築の可能性の中だけで考えたり，建築を個人の作品化しようとするならば原子炉の燃える世界から取り残されるでしょう。

コマ劇場に試みられたものは次には更にシュアーに，更に可能性の限界を求めて次の建築を進めねばならないと思います。（以上）

北 村 隆 夫

昭和2年4月18日生
大阪大学工学部構築科昭和26年卒業
昭和26年竹中工務店入社，以来設計部勤務
設計に従事した主要建築
新日本放送，朝日放送
天理大学プール・スタンド
南街会館，梅田日活劇場，
コマ劇場





梅田ビル夜景

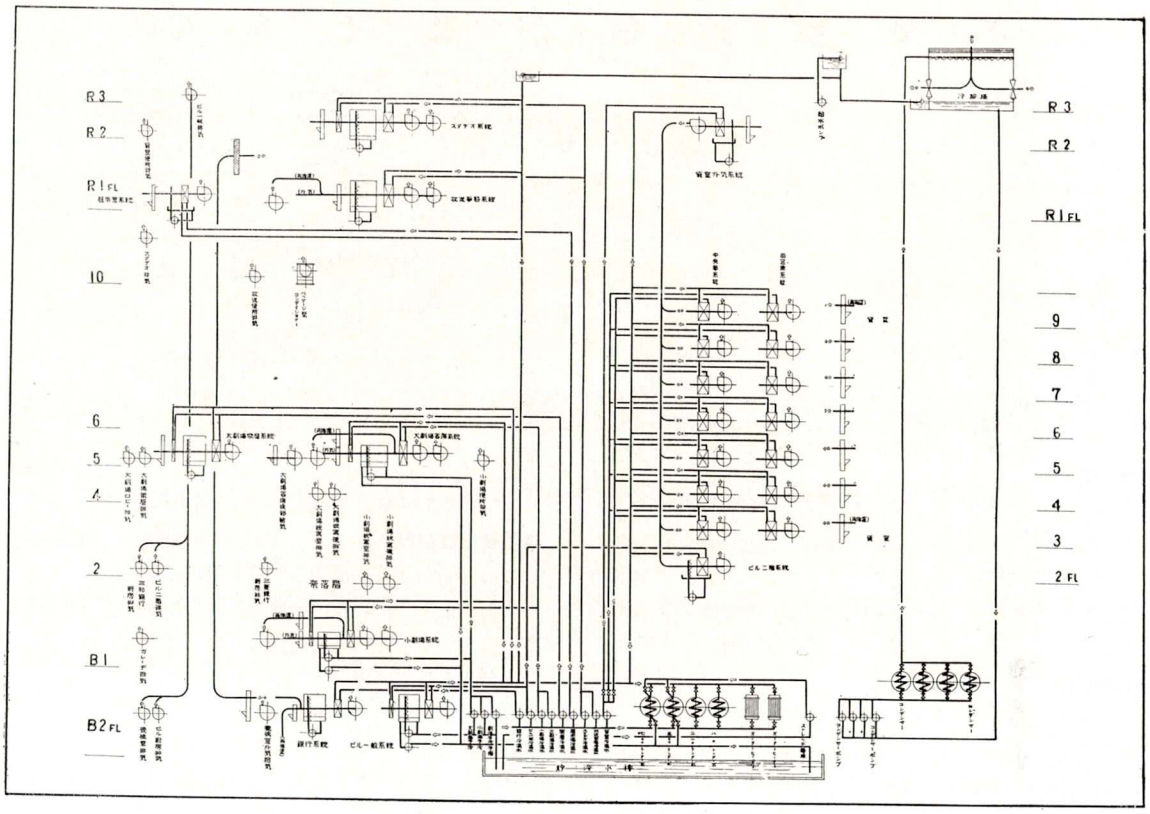
設備工事を担当して

竹原義昭

今日の設計事務所 あるいは GENE • CON の設計部において優秀な設備設計者が少ないことは，その性質上から見て大きな欠陥といわねばならない。意匠と設備とが密接に結びついて，もはや不可分となつた現在，設計事務所または GENE • CON の設計部で作製される図面は意匠：構造と同様に設備からも十分検討を加えられたものでなければならない。それ故に意匠も構造も理解できその上に多方面に亘る設備 • 設計に堪能な人，しかも優れた意匠設計者や，秀でた構造設計者の SENSE に劣らぬだけの，豊かな感受性と表現力を持つた人を要求される。意匠，構造も勿論そうであろうが，設備 • 設計も相当広範囲の知識を必要とされる。例えば，冷暖房換気設備，給排水衛生消火設備，照明，屋内変電所，幹線，動力等の電気設備，電気時計，火災警報装置，拡声装置等の弱電設備，電話設備，昇降機設備，瓦斯設備… etc が挙げられる。それらの各々について CLIENT や DESIGNER の要求に応じ，これを消化して意匠ならびに構造設計の中にうまく融け込まして，設備設計をまとめてゆくことは，なかなか難かしいことである。勿論，それぞれの分野においては専門業者の知識を借りなければならないことは多いが，その細かい専門の知識とは別に，その広い範囲の総べてに亘つて取捨選択して建築設計に最もふさわしい Arrange をすることは，また別に重要な意味を持つものである。それらの一つ一つについて一応の理論を理解した上で，今まで体得した経験を生かして設計してゆくこと，そして，それを現場に実現してゆくこと——それは近代建築において設備工事の果す役割が，大きくなればなる程，重要視されねばならぬ問題である。ここに GENE • CON の設備技術者が必要とされる所以である。

今，私のいる設計部は意匠の面において独自な，一つのカラーを持つている。それと同様なことを設備の分野においても創り上げたいと思つている。他とどこか違つた ETWAS，バランスのとれた無駄のない，しかも味のあるものを設計上からも施工上からも追求したいと望んでいる。

いま，さしあたつて次の 3 つのことをやりたいと考えている。その 1 は意匠設計者にすぐ役に立つ設備工事の Hand Book のようなものを作つてみたいことである。pipe-shaft の大きさとか，ダクトの寸法，機械室の広さとかいつたものが簡単に判れば設計上便利がいい。勿論正確には計算に基づく設備設計に俟たねばならないが，その概略寸法は比較的簡単に求められることが多い。専門の設備技術者向きでなくて製図板の横にちよつと置い



某ビル冷暖房系統図案

ておいて，設備に関することで問題が起つたら拡げればすぐ求められる——そんなものを作つてみたいと思つている。

その2は研究家の研究室での成果を設計に現場に応用してみたいと思うことである。例えば一部の計画原論研究グループの研究されている課題の中には優れたものが多いことは羨ましいと思う。しかし，これを実際の設計に取入れたり，複雑な条件の重なつた現場において応用される迄の工夫と努力が足りないのではないか，そしてそれを一度や二度の失敗はしても，良いと信じたらやつてみたいと思つている。

そして，その3は外国の優れた設備の IDEA を取入れて日本化して使いたいことである。外国の雑誌を見たり最近外遊された方のお話を聞いて，設備に関することで随分進んでいることには驚かされる。それを，そのまま取入れることは危険であるが，日本の環境に適応するように改良して用いてみたいと思う。高圧ダクト，幹線のブス，機器類の Unit 化等は是非やつてみたい事柄である。周囲を見る毎に自分の知識の貧弱，実力のないことを痛感する。これからも一層努力して諸先輩の御期待に副いたいと念願している。



竹　原　義　昭

昭和3年7月22日生
京都大学工学部建築学科（昭和27年卒）
竹中工務店設備部
（担当した主な工事）
工場：京都専売公社（冷暖房・電気・衛生設備工事）
ビル：梅　田　ビル（全設備工事）
ビル、ホテル、劇場：
新朝日ビル（全設備工事）

不安感論争が導くもの

―構造とデザインと―

坂本勝比古

▶はじめに

毎年建築ジャーナリズムの世界には，社会的背景の上にいろいろのテーマがとりあげられ，論ぜられている。これらはそれぞれに関連しているのであるが，近年最も大きな反響を呼び，一般人の建築開眼と建築界の反省を促がしたものは，いわゆるガラス張建築に代表される不安感論争であつた。この問題については「建築雑誌」・「建築と社会」をはじめ，各建築専門誌が相前後して特集号を出し，活発な論議が闘わされて一応出尽された感があるが，この論争は建築のもつ複雑な性格をさらけ出すこととなり，本質的な意味において建築の在り方に非常に多くの問題を投げかけている点，今後ともいろいろな立場から取上げられる可能性を多分にもつているといえよう。

そこで私は，この論争の生んだ問題点を整理し，この論争から導き出された，いわば今日の建築界に要求される諸問題について筆を進めたいとおもう。その前に今度の竹山・浜口論争は次元の異なる世界の論争であり，同一の場で批判することは出来ないという説がある。従つて異つた対象物を論難しても当らない。芸術の分野で技術の評価をし，技術の場で芸術の価値を問うても無意味であるというのである。この見方は確かに真理の一面に触れるものがあるが，しかしこのような論争を引起した根底に永い間（19世紀初期より現代に至る）の建築は「芸術か技術か」という宿命的な争いの流れが感ぜられるのは私だけであろうか。古き建築は限られた材料と工法により古典の模倣か，あるいは優れた建築家の独占的造型感覚かによつて，宗教権力または貴族階級の象徴として生まれていた。その芸術万能の建築が自らの足下をぐらつかせてより百年以上の年月を経ている。近代建築を強力に推進した多くの人々のうち，近代工業の生んだ鉄・硝子・コンクリートなどの新材料と構造力学の活用を基礎に，合理的・機械的に建築を作り出さうとした技術者達がいた。彼らは芸術に対する激しい意欲はみられなかつたが，拡大しつつある工業資本の要求する新らしい型の建築に彼らの技術をつぎ込み，それらはやがて優れた幾何学的建築の形態を生み出したのである。

▶背後のながれ

この論争の前後にある日本建築界の動きは如何なるものであつたろうか。戦後の建築界の歩みは敗戦当初の混乱からいち早く建築の民主化が叫ばれ，軍閥・資本家への奉仕者としての考えから一転して人民のための建築を目標として，建築家は国民とともにあらねばならないと説かれた。当時の経済の貧困は建築の実践活動を充分に行い得ず，もつぱら言論と文化運動の展開をもとに大衆への滲透が計られていた。そして各種の建築団体が生まれて進歩的な動きのなかに建築家の主体性の確立と，遅れた技術の修得に力がそそがれていた。その最大なるものが NAU の誕生である。浜口氏の「ヒューマニズムの建築」（47年）はこのような時期に出版され，機能主義の力を認め虚飾を排して機能的に忠実なもののみが正しく，美しい建築を生み出すとして当時の考えに理論的裏付を与えるものであつた。これらの動きはみじめな環境のなかから芽生えたものであつたが将来への期待は大きかつた。しかしこの希いも冷戦の激化と，政府の反共体制の強化は外部からの圧迫感となり，内部には，機能主義的立場を擁護するものは近代主義的帝国主義に通ずるものとして反対するマルクス主義的立場に立つものの登場があり，加えて朝鮮動乱の勃発は NAU の崩壊を早めることになつてしまつた。

またこの動乱は建築ブームを招来し，建築家は否応なしに仕事に追われ，技術の切売りと作品欲が誤つた意匠過剰の傾向を生むことになつた。しかし反面このころから純粋に美しい建築の作品も現われてきた。谷口吉郎・堀口捨己・清家清の諸氏のがそれである。加えて海外における日本建築の好評と講和条約の締結は伝統の再認識を国民も建築家も意識するようになつた。

また，これと別の動きは敗戦によつて自から方向づけられた工業主義への傾斜である。これは資本家の要求する近代産業の高度化に，建築家が技術的に応じようとす

るもので，機能主義の発展の上に立つて，日本建築産業の近代化を促進せんとする希いもこめて，テクニカル・アプローチとして前川国男氏らが努力を払つている。建築家の主体性擁護の動きは，国会図書館コンペにからんで高まり，協同設計問題，各種研究グループの結成が，一時低調となつた建築運動を再び盛り上げようとしている。これらのながれをみるとき，建築界の動きは，一地方色・一流派の力では如何ともなし得ず，時の政治・経済・社会の動揺と密着して国際的視野から洞察することの必要を感ずるのである。最近の建築界は，実践の面でも経済的好況を反映して益々その活動範囲を広め，どの地方にも近代工業の延長としての近代建築がみられている。浜口氏はこれを評して「日本建築史上における黄金時代」出現の可能性ありとしているのである。このような時期に生じた今回の論争が謙虚な意味での反省，活動の底に沈む垢を排泄し，新らしい前進を約束させる力となることをば疑い得ないのではなかろうか。

▶不安感をめぐるもの

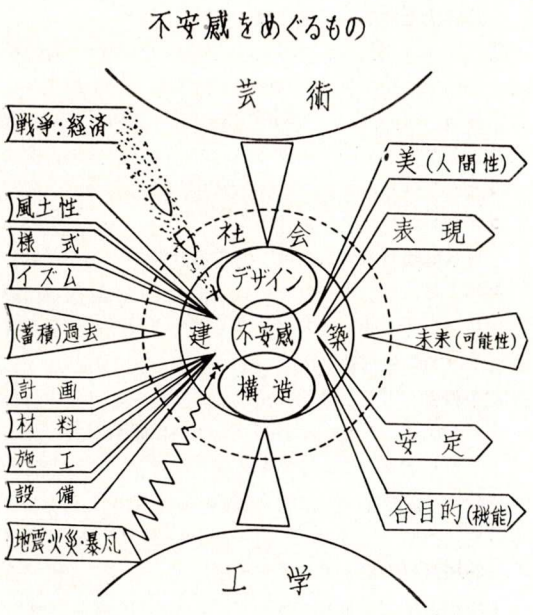
ではこの不安感とは何か，それを要約すると，

1. 物理的破壊に対する不安
   地震・火災・風圧
2. 室内気候に関連するもの
   室内気候・音響・結露・暖冷房負荷の欠点
3. 材質より受ける心理的不安
   透明性・脆損性，ひややかさ
4. 表現のもつ不安
   芸術性・総硝子の圧迫感
5. 以上の総合として建築不信が生む不安
   経済の貧困，民衆との遊離，戦争，ノイローゼ

などをあげることができる。1. と 2. は純粋に技術的問題であり，3 は技術的心理的範囲に含まれるもの，4 は芸術的分野に属し，5 は社会心理学・精神医学と結びつくが，4. との関連は深いであろう。かような意味での不安は各々の立場において，さらに分析し検討されるべき性質のものであるが，不安は現代芸術に共通する兆候であつてそれを建築に当てはめて〝現代建築の表現の中には不安感がある〟それを芸術的立場よりみるならば肯定されるとする浜口氏の見解，また竹山氏の〝建築家は芸術家である前に先づ技術者でありたい〟との発言も建築のそれぞれの立場においては核心を衝きながら，建築の全体を包含する観点に立つときには不満に思われるのである。

ここで私は不安感をめぐる建築の存在位置について図解を試みてみたい。

デザインと構造とはそれぞれ芸術分野と工学領域を代表し，不安感を中心に対立している。しかしデザインも構造も建築という枠のなかにあつて，それより逃避することはできない。構造的要素は計画原論・材料・施工・



設備など各種部門の技術的理解を心要とし，デザインの要素は風土性・様式・イズムなど抽象性をもつた感覚を要求される。これらはお互いの主張を繰返しながらミックスされ，複雑な創造過程を経て一方では美と表現，他方では合目的と安定（強さ）となつてその総合の上に存在価値を問われるのである。それは社会性とも結びつくのであるが，さらに人為的危険（戦争・経済など）と自然的破壊（地震・火災・暴風など）にも抵抗せねばならないのである。

▶論争が呼び起したもの

列挙してその重要性に簡単に触れてみたい。

○ **建築が工学的面と芸術性さらに社会性をもつことの再確認**

かつてローマ盛期アウガスタス時代の建築家ヴィトルウイウスのいつた建築にある 強さ，用，美 の三要素は今日も生きている。

○ **設計態度の問題**

佐藤鑑氏その他の人々の強く主張するところで，意匠的にも構造的にも設計者の設計態度を明確に意識すること，責任の平等な分担とそれらの統合，共同設計，分業システムの問題など，これらは更に後述する。

○ **Designer と Structural Engineer との協同体制の確立**

浜口氏はガラス張建築の物理的不安要素は，デザイナーになく，これの設計に協同した構造家の責任である。構造家がその責任を転化するなら，構造家の権利を放棄するに等しく，何時までもデザイナーと同列の地位に立ち得ないとする。塚本猛次氏はこの協同はお互いの立場を確保した上でのことであつて，安易な妥協はかえつて害になる，両極対立の上に真の協同が生まれるとされている。

○　耐震構造の無批判な信頼は不可

構造力学は過信されている。(竹山・武藤氏)　構造を弄んではならないが，Designer も構造の Detail を知らねばならぬ。(坪井氏)　欠陥は欠陥として認め，その弱点を改めながら，カーテンウオールに依る可能性の追求は今後ともなさるべきである。(木村俊彦氏)

註：(　) は主唱者を意味す。

○　日本建築教育の在り方に対する批判

毎年大量に送り出される建築技術者，しかしその社会的地位は低く，建築家と構造家・技術者等の建築生産過程における関係は雑然としてアンバランスである。これは建築教育がもたらす混乱であつて，学生も自分の進むべき方向に迷い外見のよいデザイナーに誰もがなりたがる，しかも彼等が生む建築が問題となり易い。建築家の地位の向上，建築の対社会的信頼をかち得るためにも建築教育の再検討が必要。(池田・佐藤・後藤・高山氏)

○　建築材料の科学的判断を要望

主に材料研究者よりの提案で，いかに目的の上で優れた材料であつても，その使い道を誤るならば価値は失われる。硝子もその例にもれず，美しい透明性，平滑な肌理，軽量さも今度のような問題に発展する。材料の選択は美的感覚のみでなく合理的・科学的な理解を必要とする。

○　建築評価基準の問題

建築の評価は今日まで成り立ち難いとされていた。これは建築が外見だけで優劣を決定し難いこと，特に用途の異なるもの，機能より来る必然性，耐用命数，管理維持等々，技術的考察を必要とする性格をもつからである。しかし今回の論争はこれらの問題を含めていろいろの角度から特定の建築物を評価する可能性が認められたといえる。例えば

イ，物理的化学的条件　　ロ，力学的条件

ハ，設計計画　　ニ，施工精度　　ホ，造型的構成

ヘ，社会的価値　　などである。

これらの諸点から竹山氏は建築の批評は総合的観点からなされなければならない。とくに完成数年後にその建物の価値が生まれるとする。従つて建物の全てを洗いざらし調査研究した上で，批評されねばならないことになる。これは非常に困難なことであり，建築主との関係も含まねばならないのであるが，試作的意味がある建築，建築主の了解を求め得るもの，また公共建築物の場合は建築界全体の向上のために是非行わるべきであろう。(坪井・池田氏)　これと平行して造型的意味における評価も建築が芸術としての位置をもち，芸術思潮との関連が深まるにつれ，それ自体成立するものである。彫刻・壁画・庭園などは建築デザインの上に位置づけることが出来る。なぜならば，建築はそれらが各々の機能を接触させる次元において生ずる空間を統一し構成させる必要且つ充分なる条件を備えているといい得るからである。

この項に関連して現代社会におけるジャーナリズムの影響力の大きなことに注目せねばならない。建築評論がジャーナリズムの強大な力を利用すればその立場はますます強まるといえる。しかし，ここで建築ジャーナリズムに望みたいことは正しい建築(非常に抽象的な表現であるが)の在り方，現代建築の真に求めているものがいかなる蓄積の上に遂げられるかということ。建築と社会との結びつきにおいて最善の道を歩んでほしいと思う。これは単なるファッション・モードを造り出したり，ニュース・ヴァリューのみを追う姿からは得られるべくもないのである。今回の論争に関する限り各建築ジャーナリズムの取扱い方は慎重且つ研究的であつた。

○　日本における建築家の地位

日本人の建築に対する関心の程度は，こと自分に関する以外は低調であるといわれていた。日本の如く四季に恵まれた風土に生活し，経済的にも豊かでないものにとつて，建物は雨露をしのげればよかつたのである。しかし敗戦のもたらした深刻な住宅難，都市の膨脹による大建築の出現，技術の向上に加え，意匠過剰の生んだ建築の美，復古調が奨励する古寺巡礼は建築への関心を除々に高め，われわれとして一応喜ぶべきことであるといえる。しかし建築家の地位は一向に上らないのである。建築が注文生産システムであることも関係して，建築主には頭が上らないのが実情のようである。建築家ファシストといわれることは建築家の立場を高めることに役立つてはいない。これは外部との関係であるが，内部においてもデザイナーと構造家の上に立つ建築家の場が必要とされている。しかしその場はあくまで下から盛り上る力によつて支えられていなければならない。

○　公衆の場での発言は慎重であること

人間の生活の上に密着している建築の場合，それに関する公けでの発言は不用意になされてはならない。例えば，ある医者が「かくかくの症状を来たしているものは不意のショックに会うと死亡する」とか，また一方では「そのような症状は精神医学の面からみると好ましい現象である」などということを突然発表するならば，その症状を意識するものにとつては大問題となる。よしそれが警告的な意味であつても，内部での充分な討議がなされ，内部からの支持の上に立つものでなければ，責任ある態度とは受取り難いのである。竹山氏は，建築家は専門誌に発表しても余り読まれないので，公衆の場で発表すれば，それで建築家に関心をもたれれば多少の犠牲はあつても止むを得ぬ，といわれるが，内部の問題としての方法は他に無かつたのであろうか……。

○　全面総硝子建築を合法とした現行法規の矛盾

現行の建築基準法は建築物の質の向上を計るための最低限の線を示すものであるが，それすらもなかなか守ら

れない現在，現行法規が大胆な前進を許容する寛容さをもつものか，火災や風水害に対して殆んど無抵抗の建築を現在の社会水準では止むを得ぬものとして自認するものか，いずれにしても建築家の良心が期待されるのである。

○　日本建築会議の提唱

横尾氏がたびたび述べておられる。日本の代表的建築家，構造家，建築史家，批評家などが，総合的見地から日本における建築のあり方を主張し，討論し，批判する催を行うこと，これは各々のジャンルにおける意志の疎通を計り，社会の要求する健全な建築の育成に努力することになる。今の学会，協会，士会のいずれもが手掛けていない問題である。

○　現在の施工技術で納得のゆく設計であること

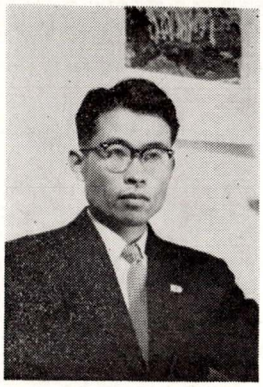
施工技術は近代建築の可能性を追求する上でのバロメーターとなるものである。いかに美しくあり，堅固なものでありたくても施工技術のレールにのせられないものは実現し得ない。日本ほど美しい打放しコンクリートを打つ国は他にないという。デザイン意識に対する工業力の後進性，低賃金と低熟練の生む施工精度の難しさは，納まらぬ設計図に泣くのである。しかし，この技術も設計と構造との協同と，あくなき研鑽とによつて発展をとげるものであることはいうまでもない。

○　再び設計態度の問題を

以上不安感論争にからんで抽出された問題点を極く大雑把に摑んでみたが，一番重要な意義をもつ設計態度の問題につきさらに述べてみたいと思う。設計の態度もしくは姿勢というものは建築の創造過程において最も本質的なものであり，これを充分意識してそれの完全な定着の上に設計がなされるものでない限り，第一歩の踏出しにおいて誤りを犯すことになりかねないのである。つまり態度とは意識化のことであるといえる。

この意識は設計線上の登場する建築に関連するもの全部に及ぶが，それ以外にその人個人のもつ教養なり経験なりの人格的要素，それに現実の社会に対する感覚にも結びつくものである。設計活動はこのように多岐に渡る知識・経験を必要とするので，建築家一個人にのみその全てをゆだねることは，複雑化している今日の建築機構の中では非常に高い能力を要求され，やがてはそのための失敗を引き起すことも予測されるので，ここに協同設計なり分業システムという方法が存在価値をもつようになるのである。協同設計は近年いろいろの面から試みられ有名建築家のそれとして「国際文化会館」があり，各グループによる協同設計は，次々と問題作を生み出している。これには各スタッフの人的融和（横の連りとして重視される）　各分野の平等な発言権，客観的判断による偏見の減少（独善性の排除となる）　これらからもたらす現実認識の普遍性（各人の能力の均等を基調として）

坂本勝比古



1926年　中国青島生れ
昭和24年　神戸工業専門学校建築学科卒
　　神戸市建設局建築部営繕課勤務
作　品　神戸市外国語大学研究所その他
　　“谷口吉郎の人と作品”近畿六府県建築士会報
　　“現代建築と不安感”“無名戦士の墓によせて”など
　　「新建築」に投稿

等々，いろいろの利点（欠点も現在の段階においては多々あり）を生かすことができ，設計の合理化の上で今後とも充分研究され，発展させてゆくべきであろう。坪井善勝氏は「建築が住むための単なる容器から抜けだすためにも，デザイン，構造，設備の有機的なつながりと，デザインの組織のなかでの造型的な部分と技術的部分との責任分担が行われて，建築はこれらの綜合と統一とによつて生まれるべきであり，飽くまで共同設計のもつ合理性を生かさなければならない。デザインと構造との強いつながりも，　このような基盤があつて生長する」（建築雑誌32年2月号）と述べられている。

われわれは当面する問題についていろいろな角度からこれを追究し可能性の実現に努力を惜んではならない。

不安感論争が生みだしたもの，それはプラスにこそなれ，それによつて，マイナスになつたものはないであろう。もしあつたとしてもプラスの面はそれを補つて余りあるのである。私はこの論争に怖れて，前進を阻もうとする保守的な意志をもつものでは勿論ない。いつの時代にも先覚者は時の社会の誹謗を受けている事実を知つている。そのような意味において「日本式超重構造とのたたかい」と題するミド同人らの設計態度およびこの論争の当事者その他真剣にこの問題をとりあげ，討論されて現代建築の方向を探られている諸先輩の識見に対して改めて敬意を表したいと思う。

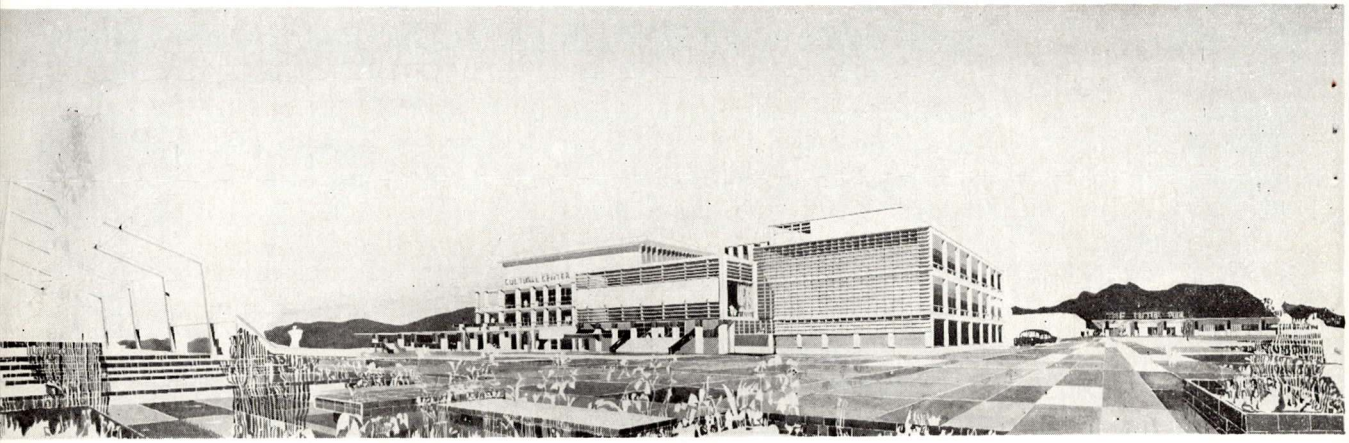
▶あとがき

私は，不安感論争に関連していろいろと述べてみました。もとより浅学菲才の身であり，意を尽し得ぬ点，また分不相応の申立ても多々あり，礼を失するむきもあろうかと思いますが，今後の建築設計態度の上でこの小文になんらかの意義を見出されるむきがありますならば望外の幸せであります。御批判を仰ぎたいと思います。

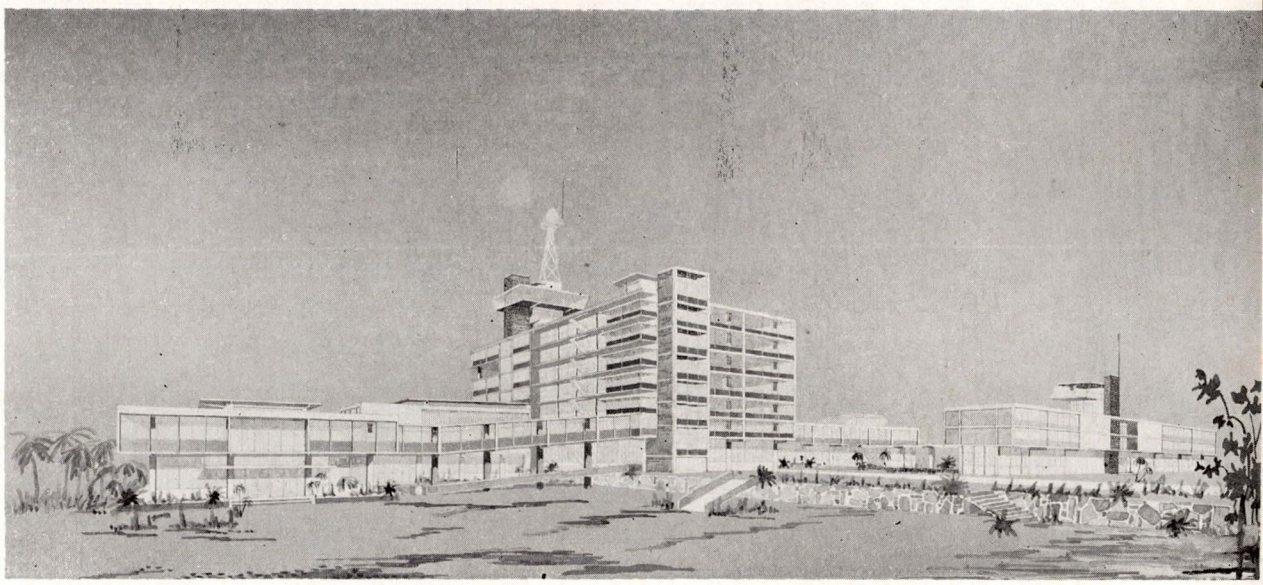
工高卒業設計入選5点　(順不同)



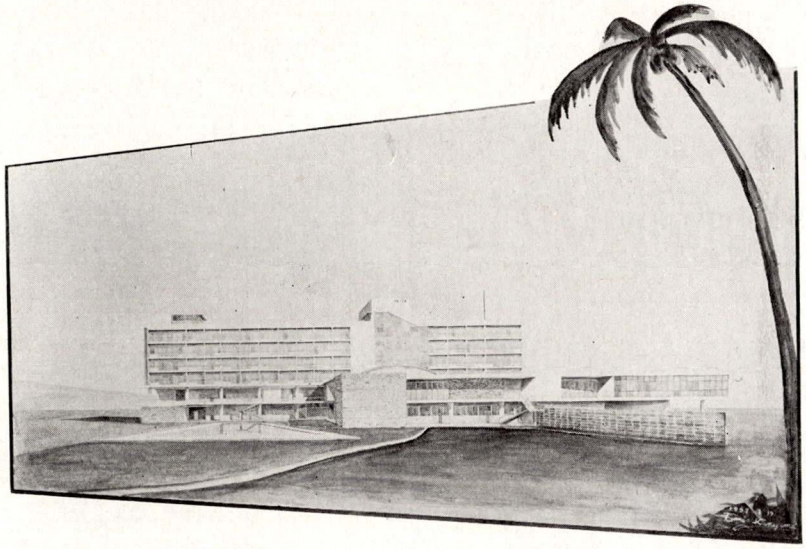
サービス・ステーション　　大阪市立工芸高校　川瀬友造



府民会館　　大阪市立都島工業高校　弘瀬敏男



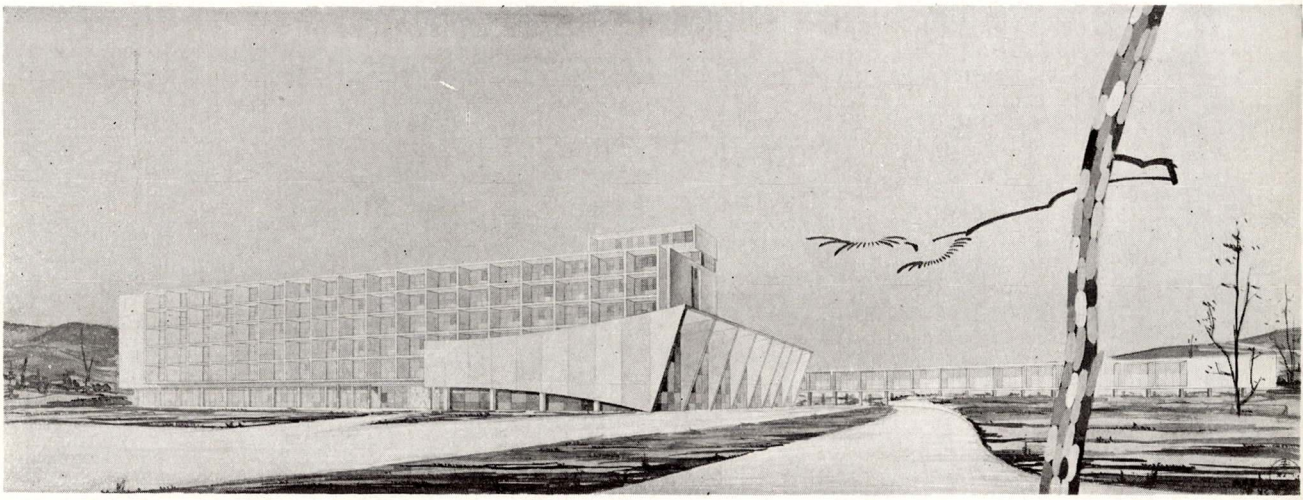
気象観測所　　大阪市立工芸高校　三沢　修・久保　漢



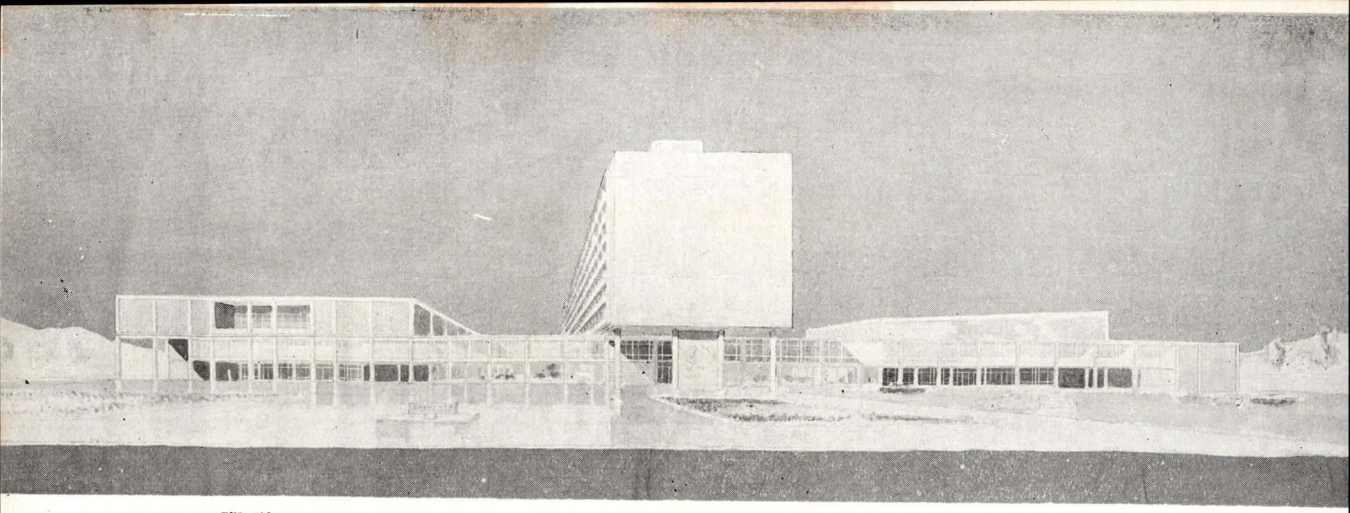
レゾート・ホテル

大阪工大高校

金山不美男



綜合病院　　京都市立伏見高校　清水道央



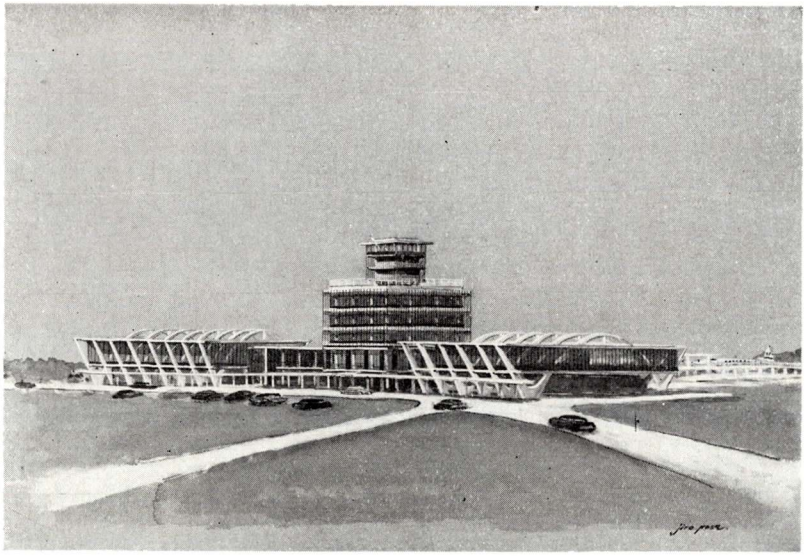
国際学生文化会館

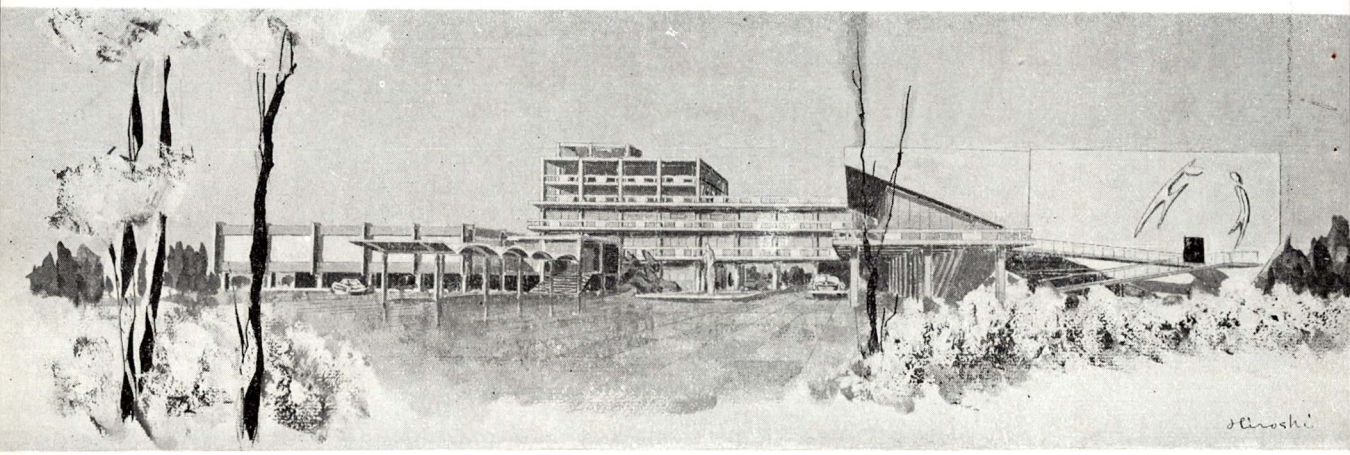
大阪大学　東　孝光

大学卒業設計入選3点（順不同）

TERMINAL BUILDING
for
HANSHIN INTERNATIONNAL
AIRPORT

神戸大学
能勢次郎





アート・センター

神戸大学　田畑　宏

青年建築家座談会



・仕事と生活の悩みはあるけれども・
・若い人が活動していくのにディスカッションはどうあるべきか・
・新人紹介はどんな功罪があるのか・

本記事は、「建築と社会」の「青年建築家特集」（第1回＝昭和29年6月号，第2回＝昭和30年6月号，第3回＝昭和31年6月号）に紹介された青年建築家諸兄に集つていただき，新人紹介の功罪について，職場でのデイスカッション，生活と仕事の悩み等，若い人達のいろいろな問題について座談していただきました要旨です。編集の都合上，相当割愛したところもあり，発言者の意とするところが正しく伝えられていない点があろうかと存じますが，この点，御了承下さいますようお願いします。
（文責：編集部）

と　き　昭和32年4月6日午後6時半～8時半
ところ　近畿建築会館4階集会室
出席者　（順不同・敬称略）

今西茂雄	（今西デザイン・ルーム）
力武利夫	（清水建設KK大阪支店設計部）
松村慶三	（倉敷レイヨンKK営繕部）
倉石秀夫	（KK 竹中工務店設計部）
吉岡吉雄	（KK 大林組設計部）
平生舜一	（KK 竹中工務店設計部）
三田一男	（三田建築事務所）
井上滉	（大阪建築事務所）
佐久間宏	（大成建設KK 大阪支店設計部）
嶋村隆次	（大成建設KK 大阪支店設計部）

編集側

委員長	佐野正一	（安井建築務事所）
前委員長	浦辺鎮太郎	（倉敷レイヨンKK営繕部）
	西山卯三	（京大工学部建築学）
	足立孝	（阪大工学部構築工学）
	上林博雄	（大阪市大家政学部住居学）
	岩本博行	（KK 竹中工務店設計部）

佐野　今日は格別の議題というむつかしい問題ではありませんので，ごくフリーに話をして頂きたいと思います。話の順序上，一応，編集側で用意しましたテーマは

1. 新人というものを紹介することの意義なり功罪について。
2. そういう若い人達が，建築界で活動していかれるに，いろいろな障害があると思いますが，どういう風にしたら一番活動しやすいだろうか，について。
3. 現実の問題として，職場での御苦心，あるいは生活と仕事の上における悩みなどがあることと思いますが，それらについて。

以上のような点について，話を進めていただいたら幸いに存じます。

それでは，まず始めに，新人を紹介することの意義なり功罪について話をしていただきたいと思います。

1．新人紹介の功罪について

今西　私のところなどでは人数が少いですし，功罪ということについては，いわゆる商業デザインが多いのですから，それは大いによろしい。（笑）私ら功罪ということは，対外的でなく内部での方にかえつてあるのじやないですか。

佐野　小さな会社ではそうでしようが，大きな会社のなかで，若い技術の方が何か特別な表彰というと大げさですが，そういう機会を与えられることは現実には，どうなんですか。

倉石　雑誌にのつたから，どうということはありません。職場のなか，あるいは日常生活に何の変化もない。

平生　自分の設計が，雑誌（社内の雑誌でも）に発表されたということは仕事の上だけであつて別に関係はない。我々としては個人の力より集団の力の方が必要なことで，新人として雑誌にのつたかどうかで個人的に実力を発揮できるか，できぬかという問題は別じやないかと思います。組織の力が必要で，結局おしなべて均一な力を出せる組織を我々は必要としていると思つているだけです。

佐野　そういうときには，かえつて個人を対象にしてそういう顕彰運動をするということは害があるとお考えですか。

平生　いや，それは顕彰したとしても，功罪というものには関係ないんじやないでしようか。それは現実の仕事というものとお互に影響しあうことはないんじやないですか。

佐野　これは，カテゴリが違うんだろうと思いますけど，何らかの意味で関係がないと，全然別個のものを一般的な流れと全然遊離した動きをしてしまう。だから，それを関連さしていくには，とくに大きなところでやつておられる人達に対しては今後どういう風にやつたらよいかということ，それを一つお聞きしたいんですが。

佐久間　たとえば，デスクプランやアイデアを取り上げるということですが，それは取り上げ方として非常にいいんだと思うんですけれども，そういうところに反面その社会性という問題と矛盾したものが，出てくるんじやないですか。

佐野　そうすると，あんまり実際の作品を作り上げる過程を出さないで顕彰するということが大事というのですか。

佐久間　つまり，その，作品として有用とか，そういうものと一緒に裏付けをしないと……。建物として細かく考えると，純度の高いということと，普段心がけているということと，違つた方向の二つの問題に分れてくるんじやないでしようか。

井上　今まで誰か一つのエレベーションをまとめていく，その場合，若い人・フレッシュマンのアイデアというものは殺されるわけです。そこで，そういつた人達の一つのハケ口といいますか，まァ懸賞という形で社内で募集する。ですから，懸賞募集だけ社内ですることが，害があるとか，ないとかいうよりも，むしろ非常に若い人のアイデアというものが，直接上の人にも反映しますし，また上の人が面白いと思えば，それを採用していけば，今の新人を探すということも案外できるんじやないですか。

吉岡　私の所も，やはり何か一つのまとまりということになれば誰かが一人主体となつてやるわけですが，その場合，雑誌なんかに出すということになると，我々の場合では受動的立場で出すというわけですが……。

けれども，やはり自分自身の仕事に責任をもつて，ある程度主張すると同時に，また自分に批判的な自覚をもつという意味で，こういう企画は有用なのではないかと思います。その場合，ただ建築の仕事を進めて行くという意欲に支えられているものであれば，社会的なことに躊躇する必要はないのではないんですか。

浦辺　何か大きな組織でやる場合，独立プロダクション式にやつているのか，それとも何か共通の約束があつて，それを基準としてやつているのか，事実はどちらが多いのですか。

独立プロというのは，独立プロのグループの人々の作品主義になる。だから相反するものがあつてもいいわけなんです。そこに共通性のものがない。共通性というのはディテールはこういう風にするというような約束——工学的約束です。こういうものを基準にして，あとは独立プロの自由配慮に任しているのか，あるいは，別に作品主義だけでやつているのか，実状はどうですか。

岩本　今，浦辺さんのおつしやつたとおりで，ある約

束はあるわけなんです。しかし後は，独立プロでやつているわけです。だから平生君なら平生君の味は十分でているわけなんです。しかし，大きな所で，やはり，ある約束があります。

浦辺　これは一つの近代建築の枠で考えれば，同じ社内でもそうですし，社外でもそこに今まで皆が努力して到達したある客観的立場があると思うんです。それで客観的な立場は，あくまで守る，しかしそれ以上はまだ全部客観化されたわけではないから，まだ非常に多く主観的な面が残つておるわけです。ところで約束を守つての上の主観を生かすのか，無視して主観を生かすのか，そういう点でこの新人紹介の功罪が決まると思うんだ。皆そういう共通な約束というものが背後にあつて，さらによりよく発展さすというような努力であつたら，大いに買うべきですね。しかし約束を守らずに主観だけで変つたことをやるような程度のことは非常に害が出ると思うのです。一つの売名的なことをやればですね。まあ，それだけのことですね。

西山　さつき，雑誌に書かれても，あまり日常生活に何の変化もないという，手きびしい批判があつたんですが，つまり〝建築と社会〟にのつても大したことでないということですか。

平生　いや，そういう意味ではないんです。少くとも外部に対して仂きかけることと，我々の会社の仕事ということは，その組織の性質上，全然別でなければならないと思うのです。

西山　その場合，こういう表彰，まあ実際の表彰ではないんだけど，一種の社会的な表彰がプラスの効果を与えてる面とマイナスの効果を与えてる面があると思うんですが，それをザックバランに話して戴きたい。たとえばグループで仂いている何人かの一人を取上げてきて今までやつたんですが，そういう場合，それは迷惑だという場合もあると思うのですがね。その一人を引き出してきた評価の基準に対して疑問はございませんか。

岩本　それは，こういうことなんです。一級建築士に受かつたら表彰される事務所とか，請負会社があるんです。私どもの方では受かつても受からなくても関係はない。それよりも実際にプラスし，実際の活動の方が必要なわけで，一級建築士に受かつても，使い物にならんというのはダメなんです。同時に雑誌にのつても実際活動で使いものにならんのはダメなんです。平生君にしても倉石君にしても，のつたから良かつたんではなく，実力があつたからのつたんであつて，彼らが認められるのは常にそういう実力を持つているから認められるわけで，それ以外のことは別段関係はない。

西山　やつぱり，雑誌に出ても大したことはないゆうわけですな。（笑）そうすると，これの影響は主として対社会的なものだというわけですね。問題は，ただ〝建



築と社会〟か外側に対して建築の P．R 活動をやつているね，それに利用された一つの名前というように考えているというようなことなんですね……。

岩本　そんなに割り切つているわけではないんですがね。（笑）

佐野　それに一般的に建築の動きというものが，昔のように個人的な能力を重んじなくなつているという傾向が一つありますね。それから建築の地位はそれに関係するんだろうけれども，大きな設備をやらないと，非常にやりにくくなつているという点がそこに出ているわけです。

そこでもつて今の社会的に建築の一般的通性として，個人の技能はほとんど無視されているという面と二つが色々からみ合つているんだろうと思う。まあ功罪とはっきりいってしまうと，どぎつくなりますけれども，私どもが気にすることは，将来こういう風なやり方でよいのか，どうかということなんですよ。やめてしまうほど罪のあるものではない。やるならば，確かに何らかの使命を果しているんだろうと思うんですけれど，それをどうやつて伸ばしてゆけば一番効果的かということなんですよ。

倉石　それは，やつぱり〝建築と社会〟というこの雑誌のレベルを上げていくことが大事なんだと思いますがね。（笑）

佐野　それはそうなんだろうけれど，問題は結局大きい雑誌ならば何故取上げないかというような営業政策もあると思いますが，仮りに〝建築と社会〟が数万部の発行部数をもつている雑誌だと考えてもらわんと話が混雑する。この場合にこういう表彰することはいいかどうか，そうなつたとして考えていただくわけです。そうするとどうなるか，その場合でも意味があるかどうかということですね。

平生　意味はあると思いますね。つまり，いま申し上げたように私どもの会社自体の活動はそのようなことに影響はないと思いますが，また影響があると困るといつた組織なんですが，対社会的というのか，他の有能な人々の名前を私が認識することができて，その方々といろいろ建設的な意見を出して，自分ももつと勉強させても

らうし，そういうことになれば，全然今まで存じ上げなかつた方々といろいろ意見を交換できるわけですから，非常に有益になると思います。

佐野　それは非常にいい御提案ですね。要するに雑誌にのる，のらないの問題でなしに，つきとめていつて一つの新しいサークルというか，つながりを作る基となると思うのです。

岩本　しかし，こういうことではないですか。たとえば小説志望家がですね，自分の小説が活字になつて，どこかの雑誌にのつた場合には，非常に喜びを感ずるわけですね。我々も一つのデザインをやつて，それが実現した場合には，一人でそれを見にいつて楽しんでいる。その上，こういう雑誌にのつてスポットを当てられたことは非常に嬉しい。そういうことが，まあ生きている喜びではないんですか。そういうものを否定する必要はないと思うんです。

2.　若い人が活動するには

浦辺　東京の〝新建築〟並みに良くすることだが，大阪は東京と比べて見ますと，建築人口も異り，レベルも落ちていると思うんです。しかし人口は三分の一であるけれども，レベルを上げることは可能だと思うんです。関西の建築活動をにぎやかにするには，全体を上げることが大切だと思う。全体のレベルを上げるためには，一番おくれた者を引つぱり上げるのとトップに進んでいる人にもう少し高く上つてもらうということで，現実の問題としては，やはり，青年建築家層に，期待できる人には大いに，先頭に立つてレベルを上げてもらう，そういう努力が行われんと，一躍〝新建築〟みたいにはなり得ない。その努力の一つとして新人紹介ということを取り上げた原因だと思う。これは東京ではやつていないことです。

——関西の評論——

それから，関西の建築と東京の建築の比較の時に，建築界全体としての動きの大きさをみると，向うが評論が非常に盛んだということなんです。こちらは建築評論があまり盛んではない。　だから評論という点がないわけなんだ。関西では建築と社会を結びつけるこの評論が非常にさびしいと思う。その点では建築だけでなしに全てデザインと名のつくもの皆そうなんです。例えば工業デザイナーでも商業デザイナーでも関西の人に非常にいい人がいる。服装デザイナーにも，いい人がいる。ところがそういうここの各デザインの本を見ていると，評論家が一人もでていない。みな東京から来てもらわねばならない。

西山　それは関西の人が利用せんからだ。

浦辺　まあ西山先生というような評論家がいるのは，むしろ例外的なことであつて，（笑）評論というのが関西では育たないのか，あるいは一つの原因として考えられるのは東京の場合は非常に生存競争がはげしくて建築界の競争も特にはげしい。そうすると誰も前へ出たがるわけなんです。前に出なくては，やはり生存できないということになつているんです。しかし大ぜいの人間が皆前に出る時には一緒に出たとて，それは一つも効果がない。そこに何か演出がいるわけなんです。そういう演出の作用をやるのが一種の評論家というもので調整をとるとか，演出をするというか，そういう評論家というのがおるわけです。その点で関西では，そういう評論をやる人はいるんだけれども評論家はいない。評論家というものは，定義をはつきりいえば，評論やるのが評論家ではなしに，評論やつて飯が食えるということと思う。専門的に評論をやつて，十分飯を食える基礎があるということなんです。それが建築だけではなしに，他のデザインの関係でも評論そのものをやつて飯の食える人はないわけなんです。だから，そこらに問題があると思うのです。

吉岡　いま浦辺さんがおつしやつたことについて，かなり関西の方は，つまり功利的に人の悪口をいうわけではないですけれど，そういうことをいうのは悪いという考え方が，やはり，潜在的にあるんじやないかと思います。それに，何か，一つの問題を提起するという場合，自分で批判なり，たたかれることはありますけれど，それに耐え得るだけの，こつちにも態勢がないということがあるんではないかと思います。

浦辺　たたかれる方にも，そういう点は大ありだと思うのです。おとなしいというのは，そういう意味でやはり評論家の対象となれば非常に被害も受けるわけだ。そして，その被害に対して返答のできないという点があるのではないか。

吉岡　それは今，評論家の側ではなくて作品についても同じことがいえると思うのですがね。

佐野　それと，いまの新人顕彰の問題と関連があるんですよ。こういう形で出すということは，我々からすると作品の内容をあまり問題にしない，推せんされた形でそのまま鵜呑にして出しているわけです。ということは評論無用の形として出すわけです。この方向で今後いつた方がよいのか，それとも，もつと作品中心主義としてグループなり個人で作品を中心にして大いに好きなように評論してもらい，それに対して，こつちにも答がありますよという形と，どちらへもつていつた方がよいのか……。

吉岡　私は紹介でなく，そういうことが前提に考えら

れて取り上げられると，そしてグループなり，その人自身に対して，そういう考え方ができてくるというところに意義があると思うんですけれど。総花的な取り上げ方としては，やはりまずいかと思うんですが。



——職場内でのディスカッション——

井上　評論家が関西では育つていないというのが，浦辺さんのお話ですね。結局，今みたいに大阪に必要なものは東京から呼んでくる，大阪の人自体が評論を育てないわけなんですね。

浦辺　地方色かなあとも思うんですがね。

井上　まあ一つのローカル・カラーがあるんですけどどうせ東京から呼んでくるから，ますます評論家もそういつたことをやつてみようとする人でも遠慮してしまうという。結局，育てない育たないという悪循環にしているんじやないですか。この際，いまの話のように作品を出すと，とにかく評論していただく。そうやつているうちに，お互に訓練されて，いわゆる評論らしい評論がやつていただける。その場合にも一方紹介された人も，それに耐える答というものを持つて，こういつた評論家と設計者とが，お互に意見を交換するということは，非常にいいことだと思うんです。

吉岡　これは関西の建築界というだけでなく，私たちの組織の社内でも，やはり同じことが考えられるんじやないかと思うんです。まあ，お互に遠慮し合つているというわけでしようけれどね。もつと社内の中でもそういうディスカッションをする，それを素直に受け入れ，またそれを自分のものにするという態度が，やはり小さいグループから育つて来なければダメだと思うんです。

浦辺　とくに，大組織の場合になつた時に，一番そこのチーフ・デザイナーというか職責上の最高責任者の人の個人的な好みが，まだまだ通ると思うんです。その時に，デザインするまでは，やはり職階によらずに，対等にディスカッションできるというような空気が生れていけば，それは，だいぶ違つてくると思う。現に東京のいい事務所だつたら非常にディスカッションの過程を通している。

たとえば前川さんの事務所だつたら一応この近代建築論というものは，皆同じようなレベルにきているわけです。後はディテールの問題になつているんです。大きな線はくずれてないんだが，ディテールの点では非常にディスカッションしている。丹下さんの所でも，若い研究生を入れて時間をかけてディスカッションしている。その時はまあ皆対等なんです。そういう気風がだんだんできれば，大阪も少しにぎやかになるんじやないかと思うんです。しかし今のところ大阪側は，この戦前までは有名建築家が多かつたわけです。社会的信用も高いし，そして，技能もうんと優れた建築家が多かつたもんだから，どうしても徒弟制度的になつて，対等にディスカッションという気風がなかつたんです。そういうのが多少いままで，残つているんじやないかという気がするんですがね。

佐野　それは井上さん，どうなんですか。今のお話しね，若い人の職場におけるあり方，逆にいえば，若い人の側からいえば，こういう風にやつてほしいという組織の問題に関係してくるんですがね。

井上　それは今，ディスカッションするというのは，非常にいいと思うんですけれど，実際問題として設計には期限とか，いろんな条件に制約されて，ディスカッションできない場合があるんですね。できれば，これこそ面白いと仕事だ……といつた場合，とくにディスカッションを要する場合には，大いにディスカッションをしていただいた方が，我々としてもやり易いわけです。ただそのときに対等で若い人とやるという場合，上のチーフ級の人は，みな相当な経験をつんでいられるから，あらゆるディテールが先に頭に入つてきて，一方若い人はディテールじやなしに自分のアイデアだけでいう，そこに非常なギャップがあるわけですね。それをいくらディスカッションしても結局，平行線になつて，片一方は夢を追求していく，片一方はディテールで，それはダメだといつて若い人をおさえますが，若い人は逆にそういう風にいつまでも，そういう小さい点にとらわれてはしようがないということで，なかなか結論が出ないわけなんです。そのうちにどんどん期限が迫つてくる。結局は何かディスカッションして，ある程度の結論は引き出せますが，そうでなくても，ぼやつとしながら設計に移つて結局，誰かチーフ・デザイナーないしは会社の一つのカラーというものをデザインとして設計されていくのが普通なんです。とことんまで煎じつめてディスカッションした結果をデザインに打込んで行くということは，よほど余裕のあつて，しかも皆がそれに対して，熱中したような時に初めてできるのです。ごく，まれなケースじやないかと思うんです。

吉岡　私はその個々の仕事に対して，ディスカッションするということは勿論必要ですけれど，それ以前に平生からそういう基本的な考え方をディスカッションしておくという方が大事じやないかと思うんです。それが，だんだん進歩していくうちに，組織しているカラーが出てくるんじやないかと思うんですが。私らの場合やはり組織があるから特に設計施工の場合には共同設計というような建て前だろうと思うんですけど，その中で最初のプランニングから終始一貫してまとめるものがなければやはり良いものが出来てこないと思うんです。それは，我々がそういう立場にあるからいうんじやなくて，そういう体制ができて確立されれば，共同者でも十分仕事ができるんじやないかと思うんですがね。

井上　私も事務所でそういう研究会を作つてまして，たとえばある現場で設計通りやつて非常にしくじつたというと，その現場についた者が帰つてきて，月に二回ぐらいなんですけど，やつているんです。それをやると，たしかに卒業して2，3年の人は，そのような話を聞くとやつぱりその図面なんか書く場合，非常に役に立ちますね。ですから，そういつた点では，まあ意味があるんですが，一つのデザインに対して誰かはつきりしたチーフという人がおらないと結局，皆の議論が百出して結局まとまりのつかないものになるんじやないでしようか。そのような気がするんです。

浦辺　それは，一つのディスカッションに，まだ訓練不足があるために，それが起きるんだと思う。ディスカッションというのは，まず共通の立場というものを先に認識しなくちや，それはいくらやつても平行論ですよ。共通の立場というものを先にディスカッションすることは，なかなかそれはうまく行かないと思うが，行つてる所もあるんだから，共通の立場というのを先にやつて，それから個々の設計に対して，それを発展してやるんならよい。

しかし，その個々の具体的な設計を前に置いて共通の立場をディスカッションしているんじやなくて，自分の立場をディスカッションしているのでは，いくらやつてもデイスカッションというものはラチがあかぬと思うんです。先にやつぱりやるのは，共通の立場というものに対して，デイスカッションするべきでしようね。

佐久間　私は個人的なデザインというようなもので，もはや左右されるという時代じやない，ということを認識することではないかと思うのですが。つまり機械力というか高度の設備と，それから構造の新しい解決方法，そういうことを個人的能力というものに対し，もつと総合したもので，考えてもらわなくてはならないと思います。

建築を大きなものにしなくてはならないということを皆が認識するということが大事だと思います。

―― 憲　　法 ――

浦辺　それは，その設計部なら設計部における一つの憲法だと思う，憲法は先に決つてないと行動は取れないもちろん憲法は各事務所によつて全部共通だということはできないでしよう。各職場によつて特殊事情があるから十分特殊事情を入れてもよいと思う。しかし，一つの憲法ができてなくては困ると思う。特に大勢の大組織の場合は憲法なしで個人の力や趣味だけによつて議論しても判定の基準がない。しかし，皆が納得する憲法ができたら，それに違反しているか守つているかということが大事な問題だと思う。それがディテールの端まで連なつていると思う。一つの例を上げると，プリハブに行く前に，プリキャストで行くのが日本の現状に合ついるからプリキャストの方の決定を設計しなくちやいかんというのが現在の憲法になつているわけだ。

ただ，プリキャストにしてもプリハブにしても，一つの建築を部品化してしまうわけだから，沢山の部品にジョイントというものが無数にできるわけです。分けるということはアセンブリがし易いように分離するわけだから，今度はまたくつつけなくつちやならない。くつつけるにはそこにジョイントがいるわけなんです。だから同じ議論をしていてもだいたい方向は分つているのだ。

そこで，いかに経済的で能率的なジョイントができるかというような点に，全力を集中しているもんだから，その点では誰もウマイ下手はあつても根本的な相違はないと思う。

それからその憲法を改訂する必要がおきて来たら合議して憲法を改正すればいいんで，その憲法の中で才能が出ると思う。

吉岡　先ほどおつしやつたデイスカッションするというのに，設備というか，そのような点で近代建築にある一つの方向が決つてしまつて個人的な色彩が出てこないというような御意見もあるわけなんですけど，やはり近代建築というのはどうあらねばならないか，社会的な連がりをどういう風に解釈するかを，各人が自分自身なりの考え方を持つてデイスカッションする。そしてある一つの方向を見つけ出すと，この上で実際の表現をする場合，全然違つたものであつてもさしつかえないと思うのですがね。

浦辺　それは，さしつかえないと思いますね。その点で，表現においては根本が違う。表現は能力にも大いに関係しますし，こいつばかりは努力にも関係するんだし……。

吉岡　それで細いディテールとか設備のやり方とか，

オリジナルについても，やはり根本的なものから考えられたいろんなバリエーションを一つのグループの責任において，まとめて行くという方向を私は希望するのですが。

佐野　議論は個性のある人が集つて来なくては議論にならないのではないですか。皆同じ考えでいたら何もならない……（笑）その辺はどうですか，特に若い方々にはそういう議論をする時の中心になつていただく使命があると思うのですけど。これは大きな組織の中におられてそういうことをやるためには，結局今のままの組織，昔からずつと通つて来ているいろんなやり方というものでは困る点があると私は思うのですが……，どうでしようか。

力武　今の組織のあり方ということについては，私なんか大いに疑問を持つているわけなんですけれども，会社の施工面という面からの圧迫を私はものすごく感じます。ちよつとうまくいえないんですけど，第二会社的な設計部というものができたら一番うまくいくと思うんです。（笑）

吉岡　まあ現実論としてはわれわれの設計施工が原則的なものと思いますけど，やはりそういう組織の中にあればいろいろの問題が起つて来ます。けれどもその中で少しづつ努力をして漸進的に積極的にやろうという考えで，やつているわけなんです。

佐野　議論をやるにしたつて，デザインだけの議論でなくて，都市計画でも施工でも皆一緒に議論されねばならない。

浦辺　皆さん，一番悩む問題は，各職場には一つの伝統的なやり方というものがありますね。一つのカラーがあるはずなんです。そこへ，また革命的なやり方というのがあるわけです。その両者の間の矛盾だろうと思う。この矛盾はあらゆる職場にあると思う。だから，その解決をする時に，割り切つて理論的に解決することは簡単だけど，それは実際の解決といつも対立していると思うんだ。この対立を無理にひつつけて見ても解決にはならない。全然そこから逃げても解決にはならないし，やはりやる以上はどういうか，融合反応的な結果が生れるようにせんとですね，分裂反応になつてしまつては，しようがないと思うのです。融合反応というような最近の原子科学でいう現象が見つかつたのは面白いと思うのです。（笑）実際において融合反応というのは二つの別々の原子が一つになつた時に出すエネルギーです。分離したつてエネルギーが出る。しかし，融合したつてエネルギーが出るんだ。出来れば融合的なエネルギーを出すには，どうしたらいいのかということになると，二つの別のものを融合さすには普通の温度では出ないわけです。非常に熱が高いとか圧力があるとか，または放射能があるとか，そういう特殊の場で初めて融合反応が起きるのであつて，普通でやつてたら融合反応なんか起きつこないのです。そのような方向に解決を向けて行くようにしないと，単に片一方のものを否定しただけでは，解決にならんと思う。だからそれは，個人的なエネルギーを要すると思うし，集団的にも要することだと思う。それは建築家に限らず，どんな職場でも，あるということなんです。

佐野　議論はやつぱりやらなくてはいけないですね。こういう積み重ね，個人のいろんな能力をフルにブラサゲて行けば，一人で一生けんめいやるよりはいい結果になるはずだと思うのです。またマイナスの場合もあるかも知れないけれど，それをおぎなつてもなおプラスの方が多いだろうと思う。ことに今後のディスカッションは，どうですか，松村さん…。

松村　実際の私の方のやり方としましては，人数が少ないので請負の設計なんかと比べまして一つのプロダクションで全体が成立しているようなものです。ですから非常に自我自尊的なところが多いように思うんです。他の人とは違うのですが，自分たちの間で問題となることはむしろ対外的なことが問題となる。それは普通の事務所ですと工事によつてクライエントが変るけれども，私どもの場合はいつも同じクライアントでして，そうすると建築に対する建築家の方の批評とクライアントの批評とのギャップがいつもついてまわる。ですから自分たちがディスカッションしても，あまり対外的には効果が期待できないことがある。それがさつきの青年建築家の資格とも関係してくるわけなんですけれど，こうして雑誌に取り上げられますとその取り上げ方が問題になるわけなんです。非常に正しい取り上げ方がされていたとすれば，それは対外的に非常にP.R.になると思うんです。反対に取り上げ方がまずい場合には何といいますか，はつきりいいますと非常に信用を落すということです。

浦辺　ぼくらのところでは小さいといえば小さいが，大きいといえば請負いがやれるくらい大きいのですが，会社の営繕というのはどこでもそうだと思う。クライエントの意向をさぐつてそれに調子をあわせていくというような行きかたが多いと思う。クライエントというのはやつぱり素人なんだから評価が建築家の評価と比べてちがうのが当然なんで，矛盾を感じる点はあるんです。だけど，そいつに矛盾を感じたらクライエントのいうことを全面的に受けいれて調子をあわせれば，矛盾がとけたかといえばそれは解けないで，むしろ深まる。だから矛盾は当然あるんだけども，解決の方法というものは，へつこむことではなくてやつぱり主張しなくてはだめだ。こつちがものすごく主張すれば，専門的な知識というものを買つているのであるから通る。しかしこつちの主張が正しいか，という点には疑問があるんだけれども，自分のたち場をはつきり主張するということは，これも手

順だと思う。手順をぬかしては具合悪い。

佐野　さつき浦辺さんが憲法ということをいわれたがこれは非常に面白い言葉ですね。いろんな施主を相手にしている請負でも，いろんな立場を考えて，いろいろの憲法があるわけです。

浦辺　だいたい憲法が必要だということは誰もみとめたわけですね。憲法がない時の状態と，ある時のそれを比べると，どんなまずい憲法でもある方がいいですよ。一つの国としても一つの小さいグループとしても，まずくてもある方がいい。なくたつてやれるんだけれども，なくてやるとどうしてもボスの個人的趣味に追従することになつて，やはり近代建築の線とだいぶはなれてくるのではないか。憲法を一番無視するのはボスの方で，下ほど憲法をだいじにしますよ。自分が保護されるから，またよりどころになるから……。しかし一番それを無視しがちなのは，どうしたつてトップマンの方が無視しがちになる。上をおさえるというような意味からはやつぱり憲法があつた方が当然だし，また上としても一つの憲法というよりどころをもつて判断する方が正しいのではないかと思います。

3．生活と仕事の上の悩み

西山　いま職場の話ばかりでていますけど，はじめに司会がいわれたように，仕事と生活の上で，矛盾するというところはないですか。これから大いに明日あらんと期しておられる皆さんに，そういつた問題で何か悩まれることがありませんか。悩みというとおかしいですがね。（笑）とにかく，われわれはハゲかつたり，白髪がはえたりして，そのことがよく分らないから，ひとつ若い人たちに聞いてみようというわけです。

上林　たとえば，請負の勤務時間なんか割りにはつきり守られているんですか。事務所なんかの小さいところは平均7時頃までやつているとのことですが。

岩本　私のところでは守つてますね。

上林　時間的に非常にしばられて，自分の勉強したいというような時間がたらないというわけではないんですね。

吉岡　そういう点は，われわれの方でも合理的に考えられるような機会があると思いますね。

岩本　私は若い時には，ドラフトばかりやらされるわけですね。スケッチしたのをドラフトするばかりで，すこしも面白くない。それで，はけ口を建築以外のものに求めました。文学をやつたり，絵を画いたり，新劇にこつたり，そういう方面で情熱をはいとつたわけです。それは長い間続きました。いまはチーフでデザインできますので，建築の方に全部情熱が向いてしまつて無趣味ですよ。（笑）

力武　実際問題としてですね。われわれのところでは10万円くらいの仕事から一億，二億以上の仕事を時期を定めずにやつてきますと，どれもこれも精根をかたむけていてはこちらもたまりません。私は構造計算をやつているんですけれども，普通の仕事といつたら誤へいがあるかも知れませんが，銀行員がソロバンをはじいているのと変らないと思うのです。普通の仕事はわれわれの現在の構造計算の側から見ました場合には，一応ある程度までやれば誰も同じことを，私もやつてますし課長もやつてます。前の部長あたりでも構造屋というものは進歩はないと思つております。普通のラーメン構造の簡単な建築の場合，あるいは鉄骨構造のほんの簡単な場合でもそれでやはり情熱を傾かしている。情熱というものは変なものですけど，もつと真摯な態度で取り組んでいけるのは，やつぱり一般設計からいつて特に要求される特殊な構造というものにぶち当つたとき，始めてこいつは頑張つてやろうという気になれます。それでさつき絵とかそのようなものに逃避するとおつしやいましたが，そういうような面を私は少し感じております。

吉岡　いま，構造家からの話がありましたけれども，われわれの会社でも構造屋さんは無駄な学力を使つている，といつては，おこられるかも知れませんですけれどね。構造屋さんは，普通のラーメン構造でもディテールを考えるとか，その場合の格好とか版構造とかの新しいアイデアを我々に示してもらつて，すぐ実施するようなふうに進んでいただきたいと，うちの部内でも思うんですが。計算の過程はそろそろ電子計算機あたりで（笑）人手をわずらわせないでできるようにしなくては相当な苦労だと思うんですがね。

三田　私の場合を少し具体的に申し上げますと，私は建築界のために非常に活躍しているという自負心を持つているのですが，と申しますのはいままで設計を必要としない中小企業の分野を開拓しているわけなんです。そこには営繕課はない。たいてい，ワンマンが多うございます。建築に設計なんかいるのか，という人が多い。まあそこには必要性をといて設計というものを別にやつた方が結果においてはいいんだと力説して，それを価値づけていかないと自分は生きて行けないというわけです。その場合〝建築と社会〟誌で財界の方々にアンケートをお出しになりましたあれを実際見せまして，こういうふうに財界の名士は考えておるのですが，どうかというふうにみせますと，やはり一応は納得してくれます。いくら意欲がありましても力武さんもおつしやいましたようにエネルギーの限界がある。この場合設計期間というものに対する社会通念がないのですね。設計期間がもつと

ほしいんだと実際にはこれだけかかるものだということをわからせることがなかなかできないんです。こういう運動をやつていただくということが大きく設計界全部が伸びて行けることだと私は思うのです。例えばＵＮビルを例にとりますと設計期間は非常に長くかかつている。大体の見当では設計期間は実施期間の三分の一くらいとるんです，と話すんです。一年かかるものは三カ月はいただかなくてはいけないと設計はできないんだと話すんです。ところが，これは私だけがいうことですからそう思つてもらえない場合もあるし，また他の請負さんに相談したらもつと早くできるといわれると，とたんに馬鹿になつてしまう。

―― 中小企業 ――

浦辺　三田さん，今の話は非常に面白いと思うんですよ。自分で事務所を経営して，しかも中小企業者に直接交渉することがいつもあるわけなんですが，しかし，一般に中小企業なんかに対しては非常に認識をもつていない。だけど日本の企業だつたら企業数の99％までは中小企業なんです。だから非常に開拓の余地もあるし意味もあると思うんです。

三田　関西の設計界としては非常に幅の広い活動分野だと思いますね。

浦辺　これは新しいマーケットでもあるし，ほんとにレベルを上げようと思つたら，数の非常に多い中小企業に進出したらよい。大組織だけでやつているとびつこになつてしまいますね。その点は青年建築家も機会があるんだつたら積極的につかみ，開拓していくべきだと思いますね。大組織の人は直接交渉するというのはないわけです。日本の現状からいえば非常に大事なことだと思うんですがね。

三田　これはもう一つ突つ込みますと，建築界には内職というのがありますね。これは私は正当な態度でやるのはいいと思うんですが，勢いいろんな理由でディテールなど矩計一本書いておつつけてやるというふうに簡単にやつている。同じものを片方にたのめば五枚で済んぢやうのが，がつちりやると十枚かかる。余計書いて何をしているんだろうという印象を受けるんですね。このような壁に私自身もつき当つてきたことがあるんです。

―― 小評論 ――

上林　一寸議題を変えて悪いですけど，さつき雑誌に対する批評がでていました。それから浦辺さんの関東関西論がでまして雑誌をどうやつて面白くするかということを編集人の一人として昔から心配しているんです。できるだけ皆さん方で雑誌を批判し，建築界を批判していただいた方がいいんぢやないかと思うんです。こういうことは編集委員の方からでてくるものぢやなくて，やつぱり皆さん方に作つていただくべきだと思うんです。机の上でいくら頑張つてもできるものではない。やつぱりこじつけになつたりするところを批判していただきたいんです。実に沢山あると思うんです。

浦辺　小さい批評のデーターを集める。データーからでも行かんといきなり大評論にはならないと思うね…。（笑）

岩本　東京の新聞を見ますといわゆる社会批判が多いですね。どこそこでこういうことをやつているがどうだと書くと，その当事者がこれはこうだと返答していますね。納得行くまで討論させています。ああいうところは東京にはやつぱり社会批判が沢山あつたり評論があつたりするんですね。

浦辺　小評論というのは，一つとりあげたらどうですか。

佐野　若い方々に大いにやつていただくと……。

浦辺　何かはけ口にもなるし刺戟にもなる。その代り責任は持つてもらわねばならん。（笑）

三田　もう一つ私やつてもらいたいことがあるんですがね。これは穴だと思うですが，鬼門の問題なんです。実際に建築界というものは鬼門を黙殺していいのか，それともある程度社会に対してリードするならば打つて一丸とするリードの仕方があるのか，実際問題としてしよつちゆう当つてくるわけなんです。

浦辺　中小企業だつたら非常に深刻な問題ですね。

三田　建築界全体の足なみが揃つていないんです。非常にバンとはねつけるものが……。（笑）

岩本　浦辺さん，ある新聞社の上にもやはり狐がまつてありますよ。（笑）　論説を書く新聞社にね。その新聞社の上に狐がいるというのは，おかしいぢやないですか。

西山　大論説だ。（笑）

岩本　それが日本なんですよ。

浦辺　それは面白いと思う。現実に当つて大論説の通りにやらんということはね。（笑）その問題はいつもあると思う。矛盾は矛盾のままおいているんですね。

佐野　鬼門をどうするという特集をやらねばね。

三田　それなら忙しくても読みますがね。

浦辺　一つ提案しますがね。今の鬼門だけの編集ではいかんと思うんです。中小企業と建築という問題でやればいい。われわれがいままでやつているのは，大企業の大規模なものが多い。中小企業ではクライエントとデザイナーとが，一対一で接するわけだから，本当の意味のヒューマニティーもわかるでしよう。いろんな大衆のヒューマニティーもわかるでしよう。どう解決するかも大きな問題で，理論では行かないかも知れないが，こういう小建築ぢやなくて中小企業の建築，特に大阪の中小企業の建築の問題をとりあげてもらいたいんですがね。

浦辺　最後に力武さんのいつている構造計算なんかの場合，普通の仕事だと情熱も湧かんと……。別に情熱がなくてもいいと思うんですよ。客観的にはやはり沢山やるということは標準化という方向へいけば非常に積極的な意味も持つてくる。それが沢山きまりきつたものが，おざなりになつてくるとすれば非常に消極的になつてくる。現実はどちらでもいいんです。その人の態度だと思うのですがね。同じようなことをやるのなら，きつちりとした標準化にしようではないかというふうにね。スパンなんかもデザイナーの気まぐれできめずに，そのくらいだつたらこれでいくんだと，少しおさまらぬところはカンティレバーでいくんだと（笑）というような一つの標準化になれば，意味があると思うんですがね。

力武　その場合に強く主張し得る立場というのが，まだきまつていないという気がするんです。構造計算というと，何かきちんと割り切つたグルンドがあるように思うんですが，そのグルンドがぐらぐらしているのが現状だと思います。そこに個人差というものが，構造屋にも残つているというのが標準化の大きな障害になつていると思うんです。

浦辺　僕は，標準化について，ユニバーサルな標準化はなかなかむづかしいと思うんですが，そこの職場だけの標準化あるいは標準化への努力というものは意味があると思うんです。その職場だけでもよい。いつも施工と結びついているならね。施工者の施工的な意見を入れたらいい。標準的なものに持つていくことは，相当情熱も要ると思いますし，努力も要ると思いますが，そつちの方へ行くなら意味があると思います。きまり切つたくり返しを無意味にやつていたらこんなつまらぬことはないと思うんですがね。標準化というものへ目標を持つて来れば悪いことはないと思うんです。

力武　それでいま大阪の構造屋ばかり集つて構造研究会というのをやつておるんですがね。

浦辺　構造研究会の座談会がこの雑誌にのつたんですがね。もつと手きびしいかと思つたんだが案外遠慮なさつているんだ。もう少し手きびしくていいんだ。

力武　実は手きびしかつたのが柔かくなつて発表されたんです。

佐野　それではこの辺で終りに致します。どうも大変有難うございました。

以　上

建築ニュース

懸賞論文「都市の宅地再開発の具体的方策」入選者きまる

都市不燃化同盟では，標記の懸賞論文を募集していたが，このほど下記のとおり入選者が発表になり，5月27日東京虎の門共済会館で授賞式が行われた。

1等	2万円	公務員	江本　純一（東　京）
2等	1万円	同	内藤　亮一（横　浜）
2等	1万円	同	大林順一郎（茅ケ崎）
3等	3千円	同	三井　達雄（東　京）
3等	3千円	建築事務所	中村　俊一（和歌山）
3等	3千円	東　大	川上　秀光（東　京）
3等	3千円	無　職	本田　長次（京　都）
3等	3千円	公務員	紺野　　昭（東　京）

都市不燃化賞授賞式

都市不燃化同盟では，昭和31年度事業として，前記懸賞論文入選者授賞式とともに，5月27日，郡京虎の門共済会館で，標記授賞式が行われた。授賞者は下記のとおりである。

表彰状	八幡市	市長　守田　道隆
同	新潟市柾谷小路耐火建築促進協議会	会長　村田　三郎
感謝状	宇都宮市馬場町通共同住宅組合	理事長　田中　永吉
同	小松市上本折町道路拡張期成同盟	会長　松井　七平
同	東京都赤羽復興会商店街商業協同組合	理事長　塩沢　章二
同	東京都赤羽新仲店商店街	会長　久保田　豊

日本都市学会第4回大会開かる

標記大会が昭和32年5月25日，26両日，仙台市公会堂で行われる。第1日は研究部会，特別講演会，総会が行われ，第2日は仙台の視察にあてられる。

昭和32年度建設機械展示会

日本建設機械化協会では，5月25日～6月5日までの12日間，東京日比谷公園にて，標記展示会を開催する。出品機械250台，出品会社78社である由。

会員動静

死亡退会

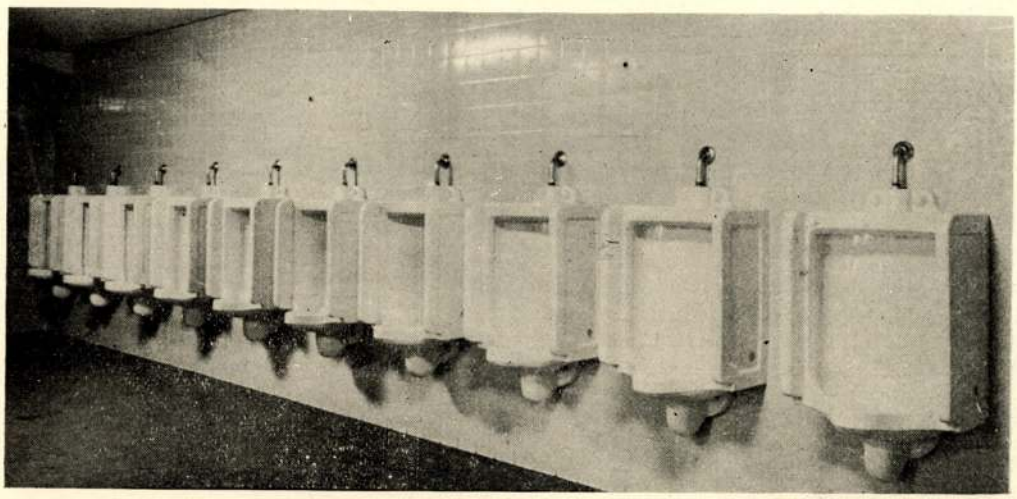
本部正会員	八木　繁志	昭和32年4月27日死亡
同	高橋喜平太	昭和31年12月12日死去
京都正会員	金田　　茂	昭和32年2月18日死去
本部　〃	年梅猪三郎	昭和32年3月死去

最高の品質·最大の生産を誇る!

伊奈の
タイル・衛生陶器

Inaseito 印 附属金具

伊奈の鳩印衛生陶器には Inaseito 印附属金具をセットで御利用下さいます様おすゝめ申上げます。



本誌で見たと御報知次第カタログ進呈

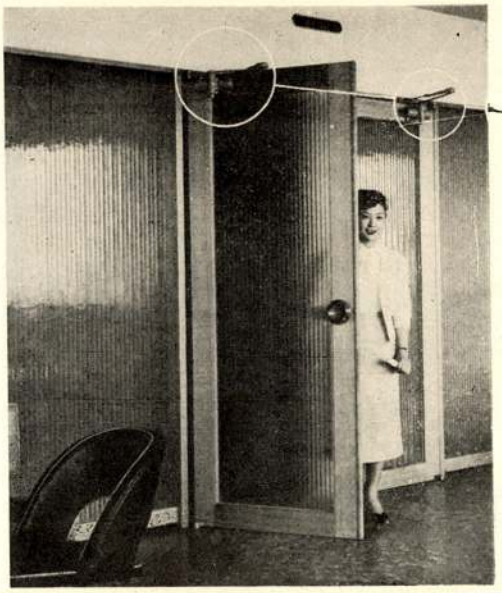
IS 伊奈製陶株式會社

本社及工場　愛知県常滑市扇面新田　電話常滑(代表)700
東京事務所　中央区西八丁堀2－8　電話築地㊺5261・5262

NHN

日・米・英・独特許

ニッカナ
ドアーチエック





型状優美

故障絶無

製造元 ダイハツ工業株式會社

発売元 日本金具製作所

湯浅金物株式會社

関西代理店

大阪市南区末吉橋通2—10 電話㉖1831(代表)

株式会社 立野商店

大阪市南区笠屋町37 電話㊻6376(代表)

一枚一枚が最高級の規格品

ブライト クラウンタイル



本社製品を御採用頂いた帝国ホテル新館

帝国ホテル、東京国際空港ビル、合同庁舎、鉄道会館、殆んどの全国郵便局、電話局等国内外の多数のビルの内装又は外装にはクラウンタイルを多量に御使用戴き大変好評を得て居ります。

六大特長

1. **モダンなカラー** 絶対にムラのない、上品で美しい、ハーモニーカラーで48色も用意しております。
2. **完全なブライト** ブライト(光沢品)はマット(艶無し)に比べて張り上りが優美で清潔感に溢れ、汚濁せず技術的にも完全焼成品です。
3. **衛生的で耐久性** 何時までも衛生的で、半磁器ですからクラック、剝裂はありません。
4. **容易な施工** 寸法は機械施工のため正確で，素晴らしく早く仕上ります。
5. **薬品には不浸蝕** 特に耐酸、耐アルカリ性に優れております。
6. **納期の正確** 本邦最大の月産100,000ヘーベに達する生産量は、如何なる御需要にも短期に正しく納入出来ます。

詳細は国内全域にある特約店、販売店又は直接会社に御照会下さい。

上山製陶所

多治見市上山町

TEL 2151～5

さびない、腐らない！

一度取りつけたら　半永久的に長持ちする

エスロン雨とい



さびない、くさらない、一度取付けると半永久的に長持ちする雨樋ができました。

このほど新しく発売された**エスロン雨とい**がそれ。スベスベした美しい光沢、取付けが手軽にでき、いつまでもくさらないことなど、これまでの樋にみられない優れた性質をもっています。



さびない　**エスロン雨とい**はビニル製です

腐りません　から、軽くて持ちはこびに便利

取付けはかんたんにできます。塗装しなくてもさびや腐蝕の心配が絶対になく、とくに海岸べりの住宅、ガスのこもる工場地帯にもってこいです。

経済的です　トタン製の樋では二、三年で発銹します。ペンキの塗りかえに思わぬ費用がかかります。

この点**エスロン雨とい**は塗装や補修の手間と費用が省けるばかりでなく、半永久的な材質ですから、これまでの樋にくらべずっと経済的です。

プラスチックの積水化学工業株式会社

DK

タントウ

タイル



資本金　壹億四百萬圓

淡陶株式会社

大阪支店　大阪市西区阿波座中通1丁目48番地
電話新町㊿432・1247・6706番

東京支店　東京都中央区日本橋浜町2丁目47番地
電話兜町㊿7309番

本社及阿万工場　兵庫縣三原郡南淡町伊賀野

福良工場　兵庫縣三原郡南淡町福良

原子力発電と建設技術

室井修

はじめに

標題は簡単に上のようにしたが，このような尨大な問題の全般について，浅学の筆者がここで論じようとするのではない。この小文では，わが国への導入問題が今やかましくいわれているコールダー・ホール型原子炉の場合に問題を限つて，もしそれが日本に持ち込まれるようになるとしたら，建設技術者は何をなすべきか，または少くとも何を研究すべきかということについて，少しく触れようと思う。ただし核分裂や熱や電気などのことについては，専門家でない筆者はその資格がないから触れない。ここでは建設部門（発電所にとつて決して二次的なものではない）についてのみ考察しようとするものである。

コールダー・ホール原子力発電所

1956年秋，イギリスが「真に工業的規模で運転する世界最初のもの」として誇るコールダー・ホール原子力発電所が，中央電力公社の送電網に大量の電力を供給し始めた。ソ連はこれを「せいぜい発電場」と皮肉り，米国は「それは兵器用プルトニウムの生産が目的で，電力は副産物だ」とけなしているが，とにかく採算のとれる原子力発電所が最初に動き始めたことについては，誇るだけのことはあろう。コールダー・ホールはイングランドでも最も美しいといわれる地方，レーク・ディストリクトの端に位していて，発電所はウィンズケール・プルトニウム工場に近く建設された。

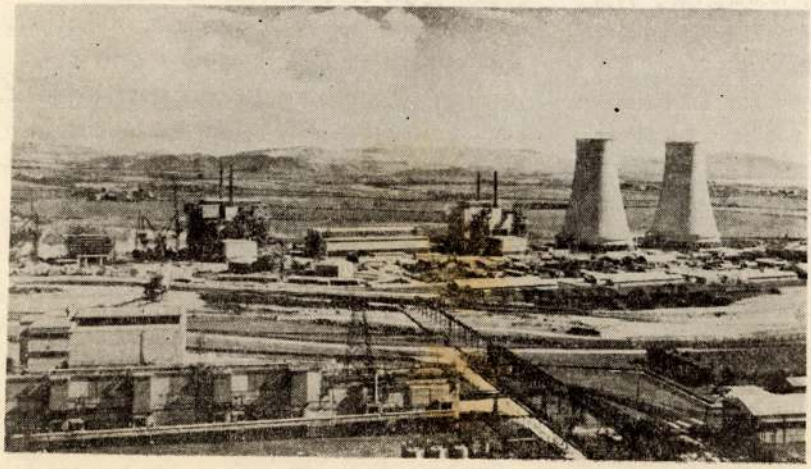
この土地に到達するには，コールダー河にかかつている特設の橋を通る道しかない。現在鉄道はないが，将来もその必要はない，それは原子力発電所の1年分の燃料は10台位のトラックで運べるからだといつている。これは，輸送の問題を大きく採り上げねばならない火力発電所と非常に異る点である。

図体の大きいこと

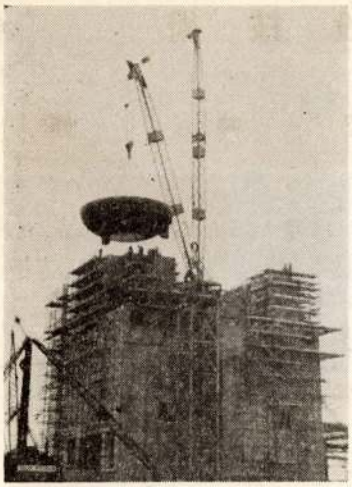
コールダー・ホール型原子炉は，燃料として天然ウランを，減速材として黒鉛を，冷却材として加圧ガス（炭酸ガス）を使うものであるが，このように黒鉛を減速材に使うと，その減速能力が他のものに比しかなり低いので，原子炉がばかでかくなる。しかし，原子炉の形が小さくなければならないのは，それを動く機関の中に備えつける場合の話で，地上に建設する発電所等では図体の大きいことは致命傷にならぬといつている。なるほど，その通りである。しかしその場合，炉およびそれを包む建造物の建設について，いろいろ困難な問題が出てくることを忘れてはならない。

技術のむつかしさ

ヒントン卿（イギリス原子力公社技術生産担当委員）が日本に来たとき「原子力発電の実用化にとつて大切なことは，原子核反応などという理論問題の解明ではなく現場で厚さ2インチの耐圧容器を溶接する，というような技術の問題だ」といつたが，耐圧容器のみに限らず，建設のあらゆる面で非常な困難のあつたことが，Kenneth Jay 著 "Calder Hall" (1956) の中にも再三のべられている。たとえば，耐圧容器の底部に取り付けられるダイア・グリッドは，千トン以上もある炉心を支えていて，中央部でも 6 mm 以上の撓みを生じないように設計されている。その設計には35元の連立方程式を解く必要があつて，電子計算機を用いたそうである。



1. コルダー・ホール全景



2. 耐圧容器の底部を遮蔽体の中におろすところ

遮蔽壁の重量

炉心から出る放射線（中性子やγ線）は厚さ2インチの鋼鉄（耐圧容器の）でも防ぐことができないので，そのまわりに厚さ2.1mのコンクリートの遮蔽壁を設けている。この遮蔽壁の水平断面はコンクリートが打込み易いように八角形（円形でなく）としている。遮蔽壁と建物を含めて原子炉は，22,000トンの重量があり，これが厚さ3.3m，長さ39.0m，幅31.2mの大きな鉄筋コンクリート基礎の上にのっている。基礎の自重が10,000トンだから合計32,000トンの荷重が地盤に加わることになる。これは単位面積にして，26.5t/m²になるから，相当地盤のよい敷地を撰ばなければ基礎工事に要する費用が莫大なものとなるだろう。

それだけならまだよいが，この基礎は完成後絶対に少しも沈下または移動してはならぬという要求をつけられる（沈下等のため遮蔽壁にひゞが入つたりしては大変だからである）。

寸法の高度の正確さ

遮蔽壁は高さが26.5m，内径が13.8mあるが，内側の壁はどの部分でも，垂直線から6mm以上の凹凸があつてはならぬというし，遮蔽壁の屋根（厚さ2.4m，重さ数百トン）も完成後その下面が完全に水平（水平面からのずれは6mm以下）でなければならぬという要求がつけられる。このような精密度の要求は，これまでの建設工事の常識を遙かに超えたものであつて，コールダー・ホールでは，これらの要求を充すために，コンクリートからしばしば試料を採取し，別に建設した実験室で，その組成，密度，機械的性質を検査して，常にコンクリートの品質を確かめながら工事を進めたといつている。

また寸法の精確さを保持するためには，壁では鋼製の八角状の梁を遮蔽壁の高さいつぱいに作つて型枠の支えとし，屋根の下端には特殊な形の桁に鋼板を溶接した永久的な型枠を用いたといつている。更に高度の正確さや精密な作業管理を保持するための監督と検査は，充分に厳重になされたようである。

将来わが国が自力でこの型の原子炉を建設するためには，炉自体の研究も勿論だが，上述のような建設技術上のいろいろな難問題を一つづつ解決してゆかなくてはならない（たとえ最初は外国の技術によつて開発されるにしても）。しかし以上のことは，まだよいのである。それは建設技術者の努力と研究によつて解決されうる性質のものだからである。一番困るのは耐震性の問題である。

耐震的に不利な條件

不幸にも日本は大地震国で，地震のない国，イギリスの技術者たちが少しも考えなくてよかつたことを，われわれは極めて重大に考えねばならぬのである。そこでコールダー・ホールの耐圧容器の中を眺めてみよう。そこには炉心があるが，この炉心は高さ8m，直径10.5mの円筒形に，黒鉛ブロックを積み上げたもので（ブロックの数は58,000個），その全重量は1,000トンからある。しかも，この黒鉛の山の下部はコロを並べた上に乗つており（熱膨脹による無理をさけるため），かなり自由に水平移動する。このように重量が大きく，しかも高く積み上げられたものが，地震に弱いことは素人にも判ることであつて，大地震に遭遇すれば，この黒鉛の山は崩れ大きな力をもつて耐圧容器にぶつつけられるだろうことは想像に難くない。

このことは今盛んに論議され，日本原子力委員会に地震対策小委員会が設けられて，その方面の専門家がこの炉の地震対策を検討しているので，いづれはその結論が出されるであろうがこれは非常な難問題だろうと思う。

高さ8mもある積木細工にどうして耐震性をもたせるのかという問題ばかりでなく，炉心に中性子を吸収するような不純物を入れないことが，決定的に重要だというから，勝手な補強はできまいし，どんな結論が打ち出されるのか見ものであると思つている。

「日本の原子力は，外国の資本により，外国の材料により，外国の技術によつて開発されるだろう」といわれるが（悲しいながら日本の現状では，それもやむを得まい），そのときには，外国の技師の指導のもとに，彼らのいうとおりに建設してゆけば，原子炉は出来上るに違いない。しかし，外国の技師のいうままには出来ないことが少くとも一つはある。それは耐震性の問題である。

地震対策を，その炉の機能を阻害せぬ程度に行うことが可能ならば，その時の双方の折衝で，事を運ぶこともできようが，両者が全然一致点を見出し得ないならば，もはやその型の炉は採用できぬのではなかろうか。

こんな基本的な問題を未解決にしたままで，原子力委員会は明らかに，コールダー・ホール改良型の早期導入

を想定している。何でも早くやらねば日進月歩の原子力時代にとり残されると考えて，あせつているのだろうが地震時の危険をどうするつもりか。扱いようによつては大変なことになる放射性物質が相手であることを忘れてもらつては困る。

使用済み燃料

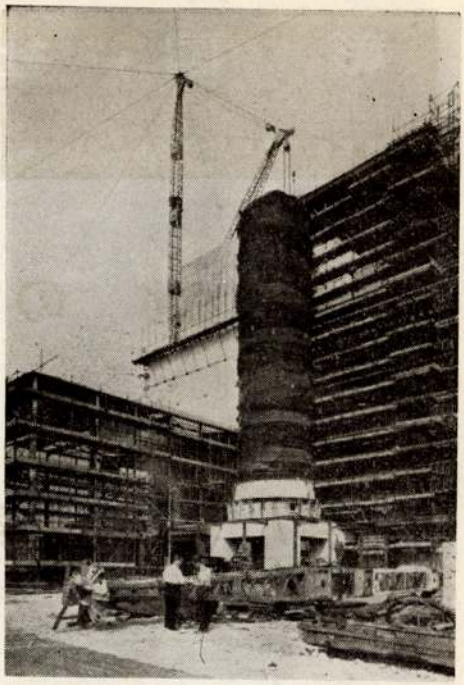
次に使用済み燃料の問題がある。原子炉から取り出された燃料棒の中には，放射性の原子灰が含まれているがこれについて "Calder Hall" には「それはトラックでウィンズケール化学工場に運ばれ，そこで化学処理して，核分裂生成物とプルトニウムを分離する。……コールダー・ホールのために，もう一つの化学工場をつくる必要はなかつた」と書いてあるだけである。兵器用プルトニウムのことを多く語りたくたいのだろう。コールダー・ホール型をわが国にもつてくる場合，使用済み燃料をどう始末するのか，その方針をはつきりさせておく必要がある。われわれは，近くにウィンズケール工場をもつていないのだから。

未開拓の建築部門

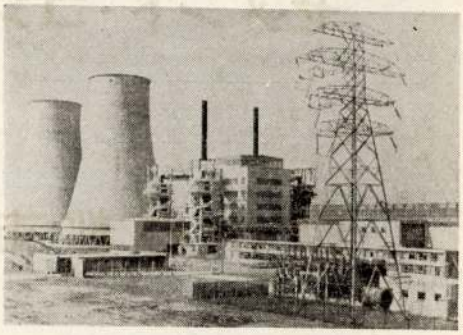
これまで書いてきたことは，コールダー・ホール型原子炉についてだけであつて，燃料，減速材，冷却材その他の組合せ方によつて原子炉の種類は数百にもなり，実用的な形式だけにしぼつても 15～20 種はあるという。原子炉の型式が変れば，建設物も必然的に変つてくるのだから，ますます問題は複雑になる。

原子力委員会が発足してから1年と少ししか経たず，今やつと出力50キロワットの湯沸し型実験用原子炉が出来上つたばかりの，わが国の原子力事情は，先進国より10年もおくれているが，その中でも建設に関する部門は更に一段とおくれているような気がする。核物理学とか原子炉工学とかに関しては，現在かなりの文献や参考書があるが，建設に関するまとまつたものは，ほとんど何もない。前記の "Calder Hall" などは，原子力発電所全体の建設について記している点では，おそらく最初のものだろう。しかし，それとても記載は大あらましであつて，技術的な詳細については何も判らない。建設面を担当するわが国の技術者たちは，このような恵まれない不利な条件の中で，悪戦苦闘しているというのが現状ではなかろうか。

最近，電力業界を中心に，原子力発電の実用化を急ぐべきだとする機運が高まり「それが採算にのるかどうか外国での実績をみてからでは遅すぎる。動力炉を導入して早く運転をやる必要がある。」というような声も聞かれるが，肝心の技術部門はそれに歩調を合わせるほど進んでいるとは思えない。たとえ外国の技術にたよつて建設するとしても，少くとも日本の特殊事情についての処理だけは，こちらでやらねばならぬ筈だが，その点は一体どうなのだろうか。



3. 据付けを終つた熱交換器のシエル



4. 中央が原子炉建物，向うは冷却塔

おわりに

この頃の新聞や雑誌には，原子力問題についての記事が，二つや三つは必ずといつてもよいほど載つている。その平和利用の問題と核兵器としての進展とが，明暗の両面をクローズ・アップして，われわれに迫つているのに，わが国の原子力界の現状は，きちんとした計画性の乏しい，行きあたりばったりの進み方をしているとしか思えない。われわれ技術者は，現実を飛躍してふりまかれる内外の宣伝に迷うことなく，地道な研究を一つづつ積み重ねて，このいばらの道を切り開かねばならぬのではあるまいか。(1957.4.25)

(筆者　日建設計工務KK)

彰国社新刊案内

東京都千代田区平河町2—11・電(33)営業部—0293・2851　編集部—1745・4523・振替東京173401

新刊

中世の建築

太田博太郎著　わが国の中世建築が初めて集大成されました。膨大な資料にもとずいて実証的に明確さをもつて打出された中世建築の全貌であります。専門家の新しい拠点となるべき大著作として期待できるものであります

A5判 370頁　クロース　定価 ¥1,500
函入　〒100

47. 和家具

建築写真文庫・2期全30巻

彰国社編　この本は，茶の間・応接室・化粧室・書斎など，あらゆる種類の和家具の新しい傾向のものを主体として収録したもので，和風の建物の計画・新築・改装には，欠くことのできない参考資料として価値があります

B6判 88頁　総アート上製　定価 ¥300
〒35

セメント・コンクリート

建築文庫・4

加藤清作著　著者が"セメントは生きている"という主張のもとに，セメントおよびコンクリートの性質・種類について詳述した本書は材料との関連のうえに良いコンクリートを造りだす原動力として書かれたものであります

B6変形判 188頁　上製　定価 ¥200
〒20

欧州の都市と公園

建築文庫・9

佐藤昌著　最近渡欧した著者が，専門の視野から眺めた欧州の美しい都市と公園についての記録を，案内記風に写真を添えてまとめたもので，これからのわが国都市計画や公園事業に少なからぬ示唆を与えてくれるでしょう

B6変形判 178頁　上製　定価 ¥180
〒20

重版

1. 設計製図・計画

建築士技術全書　全6巻
改訂・新版

清水一編　新進の専門技術者のグループによつて執筆され，建築士受験の必読書として好評を博している本書は，時代の推移に鑑み，新しいものとして全面的な改訂を行い，新知識を取り入れて編集されたものであります。

A5判 576頁　クロース上製　定価 ¥950
〒50

4. 製図

建築ハンドブック　全12巻

蔵田周忠著　ここに第7版を重ねる本書は，学徒育成に経験の深い著者が，製図の入門書をかねた，建築製図の便覧として書かれたものであります。工業高校および大学の教科書として好評のうちに広く使用されております

B6判 228頁　上製カバー付　定価 ¥300
〒35

吸音サンライト

接着剤はセメダインKKの
サンライトセメダイン

厚さ	大きさ	孔	ピッチ	孔数
1.3分 1.5分	1尺角	5 m/m	15 m/m	18×18
1.3分 1.5分	1.5尺角	9 m/m	23.8m/m	18×18

1.3分厚¥1,400（坪）1.5分厚¥1,600（坪）

- ○ 硬度大
- ○ 強靱
- ○ 耐水
- ○ 難燃
- ○ 施工簡易
- ○ 美麗
- ○ 塗装容易

硬質繊維板（ハードボード）

サンライト

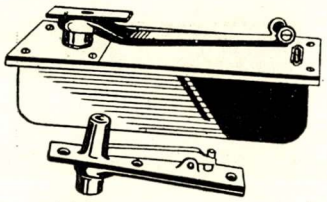
厚さ	標準サイズ	重量(枚)	価格(枚)
1.3分（4 m/m）	3尺×6尺	6.0kg	¥ 390
	4尺×8尺	10.7kg	¥ 850
1.5分（5 m/m）	3尺×6尺	7.7kg	¥ 620
	4尺×8尺	13.5kg	¥ 990
2.0分(6.5m/m)	3尺×6尺	10.5kg	¥ 800
	4尺×8尺	18.5kg	¥1,300

製造元 日本レイヨン株式会社

厚さ	大きさ	凸部	凹部	価格(枚)
1.5分	3尺×6尺	30.5m/m 62.5m/m	20m/m	¥ 750
2.0分	2尺×8尺	56.5m/m 30.3m/m	30m/m	¥ 750

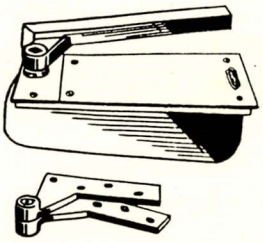
リブサンライト

NEW★STAR

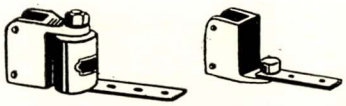


フロアーヒンヂ

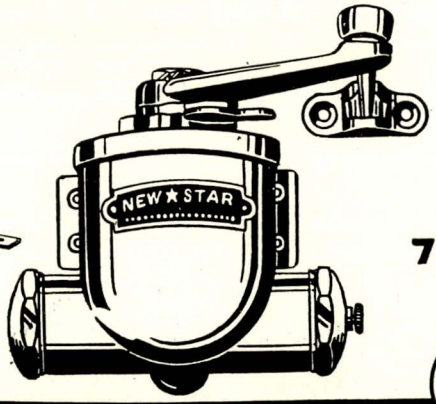
ドアーチエック



フロアーヒンヂ



ラバトリーヒンヂ



輸出　好評

ニューヨーク・ロスアンゼルス・マニラ・台湾

日本ドアーチエック製造株式会社

取締役社長　出向井啓蔵

本社工場　布施市横沼町三丁目十一番地　電話 大阪 (72) 代表6666—9
東京支店　東京都千代田区神田錦町一丁目二十三　電話 東京 (29) 1920・4920

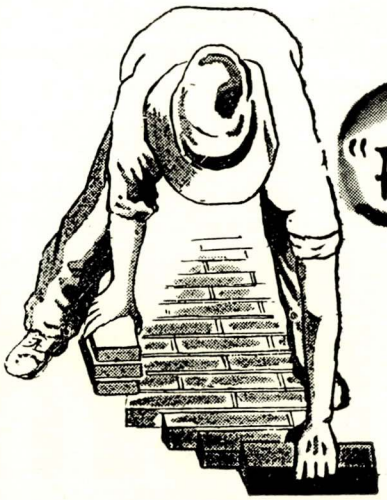
ORIENTAL

ORIENTAL METAL MFG. CO. LTD.

ASPHALT BLOCK

アスファルトブロック

"For Heavy Duty Floors & Pavements"



用途…橋梁用・プラットフォーム用及耐酸床用

厚サ20-25-38-50粍　巾 120粍 × 長サ 240粍

オリエンタルメタル製造株式会社

本社及工場	尼崎市長洲字稲川新田44番地	電話	大阪㊇4947～4949
東京支店及工場	埼玉県北足立郡蕨町駅前	電話	川口5978　蕨252
九州支店及工場	福岡県八幡市東浜町16番地	電話	八幡723・2512
東北支店及工場	福島県郡山市外富久山町久保田142	電話	郡山267
名古屋営業所	名古屋市熱田区三本松町2の35	電話	名古屋㊇7674
延岡作業所	宮崎県延岡市北町45番地	電話	延岡3632
岩国作業所	山口県岩国市今津川口	電話	岩国776
宇部作業所	宇部市浜通り2丁目	電話	宇部511

ORIENTAL

10 同時使用率はどのようにして決められているか

1. 同時使用率とは何か

たとえば洗面器が2個あるとする。洗面器においては通常，水は断続的に使われる。したがつて2個の洗面器の給水管，あるいは排水管が同じ枝管につながれているとすれば，共通の枝管を流れる水量は洗面器1個分のときもあり，また2個分のときもある。

それらの洗面器が滅多に使われないものであれば，2個が同時に水を使うことは少いが，頻繁に使われる場合には同時使用数が2個になる可能性も多くなると考えねばならない。すなわち，2個の洗面器が同時に水を使うという現象は，ごくまれにしか起らないと考えられるときは，枝管の管径は洗面器1個分に対して設計すれば充分である。この場合，同時使用率は50％であるといわれる。これに反して，2個分の水量が流れるという現象がしばしば起り得ると予想されるときは，管径の設計は2個分に対して行われなければならない。同時使用率はこの場合100％であるということになる。

一般的にいつてn個の洗面器が設備されているとしよう。理想的にいえば給排水の設計はn個のすべてが，同時に使われるという状態に対して行われることが望ましい。しかし器具数が多い場合は常識的にも，そのすべてが同時に水を使うという現象は，まれにしか起らないということが予想される。したがつて実際はn個の器具があつても，同時に使われるのは，その中の何割かに過ぎないとして設計すればよい，という考え方が生れる。この割合を示すのが同時使用率である。

すなわちn個の器具のうち，たかだかm個しか同時には使われないものとして設計が行われる場合，比率m/nをもつて同時使用率と定める。逆にいえば，同時使用率とは現実に設備されている器具数に乗ずることによつて，設計上の器具数を求めることが出来るような係数である。

しかしながら，いかなる場合でも最低1個分は必要であるから，同時使用率は常に$1/n$より大きく，また1よりは小さい。なお器具数に対してだけではなく，たとえば給水量あるいは消費電流などのように，供給量とか排出量そのものに対しても同じ考え方を適用して同時使用率を定義することができる。事実，配電設計において実用されている「需要率」は，このような意味における同時使用率の同義語に他ならない。[1)]

2. 同時使用率の求め方

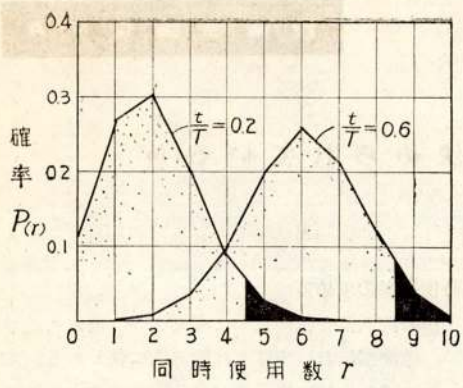
まず1個の洗面器を例にとつて考えよう。前にも述べたように，洗面器においては水は断続的に使われる。水が使われ始めてから使い終るまでの時間的長さと，使用が終つてから次の使用が始まるまでの時間的間隔の長さは，もとより各回の使用において一定ではない。しかし長時間にわたつて観測するとすれば，全時間Tの中で水を使つている時間の合計t（延使用時間）が占める割合t/Tは，ほゞ一定になると考えることができる。したがつて，この場合その洗面器において水が使われているという状態が起る確率はt/Tであり，また同様に水が使われていない確率は$1-(t/T)$に等しい。

このような洗面器がn個あるとし，ある瞬間にその中の丁度r個が同時に水を使つているという確率，すなわち同時使用数がrである確率$P_{(r)}$を求める。n個の中でr個が水を流すという場合の数は，n個のものからr個を取り出す組合せの数に等しい。したがつて$n!/r!(n-r)!$（$n!$はnの階乗をあらわす）通りだけあることになる。またr個を取り出した場合，そのr個が全部水を使つているという確率は（r個のみに着目し他の$n-r$個のことは考えないとすれば）$(t/T)^r$であり，残つた他の$n-r$個はどれも水を使つていないという確率は$1-(t/T)^{n-r}$に等しい。同時使用数がrであるということは，n個からr個が選ばれ，かつそのr個が水を使い，他の$n-r$個は水を使つていないということであるから$P_{(r)}$は結局これら三者の積として

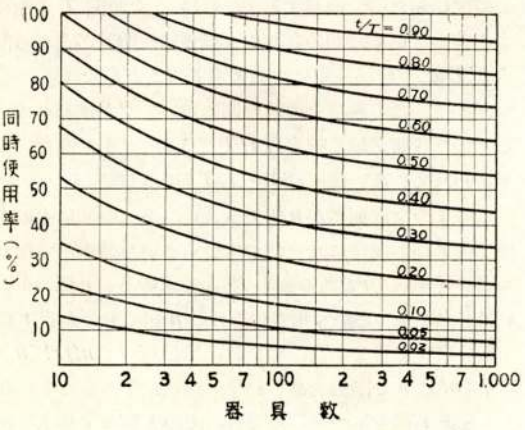
$$P_{(r)}=\frac{n!}{r!(n-r)!}\left(\frac{t}{T}\right)^r\left(1-\frac{t}{T}\right)^{n-r} \qquad (1)$$

であらわされる。これは二項分布と呼ばれる確率分布であつて，たとえば$n=10;\ t/h=0.2,\ 0.6$に対しては図—1のような形を持つている。

図—1の黒く塗つた部分の面積は，それぞれ同時使用数が5以上および9以上になる確率の値を近似的にあらわしている。したがつて，このような部分の面積をある小さな値に押えることによつて同時使用数の上限，すなわち設計のための同時使用数を決定することができる。たとえば，図—1の黒い部分の面積，すなわち同時使用数がそれぞれ5および9以上である確率は，充分小さいから差支えないということにすれば，設計用の同時使用数はそれぞれ4および8であり，したがつて同時使用率



図—1　同時使用数の確率（器具数 $n=10$ の場合）



図—2　$K=0.01$ に対する同時使用率（器具数 $n=10\sim1,000$）

器具数 n	t/T								
	0.02	0.05	0.10	0.20	0.30	0.40	0.50	0.60	0.70
2	1	1	1	2	2	2	2	2	2
3	1	1	2	2	3	3	3	3	3
4	1	2	2	3	3	4	4	4	4
5	1	2	2	3	4	5	5	5	5
6	1	2	3	4	5	5	6	6	6
7	1	2	3	4	5	6	6	7	7
8	2	2	3	5	6	6	7	8	8
9	2	2	3	5	6	7	8	9	9
10	2	3	4	5	7	8	9	9	10

表—1　$K=0.01$ に対する同時使用数 m（$n=2\sim10$）

K	0.1	0.05	0.01	0.005	0.001
C	1.16	1.39	1.82	1.99	2.33

表—2　K と C との関係

は 40% および 80% ということになる。

一般的にいつて，同時使用数が $m+1$ 以上になる確率が充分に小さければ，m をもつて設計のための同時使用数と決めてよいわけである。同時使用数が $m+1$ 以上になる確率は，$m+1$ から n に至るまでの総べての場合を考え，その各々が起る確率を加え合せたものに等しい。すなわち，

$$\sum_{\gamma=m+1}^{n} P_{(r)} = \sum_{\gamma=m+1}^{n} \frac{n!}{r!(n-r)!}\left(\frac{t}{T}\right)^{\gamma}\left(1-\frac{t}{T}\right)^{n-\gamma} \leqq K \quad \cdots\cdots(2)$$

とおけば上式の左辺がこのような確率（近似的にいえば図—1の黒く塗つた部分の面積）をあらわす。右辺の K は安全さの程度をあらわす確率の値であつて適当に小さな値を選ぶことができるが，普通は 0.01～0.001 程度の値が採用されている[2]。つまり (2) 式は同時使用数が m を上回る確率が，与えられた確率の値 K よりも常に小さくなるように m を選ぶということをあらわしている。

図—1は $K=0.1$ の場合に相当するが，もし K を 0.01 に押えようとすれば m は大きくなつて，それぞれ 5 および 9，したがつて同時使用率は 50 %および 90 %となる。すなわち，K を小さくとれば，それだけ設計に採用すべき同時使用数 m は大きくなり，したがつて同時使用率 m/n も大きくなる。K が小さいということは，一般により安全側の設計であり，ぜいたくな設計であるといえるが，これまで発表された同時使用率に関する資料は給排水設計に関する限り，ほとんどが $K=0.01$ を妥当な値として採用しているようである。[3),4)] しかしながら K の設定に当つては，もし予定数以上の使用が重なつた場合，あるいはまた，その状態が長く続くような場合にどのような支障が起るか，ということが本質的な問題であり，これは設備の種類，たとえば給排水設備，電気設備などによつても異る技術上の問題であるから，それぞれの設備において，別個に考慮することが必要である。

同時使用率はまた，比率 t/T によつても大巾に変つてくる。この比率が器具の種類によつて違うのはいうまでもないが，同種の器具であつても，それが公衆用であるか個人用であるかの別，あるいは設置場所，建物の種類などによつても，それぞれ異る値を持つと考えられる。したがつて一般的な規準として，これを定めようとすれば広汎な調査と何段かの類別が必要であるが，常識と経験によつても大体の値は推定できるであろう。

比率 t/T に関する今一つの問題は，いわゆるピーク・アワー（あるいはラッシュ・アワー）の存在である。すなわち普通の器具においては，一日の間のある時刻に限つて使用のピークが現われる。観測の時間巾をこのようなピーク・アワーだけに限定すれば，t/T は大きくなり

時間巾を開散な時刻にまで拡げると t/T は小さくなる。またピーク・アワーの現われ方は，その設備の器具数がどのようにして決められたかという問題にも関連する。というのは使用人数に対して，ゆとりがあればピークの程度は少なく，逆の場合はこれが著しいと考えられるからである。しかし通常はピークアワーを対象として t/T を決定する。

3，図表の使い方

表—1 は $K=0.01$ とした場合の同時使用数を器具数の比較的少ない範囲（$n=2\sim10$）において与える。算出は二項分布表[5]によつて，(2) 式を満足する m の値を探し出すという方法によつた。同時使用率を示さなかつたわけは，同時使用数が直接得られる限り，同時使用率は必ずしも必要ではないからである。

図—2 は n が大きい場合（$n=10\sim1,000$）における同時使用率を，同じく $K=0.01$ に対して与えるが，図の作成は近似式[4]

$$\frac{m}{n}=\frac{t}{T}+C\sqrt{\frac{2}{n}\cdot\frac{t}{T}\left(1-\frac{t}{T}\right)} \qquad (3)$$

によつた。ここに C は K の値によつて決る定数であつて，**表—2** のような関係がある。**図—2** は大きな n に対し，また t/T の小さな値に対して，充分な精度を持つが t/T が大きい場合でも誤差は安全側にあらわれる。図によつて n が大きくなるとともに，同時使用率が低下してゆく様子がよくわかるであろう。なお器具数 $n\to\infty$ においては，同時使用率 $m/n\to t/T$ である。

給水設計における同時使用率に関しては従来からさまざまの図や表が発表されているが，その根拠は必ずしも明らかでないものが多い。[6] しかし出された結果から逆に推察すれば，そのほとんどが **図—2** において $t/T=0.05\sim0.20$ とした場合に相当するようである。たとえば，洗浄弁に対しては 0.03，洗浄水タンクおよびその他の普通器具に対しては 0.20 という値が採用されている。

対象とする器具群が異種類の器具を含む場合，たとえば二種類以上の器具が同一の主管に連結されている場合には，単純に二項分布を適用することはできないはずであり，したがつてここに挙げた図表もそのままでは使うことができない。しかしながら，等価器具数といつたような概念を導入して，これを近似的に解決しようという試みもあり[4] また給排水設計においてすでに実用されている，例の器具単位，あるいは器具重率[3]という概念も異種類の器具が混在する対象を二項分布にのせるための手段に他ならない。[7]

（1957—6　関西設備原論研究会　岡田光正）

1) 関西電力工事要綱（内線）昭和30年2月改正版，1—2，P.10.
2) Kは一般に超過確率といわれる。
3) 小川誠耳（1956）器具同時使用の確率，衛生工業協会誌，第30巻，第7号，P．265.
4) Bull, L.C.（1956）, Simultanneous Demand from A Number of Draw-off Points, J.I.H.V.E., vol. 23, Feb., P.445.
5) 合衆国連邦標準局（1954），二項分布表.
6) 前田敏男（1953），建築士コース，P.232. および 3),4) など
7) ただし現在の器具単位による方法は，便利には違いないが，かなり大胆な簡略法であつて，理論的には疑問の多い方法である。

会員の声

高知の建築も活潑

当高知へまいりまして，はや一カ月，ようやく仕事にもなれたところですので，当高知の近報をおしらせします。

神武景気の余波はここにもおしよせて建築界も非常に活潑で，清水建設の土佐電鉄のサービスセンター（地下1階地上5階）がすでに着工し，続いて当市庁舎（同規模 8000 m² 位）が5月1日県外の大手筋業社10社によつて指命入札の予定であり，ほかに大成建設の高知郵便局清水建設の電話局とはなばなしいものです。とにかく土電サービスセンターは高知の目抜き通りハリマヤ橋の東南の角に，また市庁舎が県庁前にと地の利をしめ，県内業者間には技術，工法その他の点で，この両建築は非常によい勉強になると期待をいだかせております。市庁舎の方は打ちパナシでもあり，注目の的でその仕事に来高早々タツチできる私としましても大変光栄に思つております。

この好況の一面，永々として続いて一流県内業者富士建設がつぶれたことは，まことにその仕事の良さと共におしまれることであります。

私は現在，桟橋通りに水道局庁舎（2階 670 m²，ライトゲージ2階，鉄筋コンクリート1階）の現場をいきなりもたされて五里霧中の日々を，それでもハリキッテ過しております。

建築協会がますますその業績をこの業界に広められまして，地方建築界のケイモウ，指導に一段と力をそそがれんことをお願いし，今後の御発展をお祈り申しあげます。

（高知市庁舎建築事務所　**中村悦治**）

会合便り（4月分）

理事会

10日　11時半――2時　於会館集会室

出席者　竹腰会長，東畑副会長外8理事，山邑監事，旧理事3名，事務局2名

恒例により新旧役員合同して開催。竹腰会長から退任役員に対する謝辞と新任役員の協力をお願いする挨拶があり，午餐を共にして懇談を交わした後，新年度第1回の理事会を開いた。

議　事

（1）前年度理事会より申送りの事項の件　承認。
（2）竹腰会長より5会長懇談会の状況について報告。
（3）理事会務分掌の件　原案通り決定。
（4）委員会委員委嘱の件　原案通り決定。
（5）理事会開催定例日の件　従前通り毎月第2水曜4時と決定。
（6）津市に於ける左官工法講習会開催の件，講師として市大山田講師を派遣することを承認。
（7）常務理事任期満了の件　近く手島常務理事の任期が満了するので審議の結果，重任させることに決定。
（8）入退会者詮衡の件。
（9）報告事項として3月決算の見込および事業報告などが行われた。

編集理事会

20日 4時――6時　於会館会議室

出席者　佐野外4編集理事　事務局3名

常務理事から新編集理事に対し協力懇請の挨拶の後，本年度委員長として佐野理事を推薦し決定をみた。次いで委員長から編集方針について詳細の説明があつて各理事の了承を得，更に各理事からも希望意見が述べられて種々懇談を交わした。

5会会長午餐会

4日　正午　　於東京丸ノ内会館

竹腰会長出席して，佐藤学会，石井土会連合会，松田建築家協会，清水全建協会の各会長と種々懇談を交わした。

編集委員会

幹事会

12日　5時――8時　於会館会議室

出席者　佐野委員長外6名　事務局3名

関西設備原論研究会から前田教授の出席を煩わして，7月設備特集号の編集について審議し，一応の具体案を決定した。

本委員会

13日　2時――5時　於会館会議室

出席者　佐野委員長外7委員　事務局3名

議　事

（1）5月「構造特集」号経過報告。
（2）6月「新人特集」号経過報告。
（3）7月「設備特集」号の具体的企画　幹事会の案を基に審議して，これを大体了承し具体案を決定した。
（4）その他紙型，総索引，広告面の改善などについて検討審議した。

住宅委員会

住宅見学会

14日　1時半――5時半　於芦屋市及び夙川

出席者　中野委員長外6委員　事務局1名

村川邸（芦屋）坂倉建築研究所設計，大新建設施工。蟻田邸（芦屋）清家建築研究室設計，松浦組施工。細川邸（夙川）大阪建築事務所設計。以上3邸を見学した。



夫々に特徴のある住宅で，設計者の意図が充分に現わされていることと共に居住者の知性によつて，よく住みこなされていることが大変参考になつた。

本 委 員 会

20日　1時半——4時　於会館会議室

出席者　逆瀬幹事外7委員　講師高橋誠義氏
事務局2名

大林組高橋施設課長をお招きして，住宅設備の中で特に重要な浄化設備と暖房設備についてお話を伺つた。従前の方式のものから最新型式のものに到る変遷，また全工事費と設備工事費との比率などについて説明があつた後，質疑応答をして種々意見の交換を行つた。次いで議事に入つて，次年度委員会への申送り事項，次年度委員の推薦について審議した。

事 業 委 員 会

小委員会（新材料説明会）

15日　5時半——8時半　於会館談話室

出席者　矢野主査外3委員　事務局2名

塗料工業会で取纏めいただいた資料を検討し意見交換の後，サロン型式の懇談会開催について審議し，日時を5月10日，出席者の人選，懇談会の進め方などを協議決定した。

本 委 員 会

17日 5時半——7時　於　会館集会室

出席者　鷲尾委員長外12委員　事務局3名

議　事

（1）正副，委員長幹事の選任　委員長に鷲尾委員，副委員長に岩崎委員，幹事に3委員を夫々選任した

（2）前年度委員会からの申送り事項の件　各種事業について申送りがあり，審議の結果これを継続することとして小委員会を設置し各主査を決定した。

（3）事業企画について　5月から8月迄の事業予定について審議。

（4）新しい建材（塗料）懇談会の件　三品委員から小委員会の経過を報告して了承を得た。

（5）地方見学会の件　伊奈製陶，紀州長保寺と丸善下津製油所，南淡町庁舎見学会の件を夫々承認決定

（6）その他　会勢審議会委員の追加，若い会員の集会に関する件などを審議した。

委員懇談会

23日　5時半——9時　於会館談話室

出席者　事業委員7名　事務局2名

事業委員のうち若い年令層の人のみで集会懇談を交わした。協会の事業一般に関すること，または個々の事業について或は会館の利用方など，更に事業を行うため収入を計ることなど多方面に亘つて活発な意見の交換が行われた。

教 育 委 員 会

小委員会（若い技術者の施工教育）

1日　3時——5時半　於会館会議室

出席者　立花主査外3委員　事務局2名

若い技術者のための長期講習会開催企画について十日会々員と懇談するため，懇談事項を審議し，会期，時間講習科目などを協議決定した。

同　上（十日会々員との懇談会）

10日　3時半——5時　於大阪建設会館

出席者　立花主査，中原，佐藤各委員　事務局2名
十日会々員25名。

十日会の定例会の席を借りて懇談を交わした。若い技術者のための講習会の実施要項について，小委員会の具体案を説明し，本講習会に関係の深い十日会会員各位の忌憚のない意見や希望を聞いた。追つてこれらを参考として更に案を検討することとした。

本 委 員 会

19日　3時半——5時　於会館集会室

出席者　竹内委員長外9委員　事務局2名

議　事

（1）委員長幹事の選任　委員長に竹内委員を，幹事に寺岡委員を選任。

（2）前年度委員会よりの申送り事項の件　審議の上これらを継続実施することに決定。

（3）小委員会の構成員決定の件　継続実施の各事業に

杭

株式会社　武智工務所

取締役社長　福留並喜

大阪市西区西長堀北通四丁目一〇細野ビル三六号

電話新町㊽九九五～九九八

間仕切天井・
には軽量鉄骨
を・軽量鉄骨
は日進式を御
採用下さい・

耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工

株式会社　奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町五六番地
電話北㉞四一三一～四

ついて夫々従前の通り小委員会を設けることとしこれが委員分担を決定。

（4）本年度事業企画の件　次回更に検討することとした。

（5）会勢審議会委員の選任　相沢委員を選任。

災害委員会

25日　4時半——5時半　於会館会議室

出席者　馬場委員長外12委員　事務局2名

議　事

（1）委員長の選任　馬場委員を選任。

（2）本年度事業企画について　種々意見の交換を行つた結果，年2回位の予定で座談会を企画し，そのテーマは追つて決定すること。なお土に関連のある問題を取り上げて研究することとして，そのテーマ3題と担当委員を決定した。

（3）その他　会誌8月防災特集号の企画に参加する委員および会勢審議会の委員を決定。なお理事会で議に上つた委員会の名称変更の件は審議の結果，本年度は従来通りの名称として変更しないことに決定した。

会勢審議会

24日　3時——5時半　於会館会議室

出席者　東畑会長外7委員　事務局2名

議　事　事業委員から，各種集会に若い人の出席をよくするために集会の日時について考慮する必要がある。また協会の収入を計ると共に建材使用者の便を考えて，建材の登録制を行つてはどうかとの意見が述べられ，集会の日時については現在も考慮されているか，なお配慮すること，建材の登録制についても今後検討をすることとした。次いで会誌をよくすることが最も肝要であるとのことで，会誌編集について各般に亘る希望意見が出されて意見の交換を行つた。

講習会

徳島左官工法講習会

4日　11時——5時　於徳島建設会館

津左官工法講習会

20日　11時——5時半　於津市図書館

両所とも同県の建築士会の主催で，本会と関西建材協会が後援して下記により開催した。

左官工法一主として日本壁について

大阪市大講師　山田　幸一氏

材料と構造的意匠について

神戸大学教授　伴　　潔氏

新材料について紹介説明　関西建材協会会員5社

両所とも会場の変更や特に津では降雨のためもあつてか，開会予定時刻迄に聴講者の集りが悪く開会時刻を延ばしたが，徳島では約50名，津では漸次増加をみて約120名の参会者であつた。

座談会

青年建築家座談会

6日　6時半——8時半　於会館集会室

出席者　編集委員　佐野委員長外5名

青年建築家10名

会誌6月「新人特集号」の企画の一として，嘗て「建築と社会」で推薦された青年建築家に集つて戴き，編集委員を交えて座談会を開催した。テーマには，新人紹介の功罪について，若い人がこれから活動するには，仕事と生活の悩みについて，などが採り上げられたが，出席者一同熱心に長時間に亘り意見を述べ合つた。

見学会

神戸市庁舎見学会

5日　2時——4時　参加者　250名

建築関係者が注目していた神戸市庁舎が竣功したので本会，本会兵庫支部，兵庫県建築士会，同建築会，同建設業協会の共催で見学会を催した。関心の深い建築であるので参加者が非常な多数に上つた。夫々関係者から挨拶や建築に関しての説明があつて，数班に分れて見学した。本建築の特色として次のようなことが注目された。本館，議事堂，附属別館を夫々分離独立させ，地下には約70台収容のガレージを設置，平面にコアーシステムを採用，事務室は大部屋式として移動式間仕切によつて部屋割に弾力性を持たせている。また全館空調で温湿度調整を行い，このため東西の窓に可動ルーバーを採用し，建物全体として通風，採光，音響の点に重点がおかれ，

強くて優雅な
リグノイド床
テックス
フローリング
気光式通風器
責任施工
田辺工業株式会社
大阪市西区江戸堀上通一丁目五　電話土佐堀㊹7437～9

東洋レーヨンのナイロン絨氈・緞通
モケツト・レツプ
室内装飾設計施工
代理店
美工装飾株式会社
代表取締役　小早川美武
大阪市西成区姫松通1の30　電話㊻2564

執務の快適性ということに非常な配慮がなされておる。

追つて詳細は本誌に於て紹介されるであろうが，2年の工期と10億の工費をかけて成つた港都神戸に相応しい堂々たる庁舎である。なお庁舎北側に設けられた花時計は，我が国初めての施設であり，珍らしいものである。

南淡町庁舎 P.C.構造施工現場見学会

29日　午前8時—午後8時半　　参加者50名

学会支部と共催して，天皇誕生日の祝日を一日の行楽を兼ねた見学会に充てた。南海電車と関西汽船を利用して淡路の福良に向い，正午過ぎ現場に到着した。

オリエンタルコンクリートKK接待の中食を終えて，京大増田，坂の両博士から，庁舎の設計計画，P.C.構造の利点であるスマート性の建築への応用などについて設明を承わり，更に六車講師から P.C. 構造についての具体的ないろいろの問題を図示によつて説明を受けた。その後でP.C.の施工状況を見学したが，新工法の現場見学のこととて一同なかなか熱心で，写真の撮影にも忙しく中には8ミリの撮影機による撮影者もあつて目を惹いた

予定の時刻に帰路についたが資するところ多い見学会であつた。

離宮見学会

恒例による離宮見学会を下記の通り開催した。

桂　離　宮	4月30日	参加者	10名
	5月7日	〃	10名
	5月17日	〃	11名
修学院離宮	4月25日	〃	8名
	4月26日	〃	16名

兵庫支部講習会

兵庫支部主催，本部後援で下記によりコンクリート技能講習会を開催した。最終日の26日には終了証書の授与式を行い，本部から常務理事が出席して挨拶をしたが，聴講者は80名を超え，相当年輩者が多く中には50代，60代の熱心な方々があつた。

4月24日	午前	材料	神戸大教授　木村惠雄氏
	午後	試験法	同　上
25日	午前	調合	大林組　谷口尚武氏
	午後	工法	竹中工務店　中出定夫氏
26日	午前	サーモコン工法について	日本サーモコンKK
	午後	ナニワコンクリートブロック工場見学	大阪生コンクーリトKKに於て実習

京都支部講習会

支部主催，本部後援で下記のとおりコンクリート技術講習会を開催した。受講者70名終始熱心に聴講して，その結果は実際面に充分実現せられるものと期待された。

4月24日（夜間）最近の問題点　阪大教授　奥島正一氏

25日（〃）新しい施工法について　清水建設　金子　豊氏

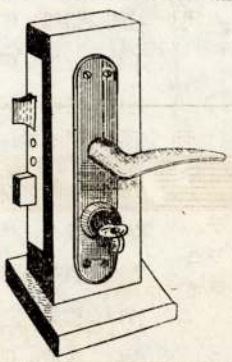
26日（〃）特殊コンクリート工法　竹中工務店　中出定夫氏

27日（午後）実習及見学　於　京大工学研究所

昭和31年度会計監査

例年のとおり，住友信託銀行より検査員来所して，4月15日から18日に到る4日間，昭和31年度の会計監査を行い終了した。

TRADE YALE MARK
世界のエール錠前
米国エールエンドタウン製造会社
関西販売代理店
株式会社 菅商店
大阪市西区南堀江通三の二〇
電話 ㊾ 7371～3
支店 福岡・名古屋



昭和32年度各委員会委員氏名

4月10日の理事会において，下記のとおり昭和32年度各委員会，委員委嘱を決定しましたので，ここに御氏名を掲載いたします。（50音順・敬称略）

事業委員会

委員長	鷲尾　健三	(大阪大学)
副委員長	岩崎甚太郎	(大林組)
幹事	尾亀清四郎	(三晃商会)
〃	村上　秀夫	(住宅公団)
〃	森田　孝雄	(国鉄)
委員	井上　滉	(大阪建築事)
〃	岡本　弘	(浅沼組)
〃	木村　博己	(大阪郵政)
〃	北村　隆夫	(竹中工務店)
〃	玄古　昌一	(近畿電通)
〃	武田　恭一	(近畿電気)
〃	内藤　一真	(府建築部)
〃	橋本　喬行	(日建)
〃	平田作太郎	(平田タイル)
〃	日置興一郎	(大市大)
〃	松本　宇一	(市交通局)
〃	三品　哲夫	(市建築局)
〃	矢野　豊作	(藤木工務店)
〃	山本　義樹	(錢高組)
〃	山本　俊介	(清水建設)

災害委員会

委員長	馬場　善雄	(大阪大学)
委員	石崎　澄郎	(京都大学)
〃	小野　宏治	(関西電力)
〃	斧出　正隆	(府建築部)
〃	小泉　昇	(竹中工務店)
〃	小西　岬	(田中小西建築事)
〃	堯天　義久	(神戸大学)
〃	陶浪　貞彦	(清水建設)
〃	竹口　信夫	(市建築局)
〃	中島　政清	(国鉄)
〃	北後　寿	(近畿電通)
〃	益尾　辰雄	(都島工高)
〃	宮川　達郎	(日建)
〃	山下　暢雄	(大成建設)
〃	横尾　義貫	(京都大学)
〃	若田　久作	(大林組)

教育委員会

委員長	竹内　成夫	(府建築部)
幹事	寺岡　真	(〃)
委員	相沢喜久太郎	(大建業協会)
〃	浅田　繁男	(松田平田設計)
〃	池上　勝郎	(池上建築事)
〃	乾　亮三	(今宮工高)
〃	犬束　徳郎	(兵庫工高)
〃	岩下　久哉	(鹿島建設)
〃	岡　三郎	(岡組)
〃	上林　博雄	(大市大)
〃	笹川　季男	(大成建設)
〃	佐藤　音松	(今西組)
〃	関原　猛夫	(神戸大学)
〃	立花　量吉	(大阪郵政)
〃	中原　茂	(近畿地建)
〃	西村　忠二	(鍵仲建設)
〃	橋本　忠保	(住宅公団)
〃	増田幸次郎	(市建築局)

編集委員会

委員長	佐野　正一	(安井建築事)
幹事	足立　孝	(大阪大学)
〃	千原大五郎	(大阪建築事)
理事	諫早　信夫	(住宅公団)
〃	内田　成之	(須賀工業)
〃	小栗　賛吾	(清水建設)
〃	高橋　慶夫	(大阪建築事)
〃	竹中　錬一	(竹中工務店)
〃	布施　忠司	(大市大)
〃	室谷　山水	(室谷商店)
〃	山本竜太郎	(ヤマト電気)
〃	吉田　信武	(兵庫住宅協)
委員	浅尾　正敏	(国鉄)
〃	伊藤　克三	(大市大)
〃	石黒　次郎	(竹中工務店)
〃	石堂正三郎	(大市大)
〃	岩本　博行	(竹中工務店)
〃	鬼武　信夫	(大市大)
〃	川上　貢	(京都大学)
〃	絹谷　祐規	(京都大学院)
〃	島田　儀	(府建築部)
〃	菅田　豊重	(大林組)
〃	鳥田　家弘	(神戸大学)
〃	福田　朝生	(竹腰建築事)
〃	政岡　基次	(松村組)
〃	増田　多郎	(RIA大阪事)
〃	松原　孝史	(日建)
〃	光安　義光	(兵庫県建築課)
〃	渡辺　禎己	(市建築局)

住宅委員会

委員長	西島徳太郎	(大阪建築事)
幹事	逆瀬　淑	(府建築部)
〃	鈴木　成文	(大市大)
委員	上田　光雄	(大市大)
〃	牛田いく子	(大市大)
〃	片山　金市	(住宅公団)
〃	北村　君	(奈良女大)
〃	斉藤　四郎	(内外木材)
〃	白木小三郎	(大市大)

〃	竹田　隆次	（市建築局）
〃	富家　宏泰	（富家建築事）
〃	中野順次郎	（泉尾工高）
〃	橋本英三郎	（久米建築事）
〃	浜田　和夫	（近畿電通）
〃	平生　舜一	（竹中工務店）
〃	好川　博	（日　建）
〃	向井　保晴	（東洋リノリューム）

建材審査委員会

委員長	置塩　章	（置塩建築事）
委　員	稲田　芳郎	（大成建設）
〃	岩本　博行	（竹中工務店）
〃	大橋　友熊	（国　鉄）
〃	岡本　弘	（浅沼組）
〃	奥島　正一	（大阪大学）
〃	加藤　宣彦	（三和銀行）
〃	香取　礼三	（東畑建築事）
〃	榊　弘美	（日　建）
〃	後川　春雄	（大阪建築事）
〃	菅田　豊重	（大林組）
〃	竹内　孝	（近　鉄）
〃	竹内　成夫	（府建築部）
〃	地引　友次	（文部省）
〃	中村　福一	（近畿地建）
〃	弥屋　毅一	（京阪神急行）
〃	布施　忠司	（大市大）
〃	福田　朝生	（竹腰建築事）
〃	福知　秀夫	（市交通局）
〃	政岡　基次	（松村組）
〃	光島　良一	（近畿電通）
〃	森　忠一	（村野森建築）
〃	元木　貞次	（呉羽紡績）
〃	矢野　豊作	（藤木工務店）
〃	吉田　圭三	（住宅公団）
〃	若木望太郎	（倉敷紡績）

出版委員会

委　員	大井弘治郎	（日　建）
〃	奥島　正一	（大阪大学）
〃	北山二十三	（竹中工務店）
〃	金剛　年孝	（金剛組）
〃	後川　春雄	（大阪建築事）
〃	竹内　孝	（近　鉄）
〃	谷口　尚武	（大林組）
〃	恒成　一訓	（つねなりスタジオ）
〃	徳永　正三	（三座建築事）
〃	西島　勇	（市建築局）
〃	林野　全孝	（大市大）
〃	山田　幸一	（大市大）

法規委員会

委　員	石川　俊一	（府土木部）
〃	池田　達雄	（市建築局）
〃	恩田　一則	（市消防）
〃	駒　敬三	（駒建築事）
〃	竹内　博文	（市建築局）
〃	恒岡　俊行	（府建築部）
〃	藤井　信一	（府建築部）
〃	森　忠一	（村野森建築事）
〃	森川喜代之助	（森川建築事）
〃	山内　茂	（山内建築事）
〃	山田　忠顕	（市計画局）

名簿発行委員会

委員長	谷口　尚武	（大林組）
委　員	北村　隆夫	（竹中工務店）
〃	佐久間　宏	（大成建設）
〃	井上　滉	（大阪建築事）
〃	山本　茂	（大日本土木）
〃	山本　俊介	（清水建設）

関西建材協会・4月分会報

理事会　2日 11.30～2時　於　会館4階

出席　青木副会長，久保監事，室谷理事長，事務局長外理事19名

議事に先立ち，故竹林理事の冥福を祈るため黙禱を捧ぐ。

報告31年度収支決算並びに剰余金処置事務局長説明承認。定時総会開催の件，常設展示場出品料一部改正の件，竹林理事補欠は行わず法人組織認可後に協議すること。事務職員昇給額，等協議決定，会勢部長欠員中のところ本日，若井理事に決定。本年度事業企画案協議。

徳島建材説明会　4日10時半～5時半 於 徳島建設会館

阪東徳島県建築士会々長開会挨拶後，洋壁について左官工法講習後中食，午後1時再開，

ハードボードについて浪速合板，村石社長。スロールに就て，山本建材山本社長。ヒルコンに就て，日宝蛭石KK，能率風呂KK。シングルに就て，田島応用化工KK小山社員。オートカラー・スライド使用説明。

次に手島理事並びに大和事務局長挨拶，建築協会・建材協会について，P.R. 3.30分伴潔講師，材料と構造的意匠に就て，約1時間講演。4時半～5時半，日本壁について，山田講師の説明を以て終了。

阪東士会長閉会辞後解散，来聴約60人。

なお市民館にて開催中の建築展には本会よりも多数参加出品したが連日万余の入場者あり非常な盛況であつた。

定時総会　9日 4～8時　　於　今橋クラブ

竹腰，置塩顧問，新聞社等来賓9名，中村会長，青木戸田副会長，久保監事，外会員86人，事務局6人，計103名出席。

室谷理事長及び大和事務局長司会の下に開会。議事報告に先立ち一同起立，元理事故竹林富三郎氏並びに会員故上山元市氏の逝去に対し弔意を表するため黙禱を捧げ冥福をお祈りした。

次に中村会長開会挨拶と今年度の見通し，展示場運営外会員の隆昌を祈り本日審議等所見を述べた。

報告，展示場経過に就き，水島宣伝副部長。事業経過につき，井場事業部長が説明した。

議事，会則一部改正の件（事務局委託を削除）

法人組織に機構改革の件。

役員半数改選の件（法人認可まで現状のこと）

以上，金光総務部長説明後，会長より可否を問うた後，異議なく可決。

昭和31年度収支決算並びに剰余金処理の件，中山会計部長配付の表により説明承認。なお本件に関し監事久保幸一氏正確なること証明した。

以上を以て総会終了の旨中村会長述べ，閉会後別席にて懇親晩餐会を催し竹腰，置塩両顧問出席，新聞代表として建材新聞中村支局長より，それぞれ祝意と今後建材会に望む意見開陳あつた。志垣長老発声万才三唱後解散。（追つて笠原副理事長寄贈になる堀江美人3名より義太夫による戻り橋と夕暮れ二題の手踊りを余興とした）

部長会議　16日正午～3時　於会館4階

室谷，笠原正副理事長，総務部長代志垣理事，若林会計部長代理，事務局長出席。

（1）定款草案。（2）就業規則。（3）事務局規程。（4）給与問題等検討。

建物保全部会　18日正午～2時　於　会館3階

露無東日本支店，ケントク社，山本，山下，不二化学社横山，沢田商店竜井，マルシン商店，

水島大阪支店，三宮社長，山崎商店勝山各氏出席。

（1）当会館清掃施工方は今後当番三ケ月受持ちとする。

（2）特別部員会費出来る限り全員参加を募ること。

（3）春季大会は今春は取止めとし秋大会は2社位当番とする。

（4）当番割のことは，殆んど出席不可能とみなされる。新光，三村，打越の三社を当分除き下の通り割当する。

5月田島，6月水島，7月ケントク，8月東日本，9月山崎，10月小綠，11月山下，12月不二，1月福井，2月互光の各社を申合す。その他協議。

三重県津説明会　20日雨天 10時～6時　於津図書館

日本建築協会と共催，下の通り挙行，雨天にも拘わらず120名の来聴あり盛会であつた。

長島士会理事司会の下に大林県士会長開会挨拶，大阪側主催代表として大和事務局長，日本建築協会と建材協会の事業内容 P.R. 本日の講習説明会の順序等述べた後，次の通り進行。

（1）材料と構造的意匠に就て，伴博士。シングルに就て，田島応用化工KK小山社員スライド使用。スロールに就て，山本武雄。左官工法に就て，山田講師。ヒルコンに就て，日宝蛭石竜本社員。ハードボードに就て，浪速合板村石社長。ペイントに就て，水谷ペイント製造部長。左官工法（洋壁）山田講師。

以上5時一旦終了後，質疑応答ありて大林士会長，主催者代表閉会辞を述べ5時30分解散。

32.4.9　定時総会　(1)



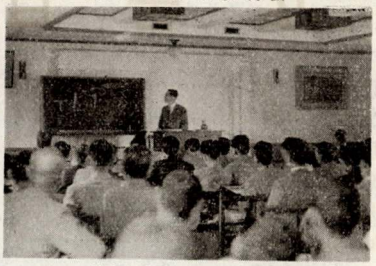
於　今橋クラブ役員席

(2)



各部長提案説明

32.4.20　津市説明会



津図書館会場一部

日　　誌

3日　大和事務局長は建築協会山田講師，手島理事等と村石・山本建材社長等を伴い徳島説明会出席のため午後2時出発。5日山田講師と帰阪。

8日　10～11時，久保，佐村木両監事3階事務室にて決算書検閲。

10日　正午，建築協会理事会へ青木，鈴木，室谷，向井四氏出席。

12日　広島県住宅公社古林常務理事来会，説明会開催の件協議。

13日　会館清掃を行う（当番打越商店）

16日　6時より事務局会を開き大和局長より昇給額伝達の後事務協議。

17日　正午～2時，室谷理事長，大阪商工会議所建設部会幹事として列席。

19日　大和事務局長は神戸大学伴博士と説明会出席のため津市に向い22日正午，山田講師と帰阪。

24日　徳島県竹崎建築課長並びに速見指導係長来会，同地説明会並びに建築展出品清算と挨拶があつた。

26日　2—6時，大阪製版ＫＫ植野君来会，事務局とダイジェスト原稿写真凸版整備打合せ。

27日　置工業ＫＫ山本氏来会，事務局長とチップボード講演会開催打合せ。

会員動静

小早川美武氏は亀井装飾株式会社を辞し，今般下記の通り独立自営されることとなり24日来会，挨拶があつたが，同日改めて本会に入会された。

社名　美工装飾株式会社（代表社員小早川美武）

所在　大阪市西成区姫松通一丁目30　電話㊻2564番

【寄贈品受領】

4月24日東洋陶器ＫＫ殿より同社製品に係る高級コーコーセット一打御寄贈を受けた。本会各会合並びに談話室用に使用。

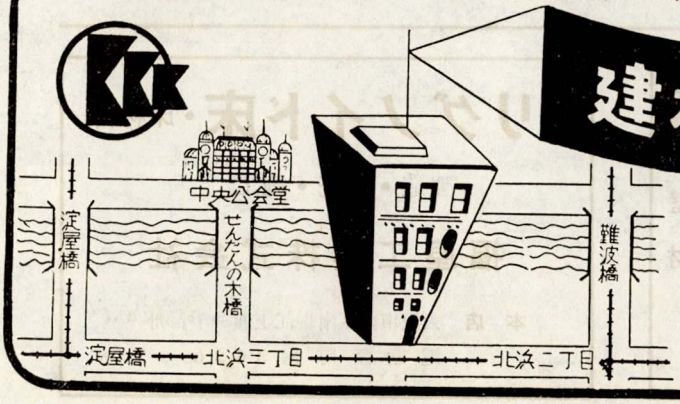
4月27日田島応用化工ＫＫ殿より鉛筆24包並びにメモ60冊御寄贈に接したので，本会と建築協会に配布した。

以上両社に対し誌上を通じ厚く御礼申上げます。

新材料ダイジェスト発行予告

昨年より準備を進めている新材料紹介パンフレットは近く印刷に付し7月発行の目標で進捗中。

信用と誠実をモットーとする・建材100社の見本が一目で見られる



設計・施工・管理には
まずお気軽にお越し下さい

関西建材協会
大阪市東区北浜三丁目三七　近畿建築会館内
電話㉓7172　振替番号 大阪 59739

広告目次

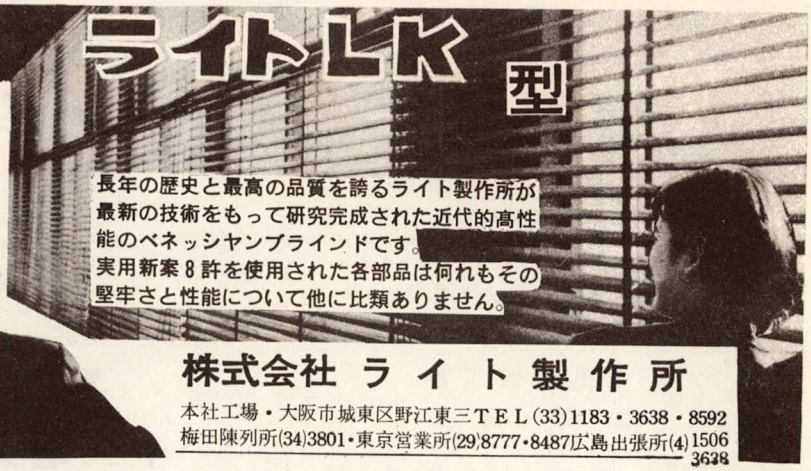
（50音順）　建築と社会 Vol. 38 No. 6

浅海電気kk …… 2
アスファルト同業会関西支部会員 9
伊奈製陶kk ……中挟
泉石綿工業kk …… 6
井上窯業kk …… 4
kk岩住鉄工所 …… 7
岩元工業kk …… 8
kk栄興商会 …… 3
kk荏原製作所 ……表紙 4
オリエンタルメタル製造kk …中挟
大阪建材工業kk ……18
kk大阪城口研究所 …… 3
大阪耐火ボードkk ……前付
kk大阪電気暖房商会 …… 3
大島応用化学工業kk …… 6
kk奥村重兵衛商店 ……63
奥山化工業kk ……13
織本特殊構造研究所……12
大阪化成kk ……前付
樫野石灰工業kk …… 7
上山製陶所……中挟
kk川岸窯業 …… 5
関西三星タイル会……15
関西ペイント……表紙 3
川口ゴム工業kk ……前付
工藤電気kk …… 2
kk久保商店 …… 1
kkケントク ……18
kk建材社 …… 3
kk金剛商会 …… 5
kk工英社 ……表紙 2
斎久工業kk …… 3
kk斎藤省三商店 …… 3
三機工業kk …… 3
kk三幸商会 …… 4
kk三興社 …… 2
kk三晃商会 …… 3
三宝電機kk …… 2
三和商工kk ……表紙 3
彰国社 ……58
新興建材工業所 ……14
須賀工業kk …… 3
菅商店kk ……65
鈴木シヤタア商会 …… 4
住友商事kk ……10
住友金属工業kk ……表紙 3
積水化学工業kk ……中挟
セメダインkk ……前付
田中工業kk …… 1
田中風呂製作所…… 6
田辺工業kk ……64
田村商会建材部…… 6
谷山製作所…… 6
大日本硝子工業kk ……11
大仏組 …… 5
高砂熱学工業kk …… 4
kk武智工務所 ……63
kk立花商会 …… 2
耐酸化学工業kk ……16
淡陶kk ……中挟
中央電気工業kk …… 2
朝陽電気kk …… 2
東邦商会…… 5
東京鋼板工業kk …… 8
東洋キヤリア工業kk …… 4
東洋陶器kk ……前付
東洋リノリュームkk ……前付
東洋レーヨンkk ……10
中之島製鋼kk ……前付
ナニワ瓦kk …… 5
内外工業kk ……11
内外土木建材社…… 7
浪速合板 …… 4
浪速建材工業kk ……16
日本エヤーブレーキkk ……17
日本金具製作所……中挟
kk日本シヤッター製作所 …… 8
日本ドアーチエック製造KK……中挟
日本セメント防水剤製造所…表紙 3
日本レーヨンkk ……中挟
日宝蛭石kk …… 7
kk西原衛生工業所 …… 3
西日本アスファルト防水事業協同組合表紙 4
日昌工業kk …… 4
日本レイヨン ……中挟
kk野上工業所 …… 2
kk林塗装店 …… 7
合資会社汎建製作所……12
浜岡商店 ……70
美工装飾kk ……64
kk日立製作所 ……表紙 2
平田建築構造設計事務所……11
福屋工業kk ……70
藤森工業kk ……前付
豊国セメントkk …… 8
kk松重電機商店 …… 2
永谷ペイントkk ……62
kk三高製作所 ……12
kk三谷製作所 ……10
三国コンクリート工業kk ……11
三菱レイヨンkk ……17
峰岸商店 ……13
美素工業所 ……前付挟込
kk室谷商店 …… 5
kkヤマト電気商会 …… 2
油脂化工社 ……表紙 3
kk吉田芳雄商店 …… 5
吉野石膏kk …… 5
kkライト製作所 …… 1

絶讃!! 壁材
高尚脱色変色せぬ
趣味の壁砂
富士印
カラーサンド
汚れぬ耐火保温防暑防音
塗るテックス
カラーサンドの
ダンネツオール
合名会社
浜岡商店
兵庫県津名郡一宮町郡家港
電話郡家二〇番

リグノイド床・床材料
製造・販売・施工
福屋工業株式会社
本店　大阪市西区南堀江上通一丁目卅一
電話新町 ㊽ 3426～7

新製品
ベネッシヤンブラインド
ライトLK型


長年の歴史と最高の品質を誇るライト製作所が
最新の技術をもって研究完成された近代的高性
能のベネッシヤンブラインドです。
実用新案8許を使用された各部品は何れもその
堅牢さと性能について他に比類ありません。
株式会社 ライト製作所
本社工場・大阪市城東区野江東三ＴＥＬ(33)1183・3638・8592
梅田陳列所(34)3801・東京営業所(29)8777・8487広島出張所(4)1506
3628

田中式 スカイライト
オペレーター
スチールサッシュ
ベンチレーター
設計施工
田中工業株式会社
本　　社　東京都墨田区吾嬬町東4ノ122　電話城東㊽0870,0970
錦糸工場　東京都墨田区錦糸町1ノ25　電話本所㊸0790
小倉工場　小倉市鍛治町1ノ1　電話小倉653　【出張所】川崎・名古屋・小倉・広島・札幌
大阪出張所　尼崎市南竹谷町2ノ89　電話大阪㊽545

信用ある技術と伝統の
アスファルト工事専業大店
株式会社 久保商店
大阪市北区真砂町5番地
電話大阪(34)207～8・4836～7

電気工事設計施工
変圧器電動機電気冷蔵庫
電気洗濯機販売修理

工藤電気株式会社

大阪市北区太融寺町五四
電話・大阪㊱2891—5番
工場　大阪市西淀川区御幣島東一丁目二〇
電話 淀川㊼3477・3478
営業所　東京・名古屋・神戸・岡山・広島

各種電気工事設計施工

淺海電気株式会社

取締役社長　浅海正雄
大阪市東区北浜二丁目六九
電話北浜㉓5273—5275・4241
営業所　東京・神戸・岡山・小倉・札幌

電気設備工事
設計・施工

朝陽電気株式会社

本社　大阪市北区中之島三丁目三　朝日ビル6階
電話 大阪局 ㉖8851番・㉓9531・1334・2351
営業所　大阪市西区土佐堀通り四丁目十一番地
電話　大阪局 ㊹ 5201番（代表）

電気工事全般設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長　今村騰
本社　大阪市北区曾根崎上一丁目四一
電話　大阪㉞8131代表～4
営業所　東京・新宮・御坊

電気工事設計施工

株式会社野上工業所

取締役社長　野上清二郎
本社　大阪市東区北浜三丁目四七　電話北浜㉓770～3
支店　福岡市上東町十五　電話東③5010
支店　松阪市本町電話　13
出張所　東京・名古屋・神戸・直方・田川・大分

電気工事設計施工

株式会社ヤマト電気商会

取締役社長　山本龍太郎
本社　大阪市北区西堀川町15番地
電話　㉞代3056
東京営業所　東京都中央区銀座東8丁目4番地
全国燃料会館502号室　電話㊹7464
出張所　名古屋・防府・福岡

電気工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納傳三
本社　大阪市大淀区浦江北二丁目五一
電話 ㊺ 5148・6460・6646
営業所　大阪市北区絹笠町五〇（堂ビル八階）
電話 ㊱3862・1141
出張所　東京・名古屋

電気工事全般設計施工

株式会社三興社

取締役社長　坪井大（タケシ）
本社　大阪市北区絹笠町50番地（堂ビル703号室）
電話　大阪㊱2138代表
支店　東京都中央区日本橋箱崎町三丁目二番地
電話　兜町㊲1478・1479・1470番
出張所　大阪堺・名古屋・下関

電気工事各種設計施工

株式会社松重電機商店

取締役社長　松本芳太郎
大阪市東区今橋二丁目十六番地
電話　北浜㉓6951（代表）～3

三菱電機製

NFノーヒユーズ分電盤　NFノーヒユーズ配電盤
螢光灯・モーター・変更器・冷暖房・エレベーター
三菱電機株式会社元扱店

株式会社立花商会

大阪市東区南本町二丁目四三番地
電話本町㉖（代表）0671～9

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

代表取締役　城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話豊崎㊲7575～7
京都市東山区大和大路大仏前・電話祇園⑥4945～6
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話元町④5892

電気・暖冷房・水道・衛生
設計施工

株式会社 大阪電気商会
大阪暖房商会

取締役社長　菅谷三郎

本店　大阪市西区江戸堀南通一丁目三七番地
電話土佐堀㊹代表5231番
東京支店　東京都中央区銀座西二丁目一番地
電話京橋㊺代表6291番
名古屋支店　名古屋市中区南武平町二丁目一番地
電話中㉔代表4491番
出張所　京都・神戸・岡山・広島・福岡・熊本
札幌・仙台・新潟・金沢・福井

水道・衛生・煖冷房・其他管工事
設計並施工
特許YM式ルーフドレイン製造販売
（旧斎藤久孝事務所）

齋久工業株式会社大阪支店

大阪市南区順慶町通一丁目四四番地
電話本町局㉘代表4496～8番
本店　東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
電話28局6505～8番
金沢営業所　金沢市高岡町三五　電話金沢本局②2074
福井出張所　福井市城之橋下町一〇　電話　福井2436
高松出張所　高松市中新町一〇六ノ三　電話高松5195

創業　大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 齋藤省三商店

東京店　東京駅前丸ビル6階676区
電話和田倉⑳3761・3762・3763・3764
大阪店　大阪市西区土佐堀通大同ビル714号
電話土佐堀㊹1568・1569・2594
札幌店　札幌・北四・西四（札幌駅前）
電話札幌②0010・0956③4661
名古屋店　名古屋市中区南大津通一丁目千代田生命ビル522号室
電話中局㉔1766

暖房・冷房・衛生・水道・電気・厨房・築炉
鋼製建具・軽量間仕切・工事設計施工
電縫鋼管・荷役機械・製造販売

三機工業株式会社大阪支店

大阪市東区高麗橋三丁目壱番地・電話代表26局 2951 3076

本社　東京都千代田区有楽町壱丁目十番地
支店・出張所　名古屋・福岡・札幌・広島
工場　川崎・鶴見・中津・六郷

暖房・冷房・水道・衛生工業設備
設計施工

須賀工業株式会社

大阪市福島区堂島浜通4丁目
電話㊺代表1171番
電話㊺代表1351番

東京支店　東京都港区芝田村町6丁目　電話㊸代表7151
名古屋支店　名古屋市中区材木町1丁目　電話㉓2780
京都支店　京都市下京区烏丸通松原下ル電話⑤1989
神戸支店　神戸市生田区北長狭通2丁目　電話③代表5101
福岡支店　福岡市千代栄町　電話②代表4735

給水・排水・衛生設備・暖房設備
汚水浄化装置・都市廃物処理装置

株式会社

西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通二丁目五一番地
電話福島㊺3416～8番
東京事務所　東京都港区西芝浦三丁目一番地
電話三田㊺9371番

空気調和装置及衛生設備
設計施工

株式会社 建材社

大阪支店

大阪市北区中ノ島三丁目（朝日ビル九階）
電話本町㉖8851～9
本社及東京支店　東京都中央区八重洲三丁目七
営業所　名古屋市中区西万町二丁目一

煖冷房・水道衛生工事
設計施工

株式会社 栄興商会

取締役社長　中山俊人

本社　大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電話福島㊺3391～4番
支店　東京都新宿区荒木町一九番地
電話四谷1324番
出張所　神戸市生田区下山手通八丁目三三
電話元町④5377番

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃商会

本社　大阪市北区堂島北町一四　㉞代表7031
出張所　東京都港区芝琴平町四〇　㊽8478・1470
名古屋市中区新栄町二丁目一　⑨1820～2
福井市宝永上町一〇五　②1596
広島市石見屋町五五　②1773
福岡市薬院大通一丁目一七　④1158

暖・冷房・空気温湿度調整装置

設　計　施　工

高砂熱学工業株式会社大阪支店

大阪市北区中ノ島3丁目3番地（朝日ビル7階）
電話北浜㉓1334～8・7359
本社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社

大阪支店

大阪市北区堂島船大工町五三番地(毎日大阪会館内)
電話大阪㉞局8356～8359
本社　東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
出張所　名古屋・九州　　工場　足立

陶管・ベンチレーター

株式会社 **三幸商会**

大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電話大阪㉞3145

ヒューム管

鈴木式防火シヤタア

鈴木シヤタア工業株式会社大阪出張所

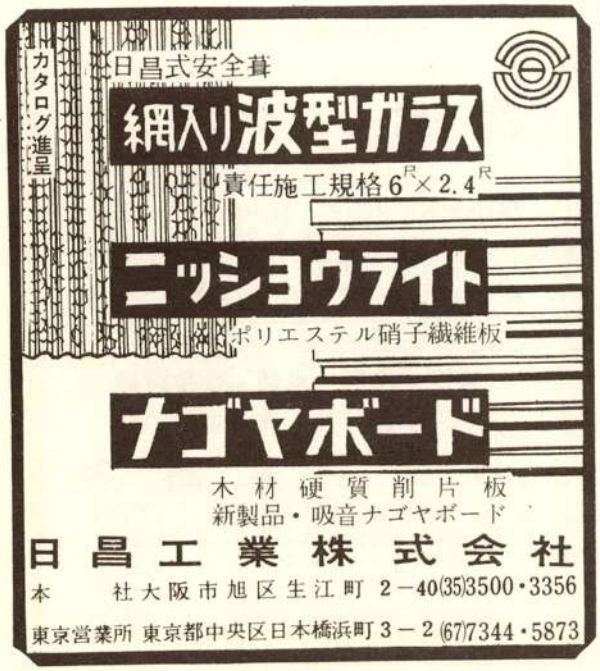
株式会社 鈴木シヤタア商会

大阪市北区茶屋町三十三番地
電話豊崎㊲98・5837・8729

千光瓦
各種和洋瓦
各種タイル　販売・工事設計並施工
衛生陶器

井上窯業株式会社

大阪市天王寺区生玉町40　電話天王寺㊼3809～3810
営業所　(電話)住吉㊼4123・奈良2508・豊中3614
　　平野(東住吉)㊾3848・芦屋5930
倉庫　大阪市港区市岡浜通り2～14・電話築港㊼1675



日昌工業株式会社

本　社大阪市旭区生江町2－40(35)3500・3356
東京営業所 東京都中央区日本橋浜町3－2(67)7344・5873



モデルルームへどうぞ

一歩でも時代感覚に先駆しようと努力しています

大阪市浪速区幸町通3丁目20　**浪速合板**　電話新町(53)2201－3番

工場　大阪市住吉区西加賀屋町4丁目81・電話住吉(67)5109

風雨に強く
和瓦より安い
大和洋瓦（だいわ）

發売元
大仏組　大仏瓦・各種和洋瓦 工事請負一式
本　店　京都市東山区今熊野池田町九　⑥3555
大阪営業所　大阪市東区内淡路町一丁目　㊹ 975

木毛セメント板

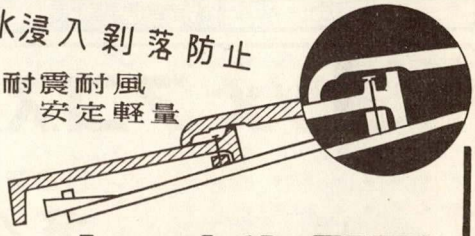
東邦商会
本　社　大阪市東住吉区桑津町3丁目59 電話天王寺㊼1296
出張所　和歌山市新堀6丁目13 電話和歌山298番

タイル衛生陶器
販売と施工
奉仕感謝の店
株式会社 川岸窯業
大阪市西区靱北通一の五（市電京町橋電停前）
電話土佐堀㊹2571番

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売
建築陶器の百貨店

株式会社 吉田芳雄商店
大阪市北区南森町交叉点
電話堀川㉟3402・9034

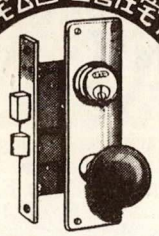
特許植物性　型枠離剥塗料
サンヒット
関西代理店　株式会社 金剛商會
大阪市西淀川区野里町1231　阪神国道電車　野里電停前
製造元 東京 坂巻サンヒット商会　電 淀川㊼0417・4091

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町二丁目五三 電話(64)五六五
ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾配最適軽量 水止付(空葺)瓦

Acoustic Tex
吸音テックス

株式会社 室谷商店
本　社　神戸市生田区長狭通四ノ一地産ビル
TEL 三宮③0881～3
支　店　大阪市北区絹笠町五〇　堂ビル5階
TEL大阪㊱2021・3486・1141

燃えない建築資材
タイガー印
耐火ボード
石膏デスボード
タイガートーン
絶対に亀裂を生じない劃期的下塗壁材
Y.N石膏プラスター
キーンズセメント
各種焼石膏
吉野石膏大阪支店
大阪支店　大阪市西区土佐堀通1―1(大同ビル)
電話(44)3694:0131
本　社　東京都丸ノ内・三菱東九号館四号
電話千代田(27)0701―2・7482―3
九州営業所　福岡市大字麦野260　電話西(2)7420



日本住宅公団・公営住宅 御指定

40年の技術の結集、御信頼に応えるゴール製品！

シリンダー扉錠

GOAL

シリンダーレバーハンドル錠
押ボタン式シリンダー錠
アンチ式シリンダー錠
シリンダーナイトラッチ
シリンダー抽斗錠
各種高級彫込錠

谷山製作所

大阪市東淀川区三津屋北通四　電話 豊崎 (37) 3117・7724



清

各種鋼鐵風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・ガス風呂

田中風呂製作所

大阪市浪速区元町一丁目七四二　但シ賑橋電停前

田中風呂発売元

電話 戎 ⑥④ 5313・8128

ヨツメアコスボード

日本楽器製 高級合板

タムテキス
ヤハズラス
フローリング

田村商會 建材部

神戸市生田区栄町通2ノ39(安田火災ビル)
電話 神戸 ③ 0591～3番



エバーブライト

アルミニウム ルーフイング

EVER BRIGHT

大島応用化学工業株式会社

本社・大阪市城東区野江東之町4丁目 電話 城東(33) 4481　支店・新居浜、出張所・広島・四日市

石綿・セメント製品の最高水準を行く!!

硬質石綿板 (アスベストウォール)

建物内外壁、間仕切、天井扉、
電気室、発電所、配電室、製鋼、
ガラス工場の壁などに最適

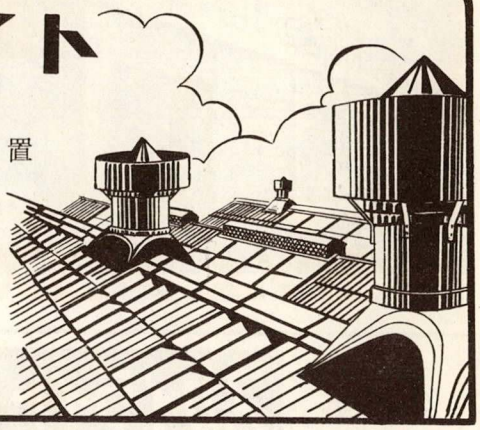
呈カタログ

泉石綿工業株式会社

大阪市北区北同心町1丁目11の9
電話 堀川 ㉟ 3442

焼成
HILCON
ヒルコン
絶対廉価
耐火・断熱・軽量・保温・保冷
吸音・防音・結露防止
大阪市東区高麗橋3—7
日宝蛭石株式会社
TEL (23) 1601・5627・5628

内外式スカイライト
漏らない 破れない 飛ばない
40年の技術と経験により完成された天窓装置
ワイヤ波型硝子完全葺
内外式ベンチレーター
コンチニアス並に筒型 風力換気用 動力換気用
株式会社 内外土木建材社 設計施工
大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）
電話土佐堀（44）3983番 4396番



優秀機能ヲ誇ル
岩住式シャッター
ドアー。サッシュ。メタルラス
(JIS 557)
最新ノ機械設備
最高ノ設計ト技術
不撓ノ研究ト改良
株式会社岩住鐵工所
大阪市西淀川区千舟東二丁目三一番地
TEL淀川（47）代表4351・4352・4353・0903・0904

工業用及建築用各種石灰製造販売
小野田セメント特約販売店
樫野石灰工業株式会社
大阪支店
大阪市北区曾根崎新地三丁目五十三ノ一
（市電桜橋停留所前）電話大阪㉞1274～6
支店・徳島・神戸・姫路・東京

PAINTING CONTRACTOR
塗装工事請負
株式会社 林塗装店
TEL. 大阪 ㉕ 1756—7・東京 ㉙ 1335

スチールサッシュ
スチールドアー
スチールシャッター

東京鋼板工業株式会社

大阪支店
大阪市北区絹笠町18番地（聚嘻ビル三階）
電話北㉞0621・0628
本社及工場
東京都荒川区尾久町5ノ1.000　電話荒川㊽8131-4


大阪府営堺宿院店舗付共同住宅

戸締ノ改革

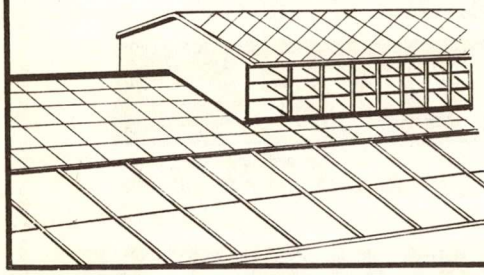
PATENTS No:414855 No:414856 No:35528

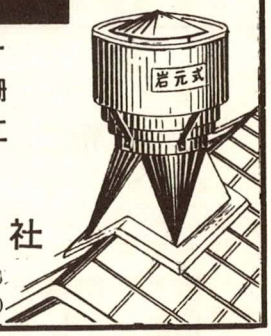
店舗、倉庫、ガレージ等ニ最適デス。開閉ハ
片手ニテ軽ク揚ゲ降シ致シマス。価格ハ至極
低廉デス。御一報係員参上、カタログ進呈

専門製作
株式会社 日本シャッター製作所
大阪市東淀川区田川通6丁目38
電話豊崎㊲439

岩元式 スカイライト 並 固定筒型 コンチニアス ベンチレーター

サッシュ、ドアー、シヤッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工





カタログ進呈

岩元工業株式会社
本社　大阪市東成区東今里町4の40
電話東㊹8870・9350

豊国セメント株式会社

本社　福岡県苅田町
事務所　小倉・大阪・東京

アスファルト防水の材料と工事は

社団法人　アスファルト同業会

関西支部会員

（イロハ順）

▶製造業社

日瀝化学工業k.k. 大阪営業所	大阪市東淀川区堀上通3丁目39	(37) 1380・1802
東亜工業k.k.	大阪市福島区上福島北通2丁目31	(45) 914～5
大恵工業k.k.	大阪市西淀川区姫島町1690	(47) 3131～2
田島応用化工k.k. 大阪出張所	大阪市西区京町堀上通1丁目14	(44) 809～10・1773～5
k.k. 工英社	大阪市西成区橘通9丁目24	(66) 8861～2
k.k. 工盛社	大阪市城東区西鴫野6丁目43	(33) 4460・8288
協和建材工業k.k.	大阪市東淀川区田川通5丁目91	(37) 6002・857

▶販売業社

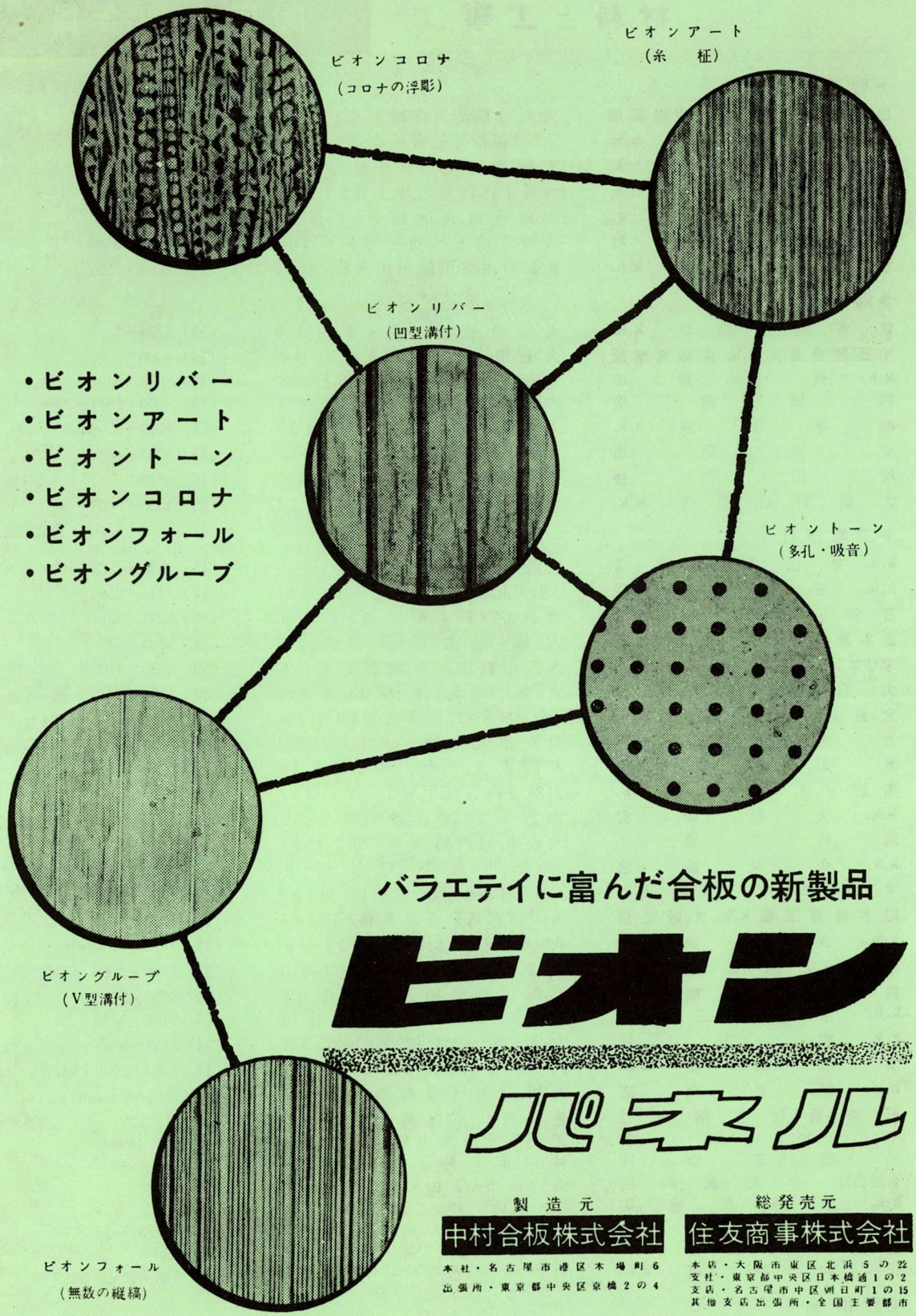
日本建設興業k.k.	大阪市東区北浜4丁目19	(23) 2771～2
中西瀝青産業k.k. 大阪営業所	大阪市北区老松町2丁目7	(34) 4305
k.k. 長野商店	大阪市北区中之島6丁目8	(44) 853・5196
内田商会	大阪市北区万才町47	(36) 900・2841・2966
梅本石油k.k.	大阪市西区新町北通1丁目52	(53) 9515～6・9585
前田商店	大阪市西区江戸堀北通5丁目35	(44) 5223～4
枝松商会	大阪市北区道本町41	(34) 8643
大阪朝日瀝青k.k.	大阪市西区南堀江一番町14	(53) 4520・8401

▶工事業社

k.k. 井上浄夫商店	大阪市西区江戸堀下通1丁目7	(44) 3520・4564
k.k. 石田建材店	大阪市東淀川区元今里北通1丁目31	(37) 3340・3505
日新工業k.k. 大阪支店	大阪市西区新町北通1丁目40	(53) 5281～3
日本瀝青工業k.k. 大阪営業所	大阪市北区富田町40	(34) 1804
オリエンタルアスファルト工業k.k.	大阪市浪速区幸町通2丁目1	(53) 4050・4190
大阪耐酸工業所	大阪市北区浮田町82	(37) 1333
大島応用化学工業k.k.	大阪市城東区野江東之町4丁目104	(33) 3679・4481・8471
カナヱ商店	大阪市北区空心町1丁目30	(35) 2922
米田工業所	大阪市天王寺区南玉造町43	(75) 7271
高野アスファルトk.k.	大阪市西区江戸堀上通2丁目42	(44) 2148・4164
k.k. 大和商会	大阪市南区高津四番丁73	(64) 1588・1905
内外工業k.k.	大阪市阿倍野区旭町1丁目51	(64) 3434～6
k.k. 久保商店	大阪市北区真砂町5	(34) 207～8・4836～7
マルヱス工業k.k.	大阪市福島区上福島南通1丁目152	(45) 2360・2030
松本瀝青工業k.k. 大阪支店	大阪市都島区都島本通7丁目45	(34) 4230
k.k. 双葉商会	大阪市東淀川区木川西ノ町2丁目6	(37) 3375
旭化工板製造k.k.	大阪市北区茶屋町38	(37) 1746・5068・8743
共栄瀝青工業k.k.	大阪市東区船越町2丁目34	(94) 4255・5727
k.k. 木下謹三商店	大阪市西区江戸堀南通5丁目35	(44) 5408・5486
k.k. 明正社	大阪市北区樋ノ上町45	(34) 8157～9
清水興業k.k.	大阪市北区鶴野町34	(37) 1383・2933・9377
k.k. 新光商店	大阪市南区塩町通2丁目13	(26) 7195～7・4464
石井建材有限会社	神戸市兵庫区荒田町1丁目	湊川（5）2697
中出商会	神戸市兵庫区上沢通6丁目9	湊川（5）4630
三信工業所	神戸市兵庫区神田町439	元町（4）6930
有限会社 小野甚商店	岡山市内山下30ノ10	（2）4272
k.k. 浜原豊商店	尾道市若宮町	尾道 2760
青盛建材k.k.	広島市鉄砲町108	中（2）2881～2
古市断熱工業k.k.	高松市天神前220	高松 4239
正和商事k.k.	松山市一番町	松山 525・1159・2159

▶賛助会員

丸善石油k.k.	大阪市南区長堀橋筋3丁目	(27) 1251(代)



- ビオンリバー
- ビオンアート
- ビオントーン
- ビオンコロナ
- ビオンフォール
- ビオングルーブ

バラエテイに富んだ合板の新製品

ビオン

パネル

製造元

中村合板株式会社

本社・名古屋市港区木場町6
出張所・東京都中央区京橋2の4

総発売元

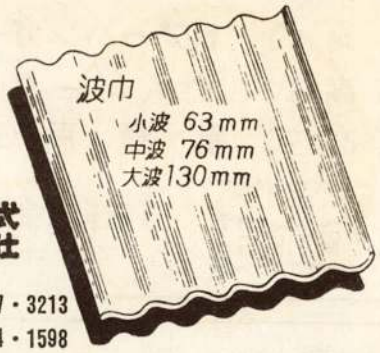
住友商事株式会社

本店・大阪市東区北浜5の22
支社・東京都中央区日本橋通1の2
支店・名古屋市中区丸日町1の15
其他支店出張所・全国主要都市

光り 波型ガラス

ワイニチライト

ポリエステル樹脂
硝子繊維強化板
6尺×2尺4寸(波型)



製造元 **大日本硝子工業株式会社**

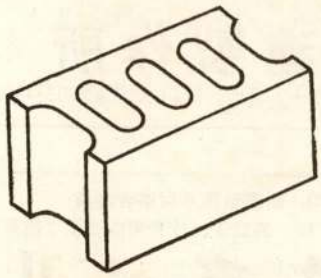
大阪支店 大阪市北区玉江町2～4（三菱倉庫ビル）電話土佐堀㊹1597・3213
本　　社 東京都中央区銀座7～3（朝 日 ビ ル）電話銀 座㊸2324・1598

N. G. C式

セルコンインシュライト断熱材関西総販売店
メタリヤンミツシユD. M 38番責任施工
米国パブココンパウンドアスファルト販売

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルトモルタル工事

内外工業株式会社
脇 山 静 夫
大阪市阿倍野区旭町一ノ五一
電話 ㊸ 3434～6



M.K.三国ブロック

製造販売 **三国コンクリート工業株式会社**
本社 大阪市北区梅ケ枝町50 電話㊸9187・9188番
工場 大阪市住吉区北加賀屋町3丁目3番地 電話㊼4464番

構 造 計 算
特殊構造設計

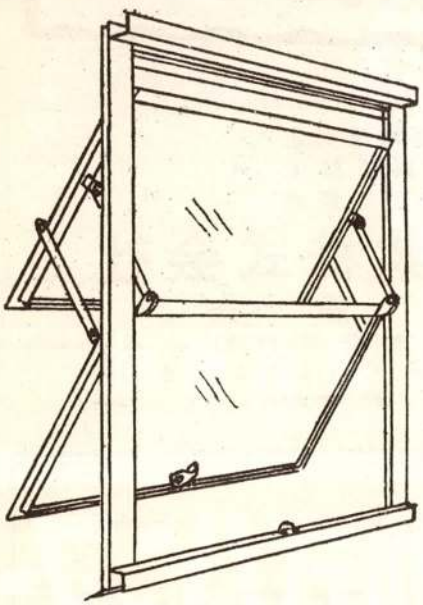
平田建築構造設計事務所

所長 平 田 定 男
大阪市東淀川区三津屋南通一丁目三十九番地 TEL ㊲5403

三高式　ドアーハンガー　　スチールサツシュ
三高式　オペレーター　　スチールドアー
三高式　重量戸車　　スチールシヤッター

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社　三高製作所
本社工場　大阪市東区谷町五丁目二八　電話東㊾2969・0444



一般製品　スチール　サツシユ
スチール　シヤツター
スチール　ドアー

独特製品　汎建型上下げ窓
双脚の四面が摺り合され自然に気密度が高い。
神高型竪形辷出し窓
両開きや片開きに代る堅牢で耐久な構造。
連動突出し辷出し窓
辷出しと上釣りとが完全に平衡連結され操作軽快、開閉確実、体裁優秀な新型。
遞増減分鋼付きシヤツター
大型シヤツターも軽くはやく開閉出来る。

新規製品　普及型上吊り引違い窓
質実堅牢で最も廉価・校舎宿舎などに最適

合資会社　汎建製作所
大阪市此花区恩貴島北之町十一番地　電話　此花㊽2903・4461

鉄材が少くてすみ施工簡易な格納庫・工場・体育館の建築には
"ORIMOTO" DIAMOND TRUSS

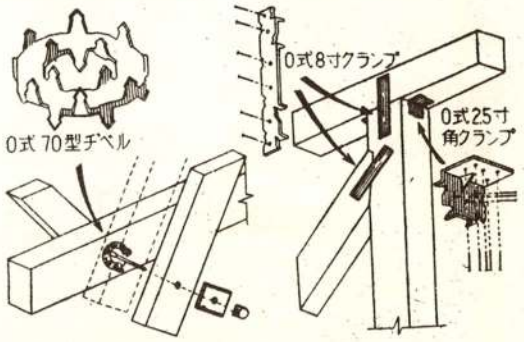


設計の御依頼に応じます（施工は御自由です）
カタログ及び設計参考資料贈呈

考案　織本建築設計計算事務所

官公庁御採用　耐震耐風木材接合金具
住宅、工場、学校、集会場、体育館にまた２階梁に

PAT O式ヂベル
PAT O式クランプ



販売　織本特殊構造研究所
東京都中央区日本橋兜町3〜2（水天宮交叉点角）TPL（67）6443・7007・7062

黄綬褒章受賞

特許 奥山式熱工法冷工法 綜合防水層

カッパー防水帯

C.F #38

COPPER-BOSUITAI
OAM
TRADE・MARK

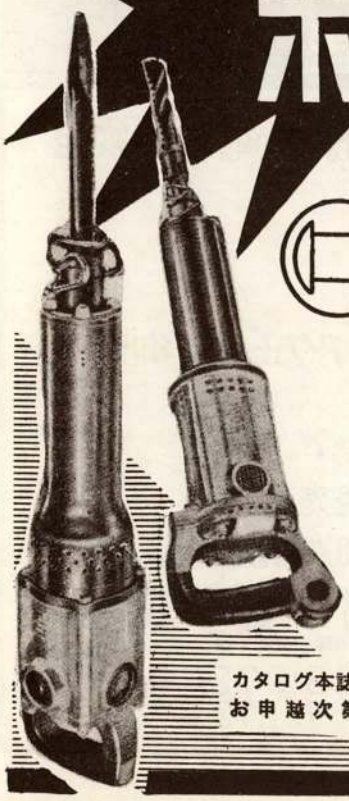
カッパーメッシュ
コーパータイト

耐酸耐油工事
アスファルト工事一般

製造元 奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西8丁目3番地 ・ 電話 銀座 (57) 2703－4・2370・4064・0264

ボッシュ電動式ハンマー



カタログ本誌名記入
お申越次第進呈

強力・堅牢・高能率

穿孔・削切兼用・(電灯線使用)

コンクリートの穿孔，削切
目粗しに高性能を発揮します。

独乙ロバート・ボッシュ会社製
日本総代理店

株式会社 峰岸商店

大阪出張所
大阪市西区江戸堀上通1丁目8番地
電話 土佐堀 ㊹ 2181

特殊壁材製造並
右官材料專門卸

セメント防水剤は世界的水準を行く
JIS合格品の御使用を!!



シンケン
防水剤・急結剤

近代建築の和洋室内壁は
防音・保温・落ちぬ・趣味豊かな塗壁材

いすゞかべ

劇場・洋室・学校講堂・公会堂等の内壁には防音・保温の(塗り着けるテックス)

チェリーウオール

(新発売) 純日本趣味の塗り良い優雅な壁

錦　壁

セメント・石灰・プラスターの着色剤は純鉱物性・絶対不変色

チェリーカラー

セメントの(アク)で御困りの場合は

シンケン
セメント・アク止剤の御使用を

水溶性特殊接着剤シンケン糊・桜印酸化黄・
ラスヒゲコ・末広布連・其他特殊材料発売元

(型録御通知次第御送附致シマス)

株式會社新興建材工業所

大阪市西区四ツ橋・電話新町(53)1988・9720番
工場　大阪市住吉区東長居町36・電話住吉(67) 212番

color conditioning for flooring

三星アスファルトタイル

カタログ・見本 御申込
次第お送り致します。

責任施工代理店（順不同）

〔近　畿〕

三友工業株式会社
大阪営業所
大阪市東成区大今里町655
大阪セルロイド会館内
電話 南㉕8031～4

合名会社 **利倉幸商店**
大阪市南区長堀橋筋2ノ20
（日本橋電停前）
電話 南㉕471・472
京都出張所
京都市中京区河原町夷川下ル
電話 ③3299

株式会社
木下謹三商店
大阪市西区江戸堀南通5ノ35
電話土佐堀㊹5408・5486

株式会社
久保商店
大阪市北区真砂町5
電話大阪㉞207・4836～7

タテバヤシ商店
京都市上京区大宮通四条下ル
電話 壬生㉞4468

石井建材有限会社
神戸市兵庫区荒田町1
電話 湊川⑤2697・2140

〔中国・九州〕

青盛建材株式会社
広島市鉄砲町108
電話 中②2281～3

青盛建材岡山営業所
岡山市東田町3
電話②7911・8169

青盛建材福岡営業所
福岡市萬行寺前町14
電話 東③1225～6

〔東　海〕

株式会社
名建商会
名古屋市中区宮出町41ノ2
電話中㉔1329・2106・2817

合資会社
岡田建材店
名古屋市西区西菊井町2ノ12
電話 西㊺0121・2057

【専属の職人養成並指導】
和泉産業
大阪市南区日本橋筋2ノ36
電話 戎㊹3286

関西三星タイル会

PABCO GRIP-DEK

床には
パブコ
グリップ デック

滑り止・軽量・耐火・防蝕の特質があり
木，鉄，コンクリートに完全密着するマスチック・フローリングです
主なる用途　化学工場床・船舶甲板・プラットホーム・廊下・その他何れの床にも耐久性で調和のとれた色彩に応じられます

TRADE MARK
PABCO

耐酸化学工業株式会社
大阪市北区高垣町80　電話大阪㊱0178・4161(代)

(説明書呈上)

浪建式

スチールサッシュ・ドアー
シッヤター・オペレーター
— 製造販売 —

日満ゴムタイル
全国総代理店
責任施工

大正十四年
創　業
浪速建材工業株式會社

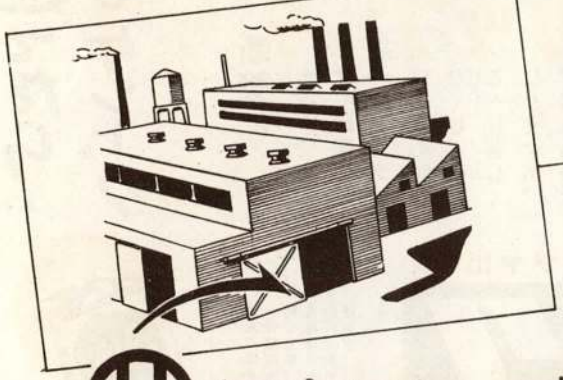
本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地　電話城東㉝1171～3番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目木挽館ビル六号館607号室　電話東京㊿4611
福岡営業所・福岡市天神町三番地(サンビル内)　電話福岡④8462番
出張所・大分市栄町下市三一七番地　電話大分1366番

自動扉開閉装置

開けゴマ　扉の前に立つと自動的に扉が開く
マジックドアー　カタログ進呈

エコノマチック
ドアーエンジン(空気式)

一般工場向の強力な空気式ドアーエンジンで制御方式は押ボタン式、引張りスイッチ式、踏板式等種々の形式があります。
工場内輸送の合理化、冷蔵房の効率保持等のため是非御利用下さい。



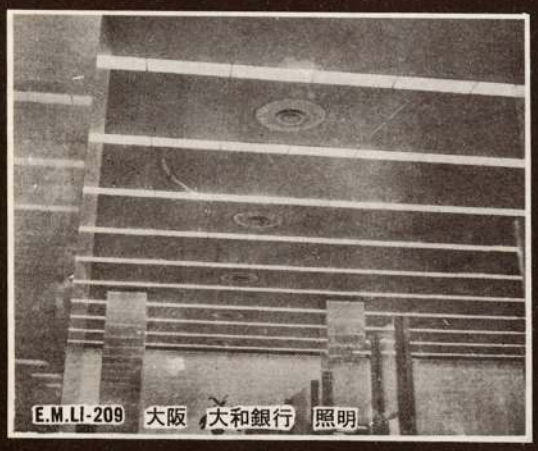


スーパーマチック
ドアーエンジン(油圧式)

百貨店、銀行、病院、ホテルその他一般ビルデイングの出入口ドアーの自動開閉装置であります。ドアーの前に立つと自動的に開き、通り過ぎた後自動的に閉ぢます。一般電灯線に接続して使用出来ます。

日本エヤーブレーキ株式会社

本社・工場　神戸市葺合区脇浜町三丁目二〇五八　TEL②1515～1519
東京事務所　東京都中央区日本橋通三丁目二(広瀬ビル4階)　TEL㉗6535～6536



近代建築の寵児

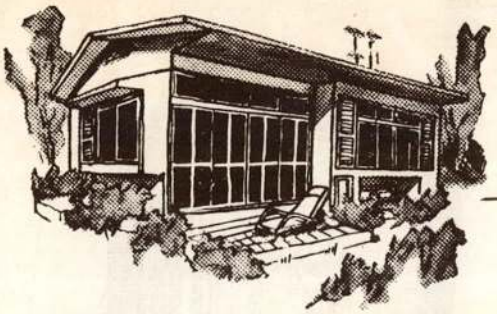
アクリライト

最高の透明度
永遠の耐候性
卓絶した光学的特性

代理店	
石倉樹脂	大阪合成樹脂
日プラ貿易	光合成樹脂
田中商店	合田和本店
第一商工	辺硝子
寿板硝子	添硝子
新興プラ	庭硝子
寿原商店	野崎硝子
岡谷鋼機	三桑硝子
内田硝子	渡川硝子
富士光	大越硝子

三菱レイヨン

東京都中央区京橋2—8　電話㉙5551—63
大阪市東区今橋4—1　電話㉓3231—5
名古屋市中区桜町2—5　電話⑨4355—7



家を建てたら・・
ツヤ出しケントク

板の間・廊下に

新築に

水拭きではすぐに黒ずみニス・ラッカは白木の味をなくし、はげると見苦しくなりますが、すべらぬ白木艶出ケントクを月に一～二回ぬりこめば毎日はカラ拭きで新築そのまゝの美しさを保ちます。



板の間廊下のすべらぬ白木ツヤ出し

ケントク

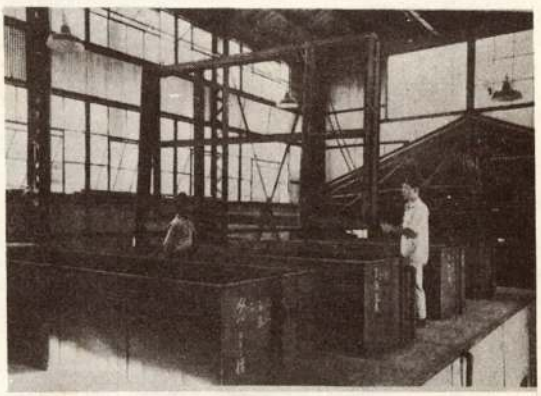
白木液体ケントク一升罐四九〇円で約十五坪、丸罐半ポンド二九〇円で約五坪みがけます



大阪市東淀川区新高南通1—14　KKケントク　電話㊲3416・1668

サッシュ

ドアー
シャッター
オペレーター



当社パーカーライジング工場の一部

大阪建材工業株式會社

営業所　大阪市南区九郎右衛門町二一　電話南（75）507・3137・3138
堺工場　堺市松屋町一丁六番地　電話堺(102) 1586・4800・4801
泉尾工場　大阪市大正区泉尾浜通リ四ノ六一番地　電話泉尾（55）223
出張所　名古屋・金沢

紫綬褒章に輝く

特許 特マノール防水剤

特許マノール急結剤　特許マノール接着剤

新日本メタルホームKK推奨品

責任・施工・請負

株式会社 油脂化工社

取締役社長　矢中龍太郎

本　　社　東京都品川区二葉町1—441　電話伊原㈹1715

大阪営業所　大阪市城東区中本町529　電話 東 ㈹4765

新しい建築に……最も新しい材料を

ガラス繊維の理想的スクリーン

レックスネット

用途　防虫網・屏風・衝立・間仕切
製版用網・化学濾過用

Lexnet

製造元

日東紡績株式会社

☆カタログ御入用の方は御一報下さい



ガラス繊維を基材とした強化プラスチック建材

グラスライト

用途　採光板・日除け・移動スクリーン・天井板・腰張り・商品陳列棚
装飾用板・化学工場用壁及窓材



Glaslite

販売特約店

三和商工株式会社

大阪市東区伏見町4ノ33
電話北浜(23)2456-9・9944

日本建築協会優良證明



セメント増強防水剤

ウォータイトB号

御一報次第型録並仕様書進呈

株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　　社　兵庫県宝塚市高台上の池北28—1　電話宝塚2153
工　　場　尼崎市難波本町1—34　電話大阪(48)8544
名古屋出張所　名古屋市中区春日町16(安藤ビル内)　電話 南 (32)1331

Zola-Coat

米国特許 No.2391904
日本特許（申請） No.3734—52
英国特許 No.760605



関西ペイント

新しい塗料から生まれる新しい環境

コンクリート・モルタル・プラスター・木材・
金属・紙・繊維・皮革・その他あらゆる材料に
深さと魅力を与える高分子多彩塗料

ゾラコート

カタログ御希望の方は大阪市東区伏見町5丁目　当社宣伝課へ

昭和二十四年三月十九日
第三種郵便物認可

昭和三十二年六月二十日印刷
昭和三十二年六月廿五日発行
（毎月廿五日発行）

エハラ・ターボ冷凍機
ねのくちポンプ



株式會社
荏原製作所

画期的アスファルト防水

勾配別で一
アスタイト（特殊アスファルト 100号・85号・80号・75号・25号）使用
年限仕様書進呈
西アス協組責任施工

西日本アスファルト防水事業協同組合

事務所　大阪市東区淡路町2の53
分室　大阪市西区京町堀上通1の14　TEL㊹1773～5

売価一部金百三十円（送料共）